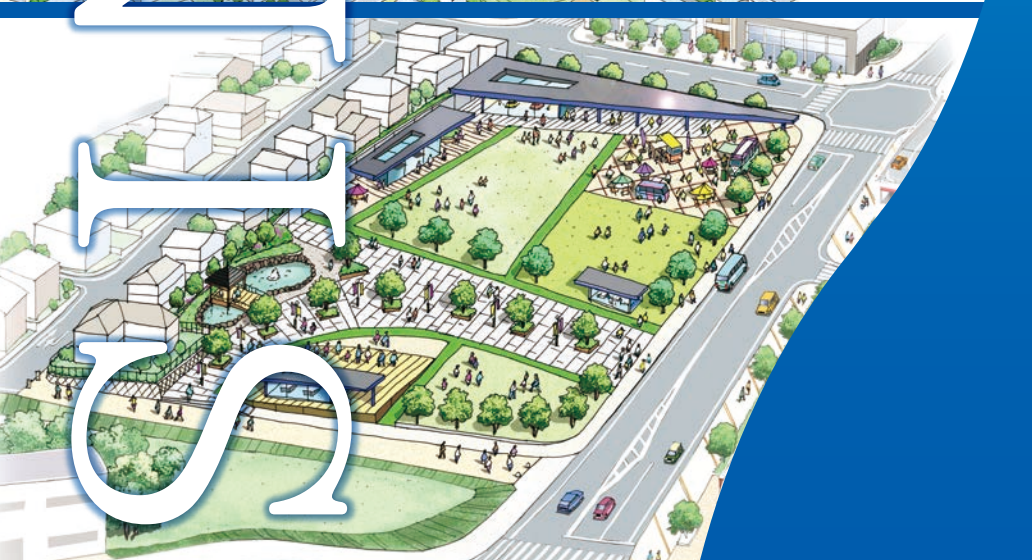
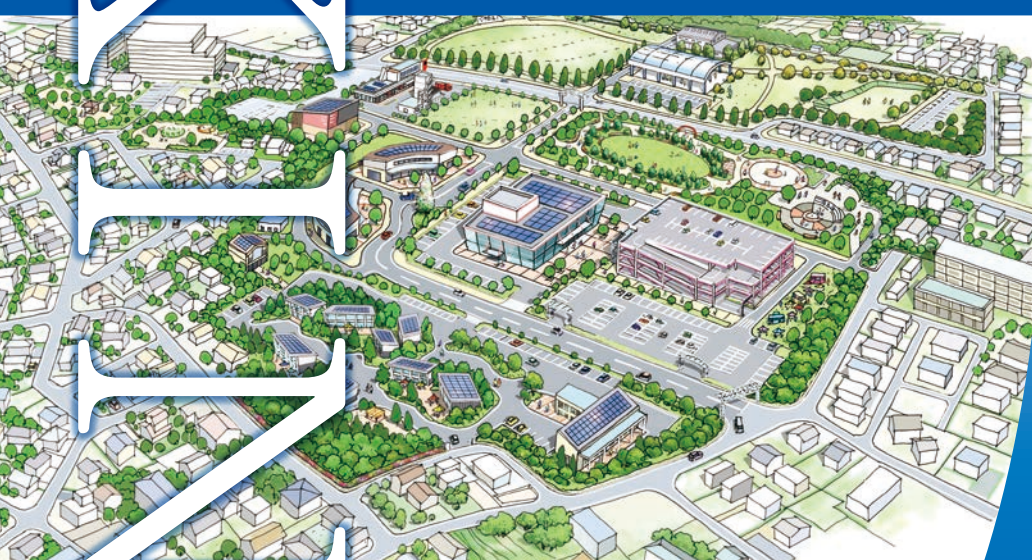


名鉄知多武豊駅西グランドデザイン

人が集い・交流する

夢があふれるみんなのスマートタウン



Grand design on the west side of the station

人が集い・交流する 夢があふれるみんなのスマートタウン

“豊” かさ育む 次世代（ネクスト：NĒcŠT）エリアの創造

N: new/next 先進性

E: ecofriendly 環境・省エネ

C: communication/comfort 人の交流・快適な住環境

S: smart/sustainable/smile/station 知的集積・未来に続くにぎわい、笑顔の交差する駅

T: transport/transform/together 交通利便性、変わりゆく武豊、一緒に

NESTには鳥の巣という意味もあります。

（人が育ち、住み続けられるまち）



目次

第1章 駅西グランドデザインとは	1
1. 計画策定の背景と目的	1
2. 計画の位置づけ	1
3. 上位計画及び主な関連計画等	2
(1) 上位計画	2
(2) 主な関連計画等	7
4. 対象区域	19
第2章 対象区域はどんなまち？	20
1. 対象区域の特徴は？	20
2. 対象区域の課題は？	28
3. アンケート調査ではこんな意見が多くありました！	36
(1) 対象区域住民アンケート調査	36
(2) 駅利用者アンケート調査	36
(3) 武豊中央公園利用者アンケート調査	37
(4) 町全域アンケート調査	37
4. 将来に向けたまちづくりの方向性	38
5. 対象区域におけるまちづくりのキーワード	46
第3章 将来像とまちづくりの目標及び戦略	48
1. 対象区域のまちづくりの意義と将来像	48
2. 駅西グランドデザインのまちづくりの目標	49
3. 駅西グランドデザインのまちづくり戦略	50
4. 駅西グランドデザインのまちづくり構想図	51
第4章 取組方針	58
1. 取組の体系	58
2. 取組方針の整理	62
第5章 計画の実現に向けて	74
1. 官民連携による協働のまちづくりの進め方	74
(1) 名鉄知多武豊駅周辺におけるまちづくり	75
(2) みゆき通り沿道におけるまちづくり	76

(3) 新たな市街地形成に向けたまちづくり	77
(4) 住宅主体の市街地におけるまちづくり	79
(5) 公共施設の充実に向けたまちづくり	79
2. 段階的プロセス（実現に向けたロードマップ）	80

参考資料 83

1. 検討・推進体制	83
2. 進捗管理	83
3. 策定過程	84
4. 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員	85
5. 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会の経緯	86
6. アンケート調査について	87
(1) アンケート調査の実施状況	87
(2) アンケート調査の主な結果概要（まちづくり関連部分を抜粋）	90

次世代を開くまちづくりに向けた挑戦

武豊町の発展の原点は、鉄道と港の歴史とともにあります。

町の発展に大きく貢献することとなる国鉄武豊線(現JR武豊線)は、東海道本線の建設資材の運搬を目的に1886(明治19)年に開通した県下で最も歴史ある路線であります。

また、物流の起点となる荷上げ場として1899(明治32年)には武豊港が、愛知県下初の開港場として指定されたことで、東海道本線沿線の交通の要衝として発展してきました。

そして物流交通主体から近代鉄道交通網へは、1931(昭和6)年に知多鉄道(現名古屋鉄道)が開通し、知多武豊駅が開設されたことで、新たなまちの中心市街地が知多武豊駅周辺に形成されました。

1954(昭和29)年に旧武豊町と富貴村の合併により現在の武豊町が形づくられ、1962(昭和37年)に、現在の場所に庁舎が移転され、知多武豊駅周辺は都市機能の集約された、にぎわいあふれる町の中心地としてこれまで発展してまいりました。

しかしながら時代の趨勢に伴い、生活スタイルの多様化等から近年では、購買力の郊外への流出が進み、従来から商店街を形成してきた「みゆき通り」では、空き店舗が増え、中心市街地としての魅力の減退が顕在化してきております。

さらには、名鉄知多武豊駅の駅前広場の整備の推進や周辺の一方通行の改善、また、点在する未利用地の利活用の検討、そして同時期に建設された公共施設の老朽化への対応等、課題は多岐にわたっております。

こうした背景の中、まちを取り巻く社会経済情勢の大きな変化に対応するため、令和3年度を始期とする第6次武豊町総合計画及び都市計画マスタープランを策定致しました。それらに基づく新たなまちづくりの指針として、概ね20年先を見据えた長期ビジョンである名鉄知多武豊駅西グランドデザイン(以下、駅西グランドデザインという。)を策定致しました。

駅西グランドデザインは、名鉄知多武豊駅からJR武豊駅にかけての商業・サービス・住居等の機能が整う都市拠点及び、公共施設や公園・緑地等が充実する公共交流拠点の形成を目指す武豊中央公園周辺を含む範囲を一体でとらえ、多様化する課題を整理した取組方針を推進するものであります。

加えて、新たな時代の潮流としてのゼロカーボンシティ宣言による、低炭素社会の実現やウォークアブルシティ等も取り入れ、まち全体を牽引していくものであり、町が未来に向かって発展し続けていくための転換期となる大変重要な計画であります。

町民や町に関係するすべての皆様と未来のまちのビジョンを共有しながら未来の子ども達が、将来にわたって住みたいと感じられる町となるよう、その実現に全力で取り組んでまいります。

最後に、駅西グランドデザインの策定にあたり、ご尽力いただきました、策定委員会の委員やオブザーバーの皆様を始め、アンケート等貴重なご意見を頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

今後とも、武豊町の持続的な発展のために、より一層のご理解とご協力を頂きますようお願い致します。



2023(令和5)年3月

武豊町長

吉田芳輝

第1章 駅西グランドデザインとは

1. 計画策定の背景と目的

対象区域はこんなまち？

本町は、人口減少や少子高齢化の進行、防災減災対策の重要性の高まり等、社会潮流やまちを取り巻く社会経済情勢の大きな変化に対応するため、2021（令和3）年度を始期とする第6次武豊町総合計画及び武豊町都市計画マスタープランを策定し、その中で名鉄知多武豊駅周辺とJR武豊駅をつなぐ一帯を「都市拠点^{※1}」、武豊中央公園周辺を「公共交流拠点^{※2}」と位置づけています。

この「都市拠点^{※1}」と「公共交流拠点^{※2}」を一体的な一つの拠点としてとらえ、対象区域の具体的なまちづくりの方向性を明らかにするため、社会経済情勢の変化や地域の現状と課題、住民ニーズ等を踏まえながら、概ね20年先を見据えた長期ビジョンとして名鉄知多武豊駅西グランドデザイン（以下、駅西グランドデザインという。）を策定しました。駅西グランドデザインの取組で新たな人の交流をまち全体に波及させることは、武豊町人口ビジョンの将来人口の目標「2060年まで40,000人の維持」に向けたまちづくりにおいても重要な位置づけとなります。

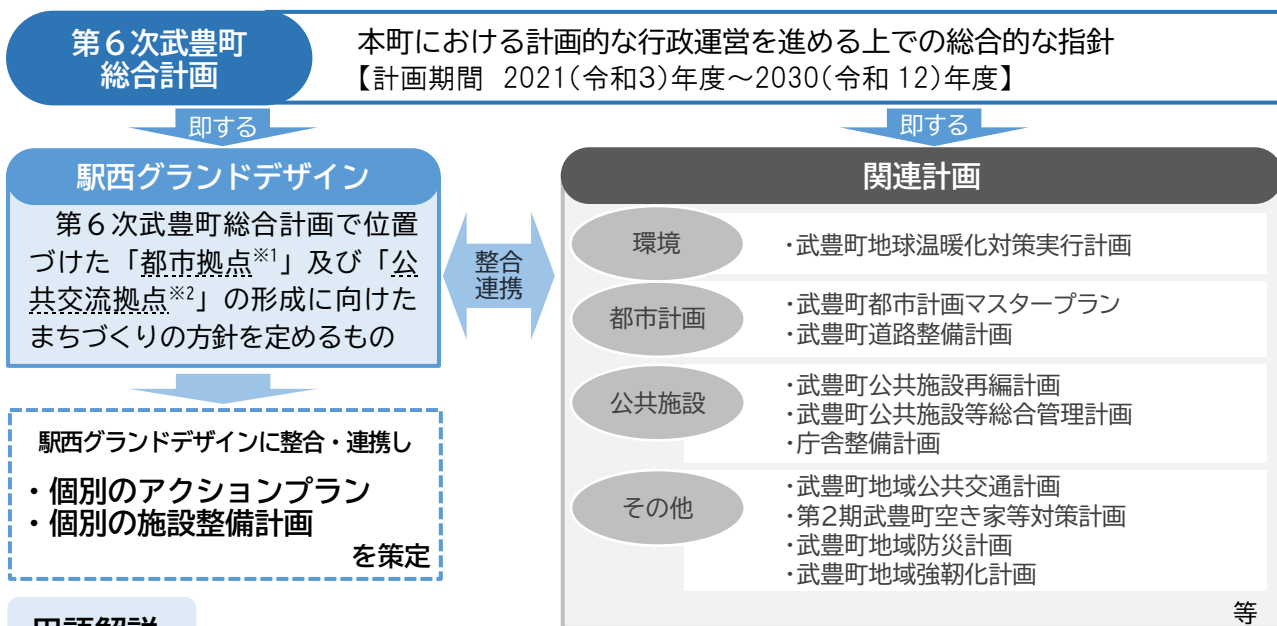
駅西グランドデザインでは、対象区域において住民等の共感を得られる将来像を描き、まちづくりの目標と実現に向けた取組方針を明らかにし、新たなまちづくりを住民等とともに戦略的に展開していくためのロードマップ等も明らかにしています。

将来像とまちづくりの目標及び戦略

2. 計画の位置づけ

取組方針

駅西グランドデザインは、第6次武豊町総合計画に位置づけた「都市拠点^{※1}」及び「公共交流拠点^{※2}」の形成に向けた具体的なまちづくりの方針を関連計画と整合・連携し定めるものです。



計画の実現に向けて

用語解説

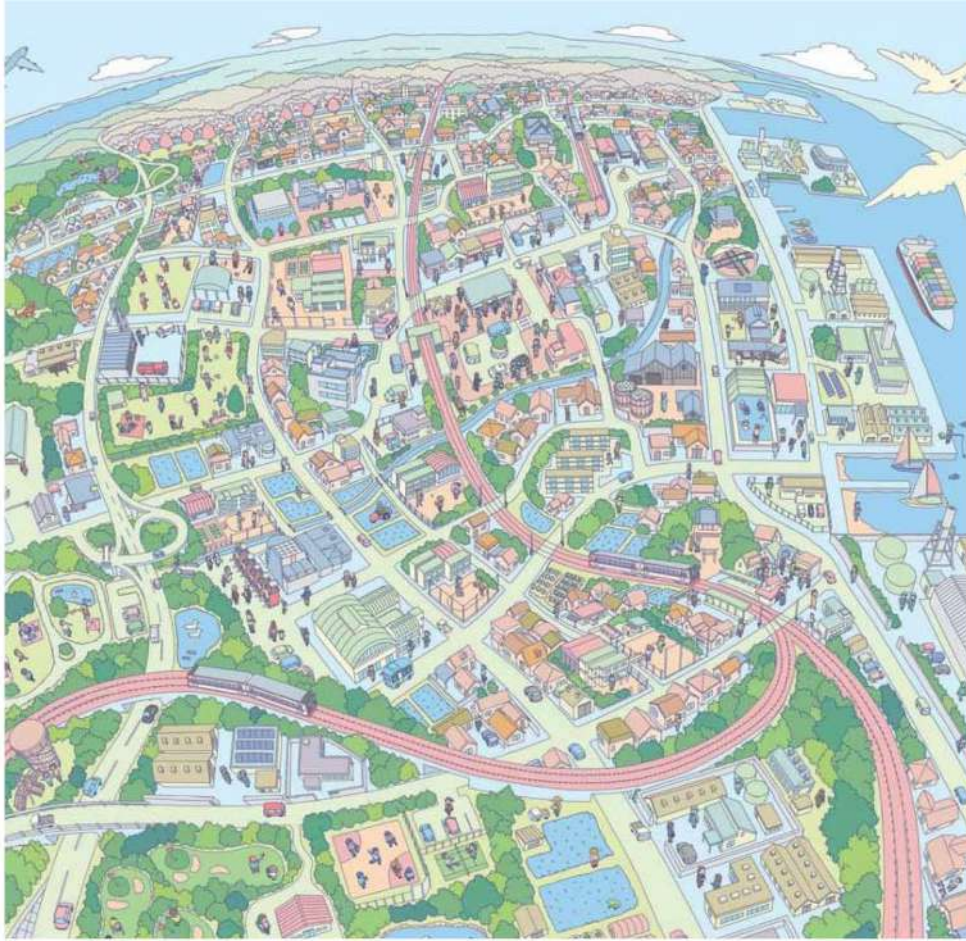
- ※1 都市拠点：名鉄知多武豊駅とJR武豊駅、2つの駅をつなぐ一帯における、まちの中心として商業・サービス・住居等の機能が整い、住民や来訪者にとって魅力ある拠点のことです。
- ※2 公共交流拠点：ふれあいの場等として、様々な住民が意欲的に交流し、関わりながら、公共施設や公園・緑地等が充実するまちづくりを目指す拠点のことです。

3. 上位計画及び主な関連計画等

(1) 上位計画

第6次武豊町総合計画（本計画と関連する部分を抜粋、該当部分は下線で示す）

第6次武豊町総合計画は、あらゆる分野の計画の基本となる行政運営の最上位計画で、町が目指すべき将来像ならびにそれを実現していくための施策方針を定めた計画です。駅西グランドデザインでは土地利用構想において位置づけられた都市拠点^{*1}及び公共交流拠点^{*2}の具体的なまちづくりに向けた取組方針を示します。



2021
to
未来のまちへ

この未来予想図は、
いまから10年以上先の、
未来のまちの姿をイメージし
描いたものです。

心つながり
みんなで作る
スマイルタウン

この将来像の実現のために、
これから武豊町がどんなまちを目指し、
どのようにまちづくりを進めていくのか。
まちの未来をみんなで考え、
ともにつくっていきましょう。

まちの将来像	心つながり みんなで作る スマイルタウン
まちづくりの目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 定住先として選択されるまち 2 安心して子どもを産み育てることができるまち 3 楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち 4 人と人がつながり、互いに支え合い、健康で安心して暮らせるまち 5 災害に強く、安全・安心に暮らせるまち 6 産業が持続・発展する活力のあるまち 7 環境にやさしいまち 8 多様な主体が連携・協働するまち 9 効率的で効果的な行政運営のまち

対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

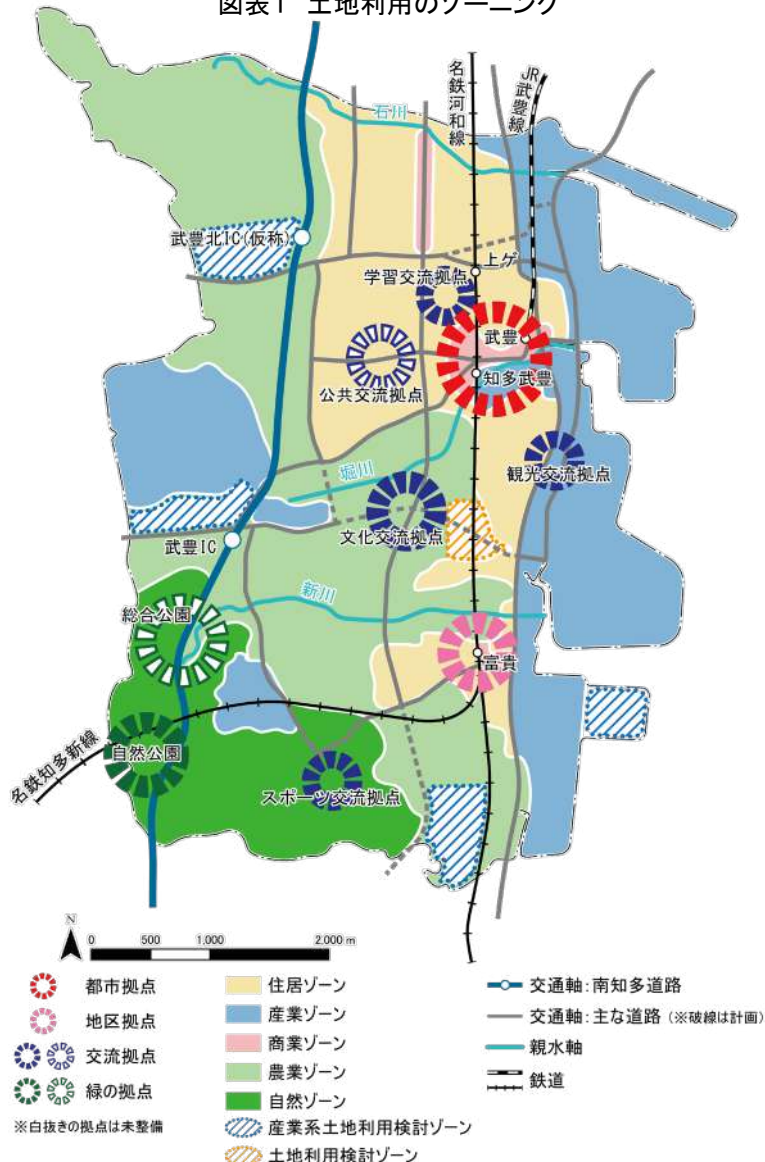
取組方針

計画の実現に向けて

土地利用構想

<拠点形成の方針>

図表1 土地利用のゾーニング



都市拠点※1 名鉄知多武豊駅とJR武豊駅、2つの駅をつなぐ一帯を本町の都市構造における中心的な核である都市拠点※1に位置づけます。都市拠点※1では、まちの中心として商業・サービス・住居等の機能が整い、住民や来訪者に魅力ある拠点形成を進めます。

交流拠点 都市拠点※1に近接し、今後、公共公益施設の集積の可能性を検討していく武豊中央公園周辺を始め、文化、生涯学習、憩い、ふれあいの場等として、住民が活発に交流し、意欲的に活動できるよう、次のような拠点形成を進めます。

- ・ 公共交流拠点※2：武豊中央公園周辺
- ・ 学習交流拠点※3：中央公民館、図書館、歴史民俗資料館 等
- ・ 文化交流拠点：町民会館、総合体育館 等
- ・ 観光交流拠点：地域交流施設、屋内温水プール 等
- ・ スポーツ交流拠点：運動公園 等

用語解説

※1 都市拠点：1頁参照、※2 公共交流拠点：1頁参照

※3 学習交流拠点：文化、生涯学習の場等として、様々な住民が意欲的に交流し、関わりながら、中央公民館、図書館等の公共施設が充実するまちづくりを目指す拠点の事です。

重点施策方針

1. 住みよいかから、住みたいまちへ

・まちの良さ・魅力の発掘、積極的な情報発信、雇用確保、定住のための良好な環境整備等を戦略的に展開し、“住みたい”といわれるまちを目指します。

**2. 子どもの学び・育ちを応援するまちへ**

・学校はもとより地域の人々や団体が協力して、子どもたちが色々なことに挑戦し、学び、育つ環境づくりを進めるとともに、子育て・子育てをサポートする体制の充実を図ることによって、若者や子育て世代にとって魅力あるまちを目指します。

**3. みんなが元気に活動・活躍するまちへ**

・老若男女すべての住民が楽しみながら、社会の一員としての役割を担い、様々な場面でいきいきと活動・活躍できるまちづくりを目指します。



分野別計画

分野1 都市環境**1-1 市街地・住環境****■ 駅周辺にふさわしいまちづくり**

- ・ 名鉄知多武豊駅周辺の面的な都市基盤整備による周辺交通網の再構築や公共機能の移転検討等、駅前にふさわしいまちづくりを進めます。
- ・ 住民、地域、団体、NPO、企業との協働や、公共空間の利活用等によるにぎわいづくりを進めます。
- ・ 鉄道、バス等の公共交通の利便性を活かしたまちなか居住や商業機能等の立地誘導を目指します。

■ 景観を活かしたまちづくり

- ・ 名鉄知多武豊駅周辺をまちの顔にふさわしい景観の整備を進めます。

1-2 交通基盤**■ 駅前広場の整備**

- ・ 名鉄知多武豊駅東側の駅前広場の整備を行います。
- ・ 名鉄知多武豊駅西側の駅前広場の整備の検討を行います。

■ 公共交通の充実

- ・ 主に高齢者の交通利便性向上を図るため、鉄道駅・買い物・病院・公共施設を中心としたコミュニティバス路線等の地域公共交通網の整備を行います。

分野5 安全・安心**5-1 防災****■ 災害に強い基盤の構築**

- ・ 道路ネットワークの整備及び強化を進めるとともに、無電柱化の検討を進めます。
- ・ 防災機能を備えた施設の整備を進めます。

5-2 防犯・交通安全**■ 歩行者や自転車の安全確保**

- ・ 主要な歩行者動線となる道路については、自転車歩行者道の確保、段差の解消によるバリアフリー化、交差点改良等の道路の整備・改良を計画的に進めます。

分野6 産業・交流**6-2 観光・交流****■ 駅周辺の魅力向上**

- ・ 名鉄知多武豊駅周辺への店舗の立地誘導、駅東の町有地の有効活用等により、にぎわいづくりを促します。
- ・ 名鉄知多武豊駅とJR武豊駅間において、現在行われているイベント等も含め、商業団体や地域と連携したにぎわいを創出できる催事等の開催を検討します。

■ 地域交流施設周辺の魅力向上

- ・ 駅周辺のサイン看板の設置等、地域交流施設を拠点として、みそ蔵や神社仏閣、JR武豊駅周辺の回遊性を高め、活性化を推進します。
- ・ 大足・里中地区を中心とするみそ蔵のあるまちなみを保存し、魅力ある景観の活用により誘客を図ります。

分野7 環境

7-1 自然環境

■地球温暖化対策の推進

- ・低炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラル^{※4}を目指し、町取組として、広報紙・ホームページでの地球環境にやさしい行動の啓発、公共施設更新時の太陽光発電施設の導入や公用車更新時に低燃費車の導入に努める等、地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの削減を推進します。

分野8 まちづくり・地域経営

8-1 住民活動・地域活動(住民協働)

■まちづくりの新たな担い手の発掘・育成

- ・まちづくりに参画できる機会を増やすとともに、周知・募集方法等の改善に努めます。
- ・住民や町職員が協働のまちづくりについて理解を深めるため、研修等の学習の機会を充実します。

■多様な主体による地域活動の活性化

- ・NPO、住民団体、企業と行政のパートナーシップ(協力関係)の構築を進め、地域の課題解決、住民サービスの向上を図ります。
- ・地域が抱える課題に対し、住民と行政が一体になって課題を解決する活動を推進します。
- ・地域住民の交流参加と連帯感の醸成を目的とし、住民が主体となって取り組む活動を支援します。
- ・シニア世代が地域に携わり、新たな生きがいを持って活躍できる仕組みを検討します。

8-3 タウンプロモーション

■町外へ向けたまちの魅力発信

- ・町外在住者をターゲットに、名古屋市中心部までのアクセスの良さ等まちの暮らしやすさをアピールし、移住・定住の促進を図ります。

■シビックプライド^{※5}の醸成

- ・自分たちが生まれ育ったまちに誇りと愛着を持ってもらえるよう、子どもたちがまちの魅力を学ぶ機会の充実を図ります。
- ・参加者の交流や触れ合いを深め、まちへの愛着を醸成してもらえるよう、誰もが気軽に参加できるイベントの充実を図ります。
- ・関係機関と連携し、地域の特産物や地域資源、歴史的資源を活用した地域活性化の取組・活動を推進します。
- ・公園、河川、花壇等、住民や地元企業等の参加によるアダプトプログラム^{※6}の促進を図ります。

用語解説

※4 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを指します。

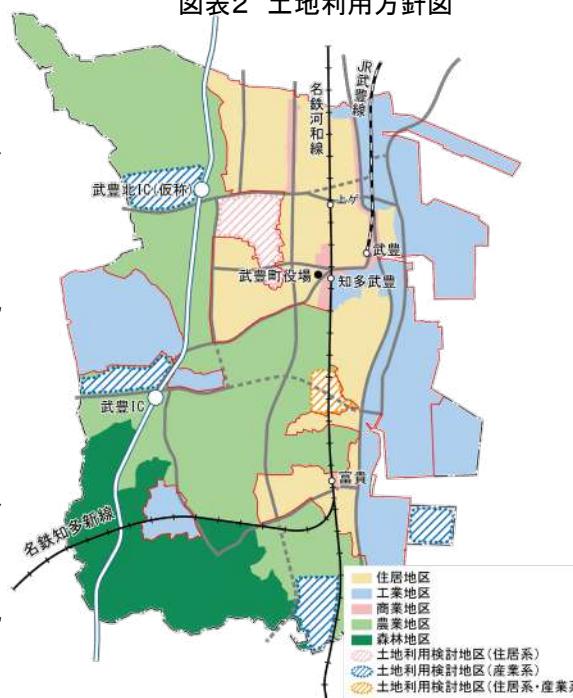
※5 シビックプライド：「シビック（市民の／都市の）」と「プライド（誇り）」を合わせた言葉で「都市に対する住民の誇り」のことです。

※6 アダプトプログラム：アダプトとは養子という意味で、住民、企業、団体等が公園や広場等の公共施設の里親となり、その維持管理を担ってもらうというものです。

(2) 主な関連計画等 (本計画と関連する部分は下線で示す)

① 武豊町都市計画マスタープラン

武豊町都市計画マスタープランは、本町の都市計画に関する総合的な指針として都市構造の将来ビジョンの実現に向け、土地利用を始めとする都市づくりの方針を示す計画です。

<p>都市づくりの基本方向</p>	<p>基本方向① 便利で暮らし続けられる持続可能な都市づくり 基本方向② 活力・にぎわいを創出する都市づくり 基本方向③ 安全・安心な都市づくり</p>
<p>都市づくりの目標</p>	<p>目標① 知多半島で快適に生活できる住宅都市 目標② 豊かな自然環境と共生する環境共生都市 目標③ 都市の活力・にぎわいを生み出す産業交流都市 目標④ 災害に強い防災都市</p>
<p>分野別の方針</p>	<p><土地利用の方針></p> <p>住居地区 これまで住宅を主体とした市街地を形成してきた地区や今後計画的に住宅地を形成していく地区を住居地区に位置づけ、快適な居住環境を有する住宅地の形成を図ります。</p> <p>商業地区 多くの住民や来訪者が集まる鉄道駅周辺や幹線道路沿道を商業地区に位置づけ、商業施設・業務施設が多く立地する商業地の形成を図ります。</p> <p>○<u>名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺の都市拠点※1は、商業・サービスといった第3次産業の機能を強化するとともに、これら機能を支えるまちなか居住を促進し、本町の中心としてふさわしい土地利用の誘導を図ります。</u></p> <p>土地利用検討地区</p> <p>○<u>都市拠点※1に近接する武豊中央公園及びその周辺における計画的に市街地形成を誘導する地区では、地区の特性に応じつつ、若者世代を始めとする多様な世代にとって良好な居住環境の形成を図るとともに、公共機能の移転先として整備を検討します。</u></p> <div style="text-align: right;"> <p>図表2 土地利用方針図</p>  </div>

用語解説

※1 都市拠点：1頁参照

分野別の方針

<都市環境形成の方針>

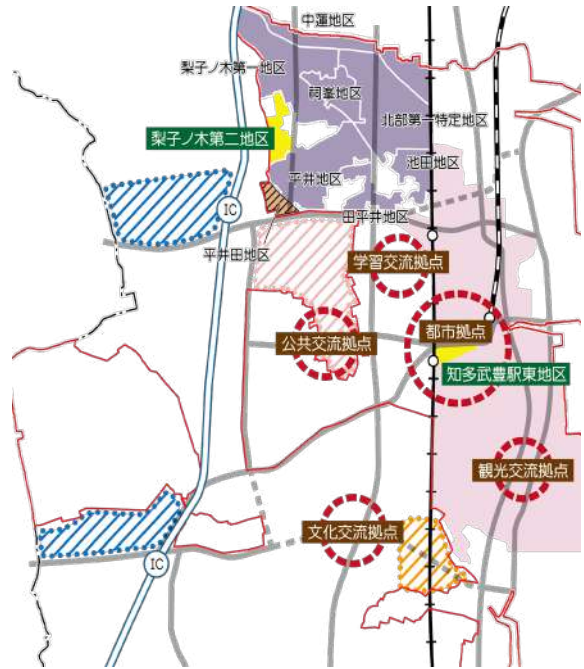
○名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺の都市拠点※1において、町全体の魅力向上につながる商業・サービス・住居等の機能の充実を図り、まちの玄関口※7としてふさわしい、にぎわいのある「まちの顔」づくりを進めます。「まちの顔」づくりにあたっては、駅前町有地の活用を図るとともに、名鉄知多武豊駅西側再編の検討を行います。

<都市景観形成の方針>

○名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺の都市拠点※1を始め、交流拠点や地区拠点※8においては、本町の顔としてふさわしい魅力的な景観形成を進めます。

○拠点間のウォーカブル※9なネットワーク形成にあたっては、歩いてまちを楽しむことができ、自然を感じられるよう、沿道の土地利用に応じた良好な町並みの形成を検討します。

図表3 都市環境形成方針図



図表4 都市景観形成方針図



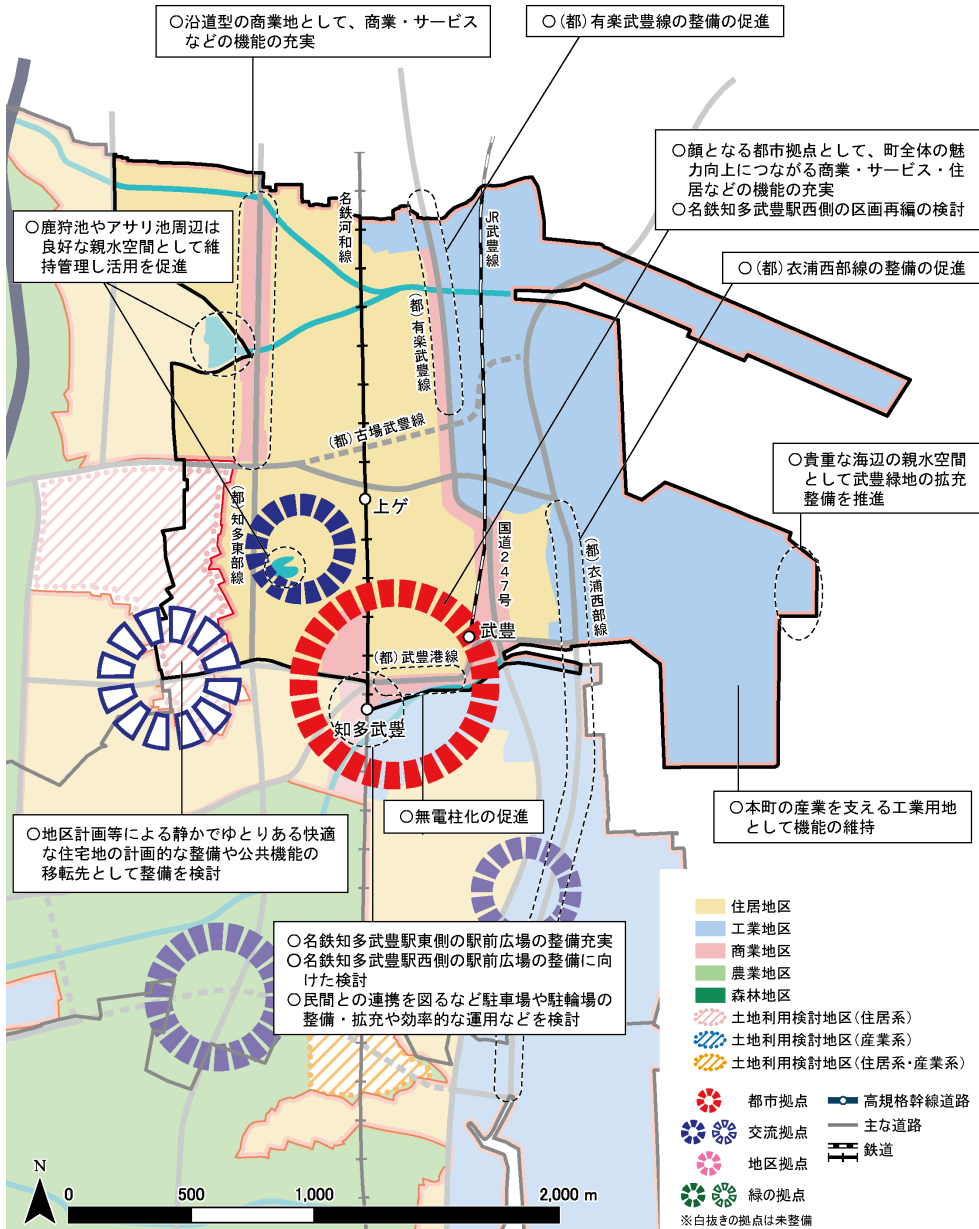
用語解説

- ※1 都市拠点：1頁参照 ※2 公共交流拠点：1頁参照
- ※7 まちの玄関口：町を訪れる人が最初に目にする鉄道駅及び駅前空間のあるまちなみで、まちを印象づけるにぎわいを創出する場所であり、町民にとっては愛着のもてる場所です。
- ※8 地区拠点：富貴駅周辺における暮らしに必要な機能が整った、本町南部の暮らしを支える拠点です。
- ※9 ウォーカブル：安心して徒歩等で移動できるとともに、移動しながらまちの魅力や自然を楽しむことで、「歩く」を意味する walk と「できる」の able を組み合わせた造語です。

地域別構想
※緑丘地域、武豊
地域及び衣浦地
域の記載を抜粋

<地域のまちづくりの方針>

図表5 まちづくり方針図(武豊地域)



土地利用・都市環境

- ・公共交流拠点※2に位置づけられた武豊中央公園周辺は、地区計画等による静かでゆとりある快適な住宅地の計画的な整備や公共機能の移転先として整備を検討します。【緑丘地域、武豊地域】
- ・名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺は本町の顔となる都市拠点※1として、町全体の魅力向上につながる商業・サービス・住居等の機能の充実を図ります。また、名鉄知多武豊駅西側の区画再編を検討します。【武豊地域】

道路・交通環境

- ・武豊北インターチェンジ(仮称)へアクセスする(都)六貫山線や(都)武豊港線の整備の推進に努めます。【緑丘地域】
- ・名鉄知多武豊駅東側の駅前広場の整備充実を進めます。【武豊地域】
- ・名鉄知多武豊駅西側の駅前広場の整備に向けた検討を行います。【武豊地域】

- ・民間との連携を図る等駐車場や駐輪場の整備・拡充や効率的な運用等を検討します。【武豊地域】
- ・交通混雑や事故の危険性等問題のある幹線道路の交差点改良を推進します。【武豊地域】
- ・既成市街地では後退敷地による道路拡幅を促進し、防災・救急活動等の支障となる狭あい道路の解消に努めます。【緑丘地域】

公園・緑地・景観

- ・鹿狩池やアサリ池周辺は良好な親水空間として維持管理し、活用を促進します。【武豊地域】
- ・名鉄河和線の東側では既成市街地の良好な住宅地の形成を促進するため、ポケットパークやオープンスペース等の整備を検討します。【武豊地域】
- ・市街地の緑化を進め、農地や緑地と調和した潤いのある住環境を形成します。【緑丘地域】

②庁舎整備計画

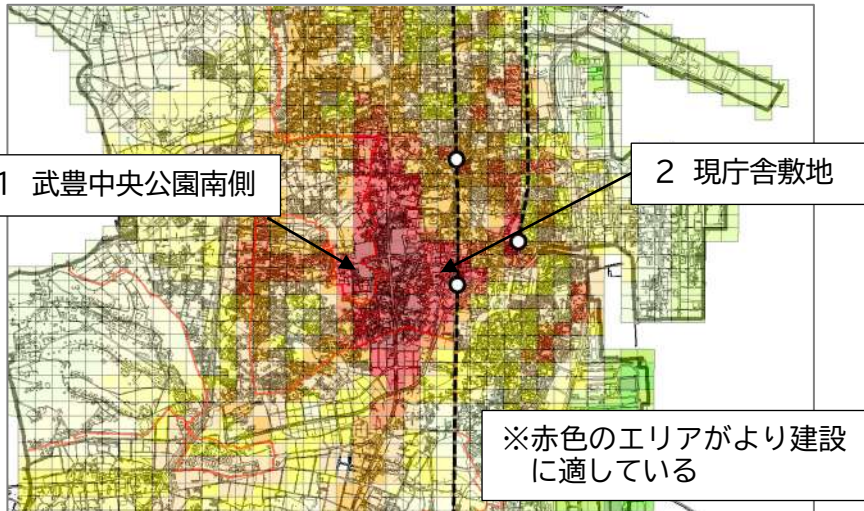
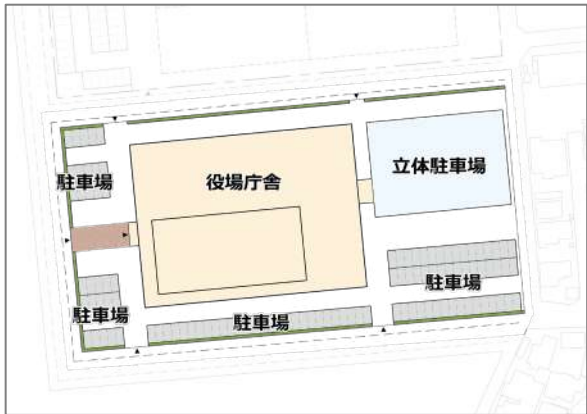
住民にとっての利便性、安全性を考慮し、建設コストと立地条件から、役場庁舎の今後のあり方について検討を行い、庁舎整備の方向性をとりまとめました。

対象区域はこんなまちっ？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

<p>現庁舎の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点としての機能強化 ・老朽化の改善 ・狭あい化の解消 ・利便性の向上 ・安全性の確保 ・設備環境の充実 ・立地環境の充実 ・機能性の拡充
<p>基本的な考え方と主な整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが使いやすく、豊かな交流を育む庁舎 ・災害に強く、安心して利用できる庁舎 ・環境にやさしく、脱炭素社会の実現に貢献する庁舎 ・将来の変化に柔軟に対応し、効率的・効果的に働くことができる庁舎
<p>適地の選定</p>	<p>・6か所の建設候補地から災害想定や人口重心、幹線道路やICからのアクセス等を考慮し、立地に適している場所として武豊中央公園南側と現庁舎敷地の2か所を選定しました。</p> <p>図表6 適地評価の検討図</p>  <p>1 武豊中央公園南側</p> <p>2 現庁舎敷地</p> <p>※赤色のエリアがより建設に適している</p>
<p>総合評価</p>	<p>・庁舎整備において重要と考えられる機能面、経済性等の視点から検討した結果、「武豊中央公園南側に移転、新築」が総合的に優れていると評価しました。</p> <p>武豊中央公園南側/新築 案</p> <p>【防災的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署、防災機能を有する武豊中央公園と一体となった防災拠点の形成が可能 <p>【経済的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮庁舎整備工事が不要 <p>【施工的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解体工事や仮庁舎整備工事等を含まないことから最も事業期間が短い <p>【機能的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地規模の制約を受けず、ゆとりある空間の計画が可能 <p>図表7 庁舎整備イメージ図</p> 

今後の検討の進め方

【まちづくりの方向性との整合】

まちづくりの観点から求められる庁舎の役割を整理し、武豊らしさを表現した庁舎となるよう検討します。

【住民参加による検討体制】

さまざまな方法による住民意向の収集等、計画を進めていく中で多様な検討体制を確立し、誰もが利用しやすく愛着のもてる庁舎を実現できるだけでなく、多様な交流を育む場として、庁舎が活発に利用されることを目指します。

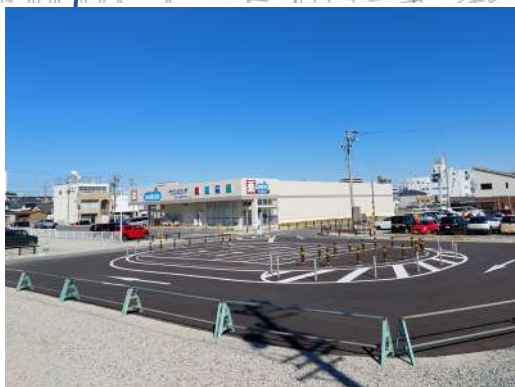
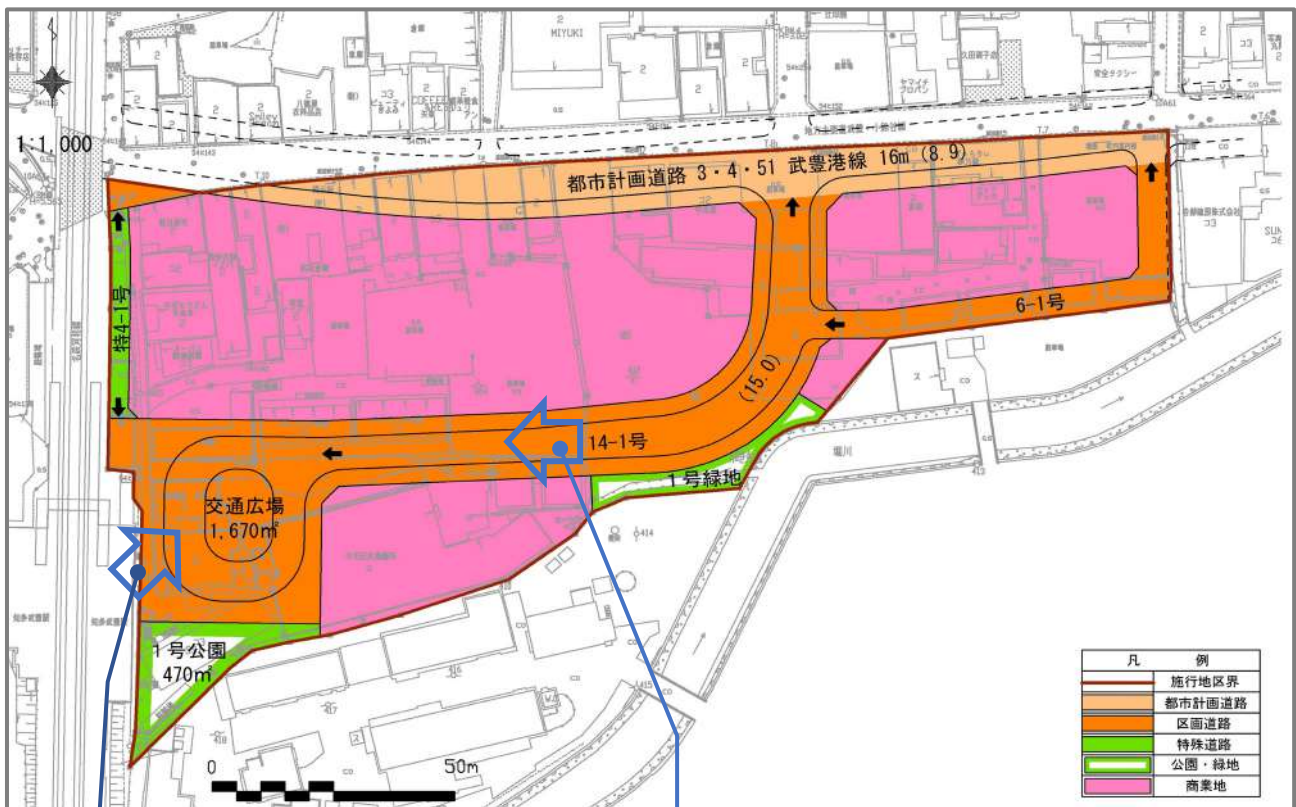
③知多都市計画事業 知多武豊駅東土地区画整理事業の概要

名鉄知多武豊駅の東側は、駅前広場やアクセス道路が未整備であり、有効な土地利用ができない状況にあります。このため、(都)武豊港線（主要地方道武豊小鈴谷線）の拡幅整備とあわせて駅東側約1.5haの区域を土地区画整理事業により基盤整備とあわせた土地の再編を行い、活力ある駅前中心市街地の再生・再構築を図る事業です。

事業名	知多都市計画事業知多武豊駅東土地区画整理事業
施行者	武豊町
施行面積	約1.5ha
施行期間	2013（平成25）年度～2024（令和6）年度
事業費	2,421,000千円

（令和5年1月時点）

図表8 知多武豊駅東土地区画整理事業の設計図



商業施設の立地が進められている
※正面の店舗はドラッグストア



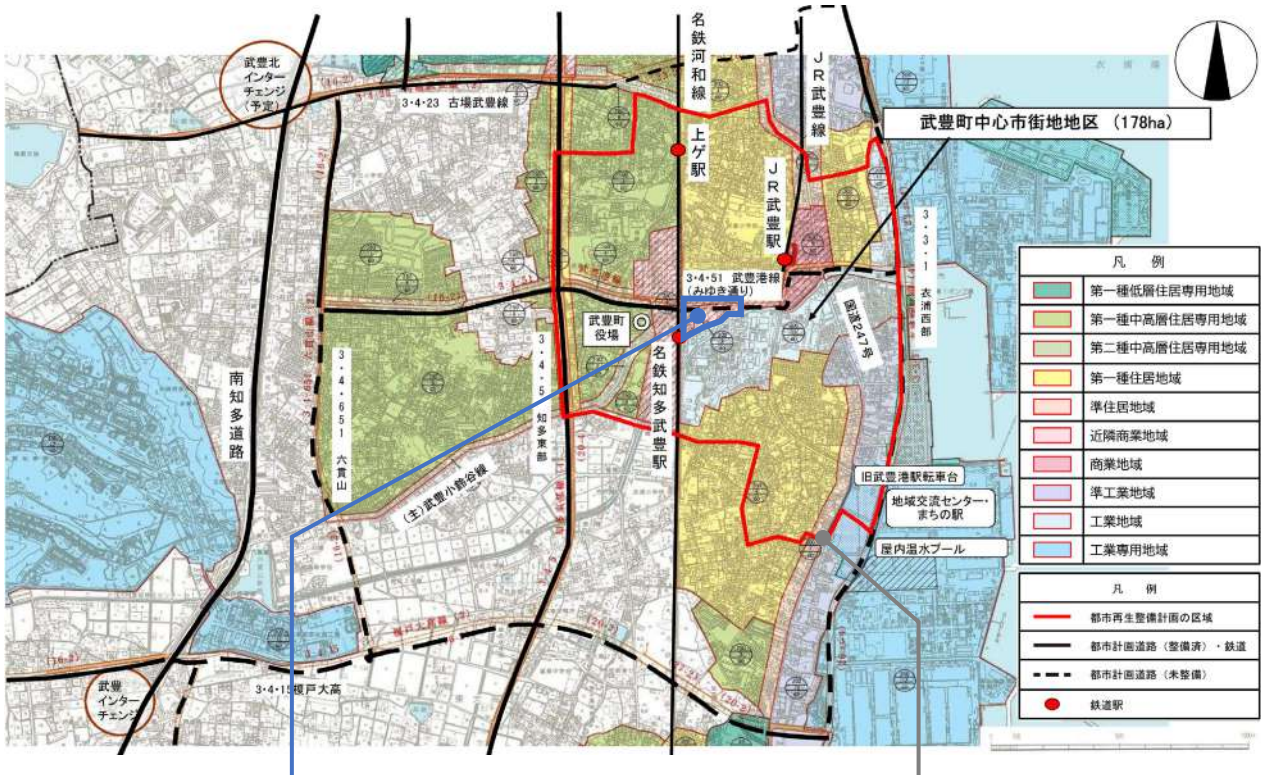
名鉄知多武豊駅東側の交通広場に接続する
区画道路の整備が進められている

④都市再生整備計画

まちの玄関口※7である鉄道駅を中心としたにぎわいと安全・安心のまちづくりを目標とし、名鉄知多武豊駅周辺の魅力を高めるとともに、駅を中心とした観光・交流施設とのアクセスを向上し、来訪者の回遊性を高めることや、まちの駅、豆みそ・たまりの蔵元、寺社仏閣等の地域資源を活かしながら、地区のにぎわいの創出、地区住民の安全・安心につながる、災害に強いまちづくりを進めるため、都市再生整備計画（武豊町中心市街地地区）を作成しています。

この計画の中で、知多武豊駅東土地区画整理事業の区域内においては、駐輪場や駅前広場の歩道へ設置する屋根等の整備が計画されています。

図表9 武豊町中心市街地地区(都市再生整備計画)



知多武豊駅東土地区画整理事業の区域内



知多武豊駅東地区(駅前広場)の完成イメージ

武豊町中心市街地地区全体



散策路案内サイン

用語解説

※7 まちの玄関口：8頁参照

対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

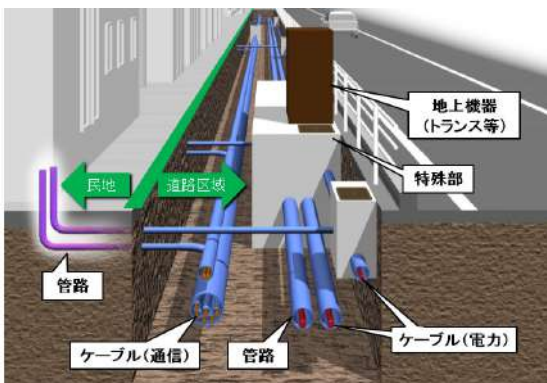
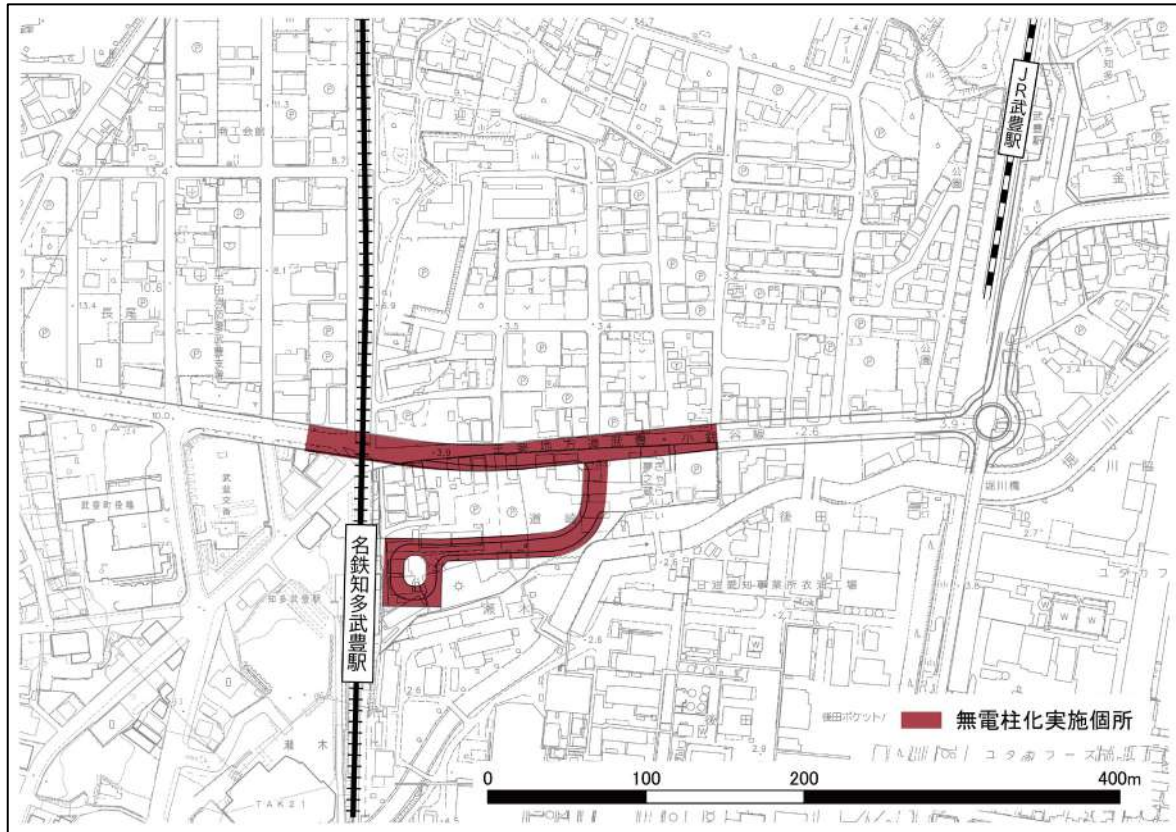
計画の実現に向けて

⑤武豊町無電柱化推進計画

武豊町無電柱化推進計画は、地震から町民の生命・財産を守る強靱なまちづくりの一環として策定された、まちの魅力あふれる美しいまちなみと、安全・安心な暮らしを確保するために無電柱化を推進する計画です。

この計画では、知多武豊駅東土地区画整理事業区域内において、景観整備を進め、バリアフリー化や道路の拡幅工事等にあわせて、第二次緊急輸送道路※¹⁰である(都)武豊港線における無電柱化を推進します。

図表10 無電柱化実施箇所



電線共同溝イメージ(国土交通省)

用語解説

※¹⁰ 第二次緊急輸送道路：緊急輸送道路は、災害直後から、避難・救助を始め、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線です。第二次緊急輸送道路は、第一次緊急輸送道路（南知多道路等）を補完し、地域的ネットワークを形成する路線及び役場等に連絡する路線で、無電柱化により緊急時の道路の安全性確保が期待されます。

⑥武豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

武豊町地球温暖化対策実行計画は、町の特性を生かしつつ、住民・地域・事業者・行政が一体となって、温室効果ガスの排出削減に向けた対策と気候変動への適応を総合的かつ計画的に推進する計画です。

<p>2030年の暮らしやまちのイメージ</p>	<p><暮らし・ビジネス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した生活があたり前になり、個人や地域が脱炭素化に向けた取組をしています。 ・環境に配慮した事業活動や脱炭素経営に取り組む企業が増え、町内の企業価値が向上しています。 ・エネルギーを自給自足できる住宅や建物が普及し、健康で快適な暮らしや健全な事業活動を送ることができています。 <p><エネルギー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入が様々な形で進みつつあり、地域と共生したエネルギーの地産地消も始まっています。 <p><移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車の普及や車に頼らず移動しやすい環境整備が進み、移動時の低炭素化が進んでいます。 <p><まちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もやさなければならぬごみやプラスチックが減り、資源が大切に使われています。 ・まちの豊かな緑がみんなの力で大切に保全されています。 ・気候変動の影響に対する町の防災・減災対策により、安全性の高いまちになっています。
<p>温室効果ガスの削減目標</p>	<p>本計画の目標(2030年度):2013年度比44%削減 長期目標(2050年度):温室効果ガス排出量実質ゼロ</p>
<p>本町における地球温暖化対策</p>	<p><暮らしとビジネスを変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅・建物の省エネ化 ・公共施設における省エネの徹底 等 <p><エネルギーを変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設における再生可能エネルギーの積極導入 ・家庭や事業所における再生可能エネルギーの導入促進 ・地域と共生した再生可能エネルギーの導入拡大 等 <p><移動を変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車の導入促進 ・公共交通の利用促進 ・歩行者・自転車等の通行空間整備 ・地産地消の推進 等 <p><資源循環の流れを変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化促進 ・資源循環の推進 <p><脱炭素型のまちづくりに変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの緑化推進 ・都市拠点^{※1}の整備 <p><適応策を広め、進める></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水環境・水資源及び自然生態系における適応策の推進 ・自然災害における適応策の推進 ・生活における適応策の推進 等 <p><環境への理解を深め、次世代に引き継ぐ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の推進 ・環境情報の啓発

用語解説

※1 都市拠点：1頁参照

⑦武豊町地域公共交通計画

武豊町地域公共交通計画は、町内の地域公共交通ネットワークを形成するすべての地域公共交通の確保・維持・改善について一体的に取り扱い、時代の変化に沿った誰もが安全で安心して快適に移動できる環境づくりを目指す計画です。

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

計画の将来像	誰もが安全・安心して快適に移動できるまち
基本的な方針	<ul style="list-style-type: none"> ①市街化区域内での交通サービスの確保維持 ②ニーズが認められたエリアでの交通サービスの提供 ③公共交通を活用する生活スタイルへの転換 ④TEAM ONE TAKETOYO^{※11}体制による総合的な移動サービスの提供(地域協働) ⑤時代の変化に対応した公共交通サービスの検討
計画を達成するために行う事業	<ul style="list-style-type: none"> ①市街化区域内での交通サービスの確保維持 <ul style="list-style-type: none"> ○幹線的バスの「武豊町コミュニティバス」の継続運行と路線・ダイヤ等の見直し ○車両の追加や入れ替えの検討 ②ニーズが認められたエリアでの交通サービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> ○接続タクシーの継続運行 ○接続タクシーの運行サービスの見直し ③公共交通を活用する生活スタイルへの転換 <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通を活用する生活スタイルへの意識転換を図るための住民への各種アプローチ活動 ○住民が自ら考え、主体的に実施する、利用促進事業。また、これら活動を支援するための環境づくり ④TEAM ONE TAKETOYO^{※11}体制による総合的な移動サービスの提供(地域協働) <ul style="list-style-type: none"> ○障がいタクシー料金助成、バス運賃助成等のあり方の検討・実施 ○社会資本総合整備計画等の関連施策の計画的な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>知多武豊駅東土地区画整理事業により、名鉄知多武豊駅東側にてロータリーや自転車駐輪場整備事業が実施されています。当該基盤整備を計画的に実施します。</u> ・<u>これら基盤整備と併せて、住民の協力を得ながら駅前でのにぎわいづくりや自転車を活用したまちづくりを展開します。</u> ⑤時代の変化に対応した公共交通サービスの検討 <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティバスの電動化 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>地球環境問題への対策として、武豊町ではゼロカーボンシティの推進を令和3年2月2日に宣言しており、二酸化炭素の実質排出量のゼロを目指すため、公共交通分野においても「コミュニティバスの車両更新時期にあわせて電動化」への転換を進めます。</u> ○町の交通のあり方、時代の変化による技術動向の研究による地域将来の検討

用語解説

※11 TEAM ONE TAKETOYO：町が一丸となってすすめる体制を意味します。

⑧SDGsの推進

2015（平成27）年に開催された「国連持続可能な開発サミット」において、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ（行動計画）」が採択され、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられました。

このSDGsは、発展途上国のみならず、先進国も含めすべての国にとっての普遍的な目標であり、本町でも17の目標と第6次武豊町総合計画に掲げる施策方針を関連づけて推進しています。

図表11 SDGsの17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



図表12 ゼロカーボンシティ宣言書

⑨ゼロカーボンシティ宣言

2021（令和3）年2月2日、本町は、将来にわたって健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいくため、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指す「ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明しました。

武豊町 ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地では、地球温暖化が原因とみられる、猛暑や豪雨などの異常気象が多発しており、我が国においてもこれまでに経験したことがない、豪雨や台風等により甚大な被害が多発しております。

菅首相は、令和2年10月26日の所信表明演説において、2050年までに国内の温室効果ガスの排出を実質ゼロにすると表明されました。

本町の臨海部には、製造業を中心に多くの工場・事業所が立地しており、これらの企業の取り組みが、本町の温室効果ガスの削減など地球温暖化防止対策を進めるうえで、大きなウエートを占めることが考えられます。

そのため、町内の主要企業に対して、地球温暖化対策等に関する意向調査を実施した結果、ほとんどの企業から前向きな回答が得られました。

更に、令和3年度からスタートする「第6次総合計画」では、省資源・低炭素化に向けた取り組みを推進し、環境にやさしいまちを目指すこととしております。

本町においても、将来にわたって健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいくため、住民・地域・企業・行政が一体となって、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを、本日ここに表明します。

令和3年2月2日

武豊町長 靱山芳輝



対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

取組方針

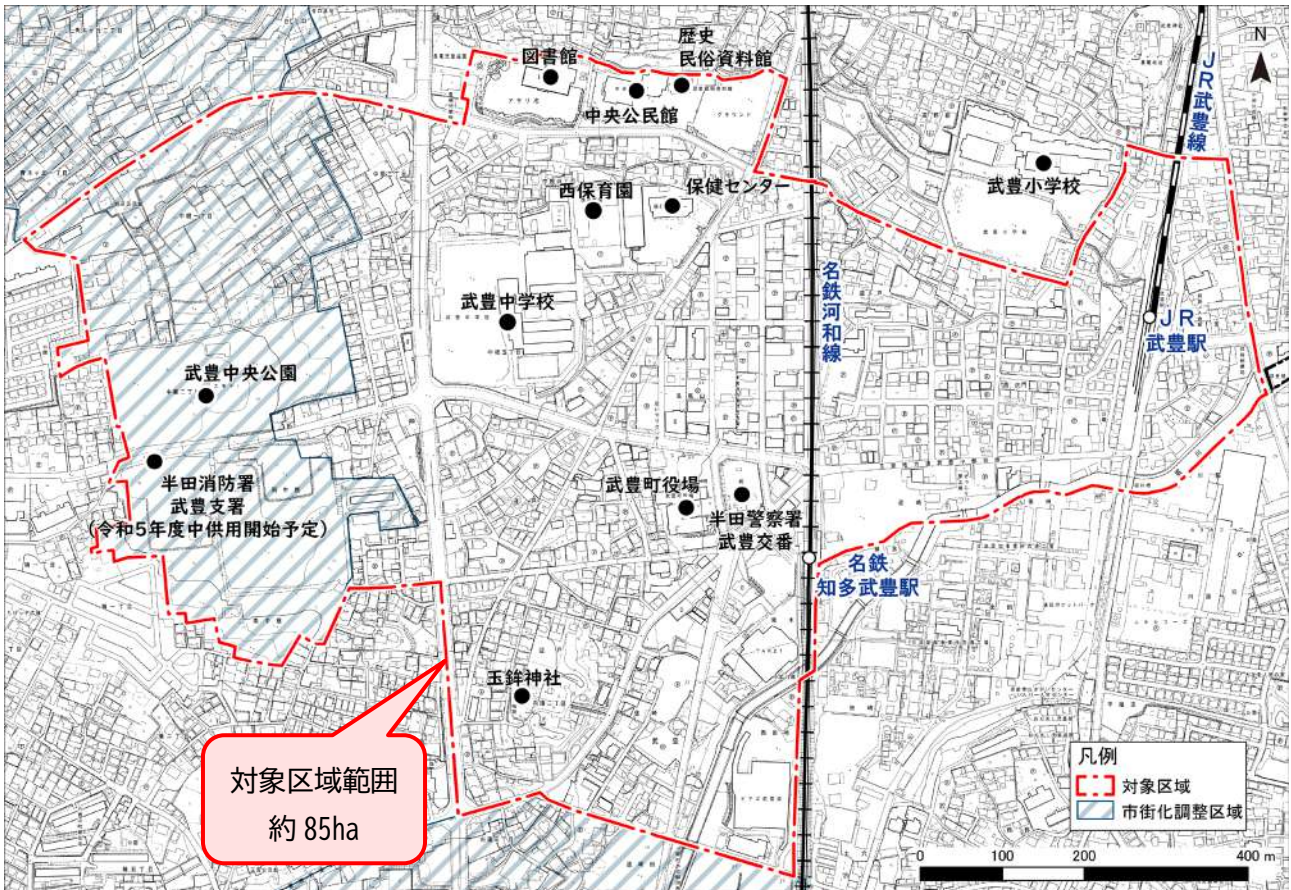
計画の実現に向けて

4. 対象区域

第6次武豊町総合計画に位置づけた都市拠点^{※1}及び公共交流拠点^{※2}を一体的な拠点としてとらえ、各土地利用検討ゾーン等の配置や道路、河川そして商業施設等の立地が想定される用途地域^{※12}（近隣商業地域、商業地域等）の指定状況等も勘案し、名鉄知多武豊駅を中心に概ね500m圏内（高齢者にとっての一般的な徒歩圏）を対象区域として設定します。

※都市拠点^{※1}及び公共交流拠点^{※2}は隣接しており、空間を結ぶ道路等のインフラも共有しているため、一体的にまちづくりを進めていく必要があることから、都市拠点^{※1}及び公共交流拠点^{※2}を含む範囲を設定しました。

図表13 対象区域の範囲



用語解説

※1 都市拠点：1頁参照。 ※2 公共交流拠点：1頁参照。

※12 用途地域：住居、商業、工業等市街地の大枠としての土地利用を定めるもので、13種類に分類されます。それぞれの目的に応じて、建てられる建物の種類が決まります。

用途地域の例

近隣商業地域



まわりの住民が日用品の買物等をするための地域です。住宅や店舗のほか小規模の工場も建てられます。

商業地域



銀行、映画館、飲食店、百貨店等が集まる地域です。住宅や小規模の工場も建てられます。

第2章 対象区域はどんなまち？

1. 対象区域の特徴は？

歴史を知る

武豊町の中心市街地として発展してきた歴史がある

- 対象区域は、1886（明治19）年に東海道本線敷設のための資材線として武豊線が開業し、武豊駅が設置されたことや1899（明治32）年には武豊港が開港したことを契機に町の中心市街地として発展してきました。
- 1931（昭和6）年には知多鉄道（現在の名古屋鉄道）により河和線の太田川・成岩間が開通し、その翌年には河和口まで鉄道路線は延伸されました。さらには知多武豊駅が開設されたことで、名古屋までのアクセスは一層向上し、知多半島内における交通の要衝としての性格を持つようになりました。
- また、戦後の高度経済成長に伴い、臨海部への埋め立てによる土地造成の機運が高まり、鳳翔閣（明治天皇、皇后両陛下の御休息家屋）で知られる長尾山も九号地造成のため削られ、その跡地へ武豊町役場が1962（昭和37）年に建設される等、町の中心はJ R武豊駅周辺から名鉄知多武豊駅周辺へ移り、新たな市街地が形成されました。
- こうした陸路（武豊線）と海路（武豊港）の優れた交通の条件により、豆みそ、たまり醸造業が栄え、最盛期には約50軒の蔵元が軒を連ね、今も残るまちなみからその歴史を感じることができます。
- 本町には、山車の文化が継承されており、町内全域において勇壮な11台の山車の曳き廻しが行われます。毎年4月に開催される春まつりでは、J R武豊駅前広場に6台の山車が集結し、多くの人でにぎわいます。

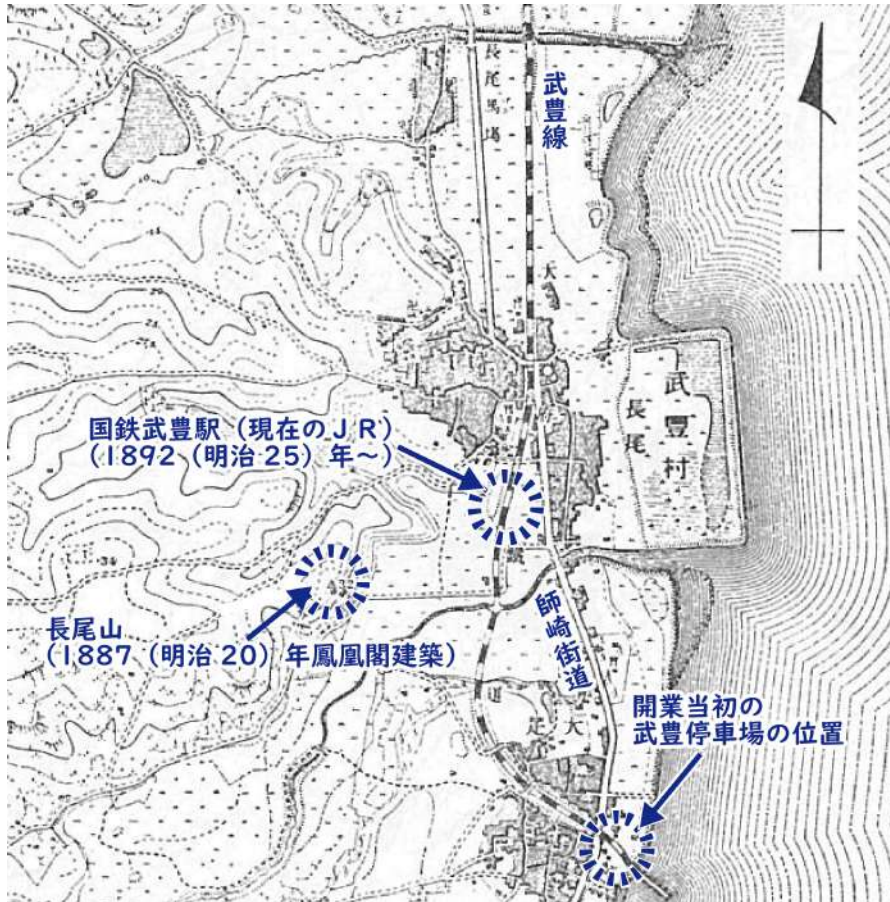


豆みそ蔵のまちなみ



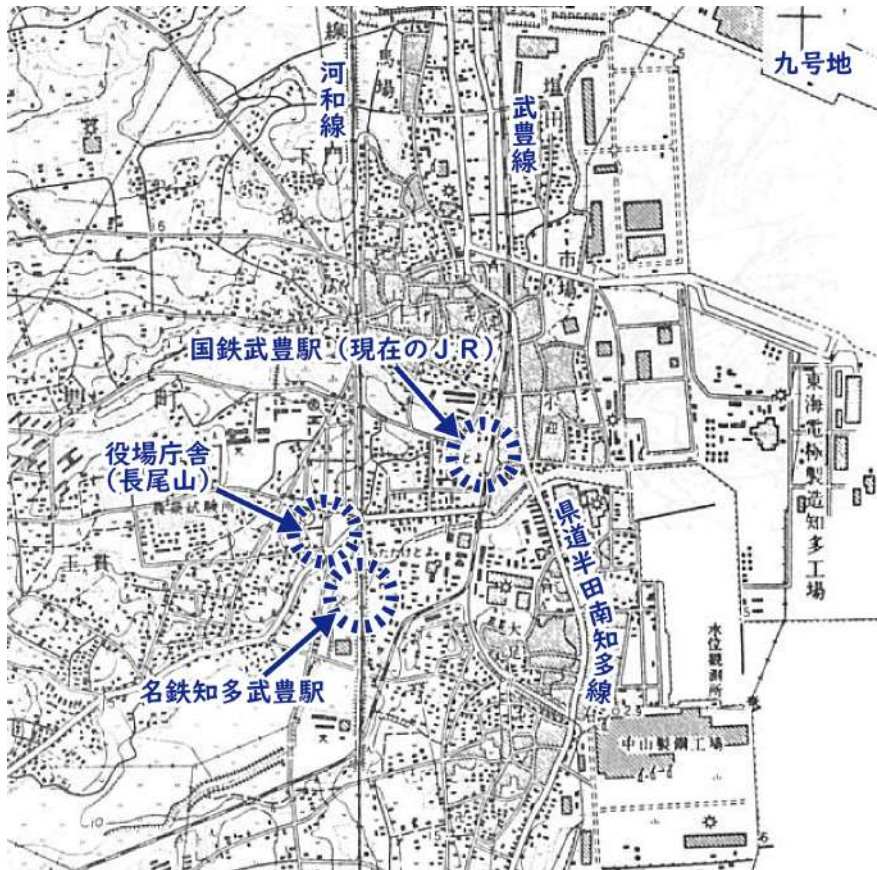
JR武豊駅前広場に集結する山車（春まつり）

図表 14 1890(明治 23)年頃の対象区域周辺



(資料: 武豊町誌)

図表 15 1974(昭和 49)年頃の対象区域周辺



(資料: 武豊町誌)

<対象区域の特徴>

商店街を知る

みゆき通り商店街において『みゆき通り発展会』が組織されている

○1887（明治20）年に明治天皇・皇后両陛下が武豊港^{ぎょうこうばい}に行幸啓（天皇・皇后がご一緒に外出されること）されたことが名称の由来となったみゆき通り（みゆきは行幸もしくは御幸）は、名鉄知多武豊駅とJR武豊駅を結ぶ商店の立ち並ぶメインストリートとして発展してきました。

○1983（昭和58）年頃のみゆき通りにおける商店の分布をみると、名鉄知多武豊駅周辺を中心に飲食店を始めとした各種の商店が多く集積していたことが分かります。現在では、商店は減少傾向にあります。

○商店街では、みゆき通り発展会が組織され、商店街を活用したイベントを開催する等、地域主体のまちづくりが取り組まれています。



(資料：武豊町誌)

昔のみゆき通りの様子(昭和50年代)

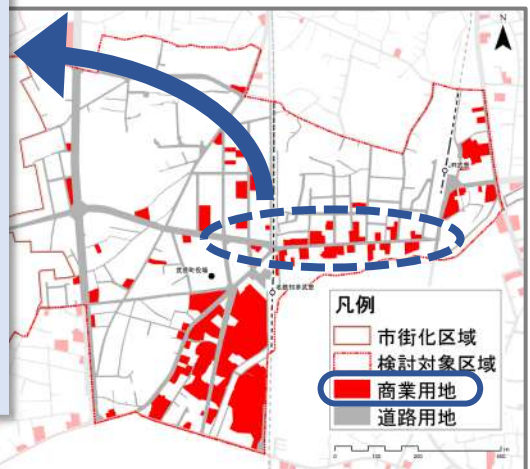


現在のみゆき通り(ハロウィンまつり)の様子

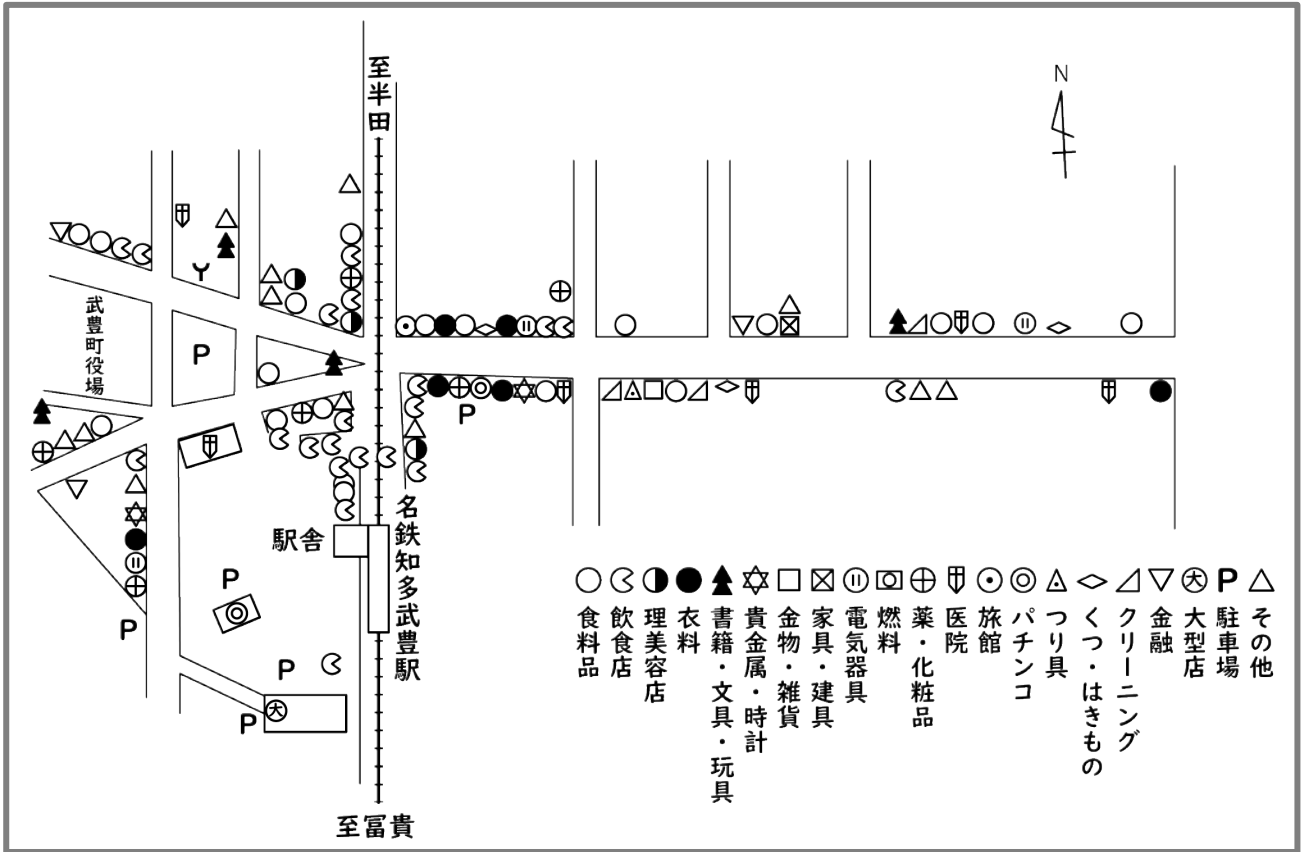
図表16 みゆき通り商店街



(資料：観光協会 HP)

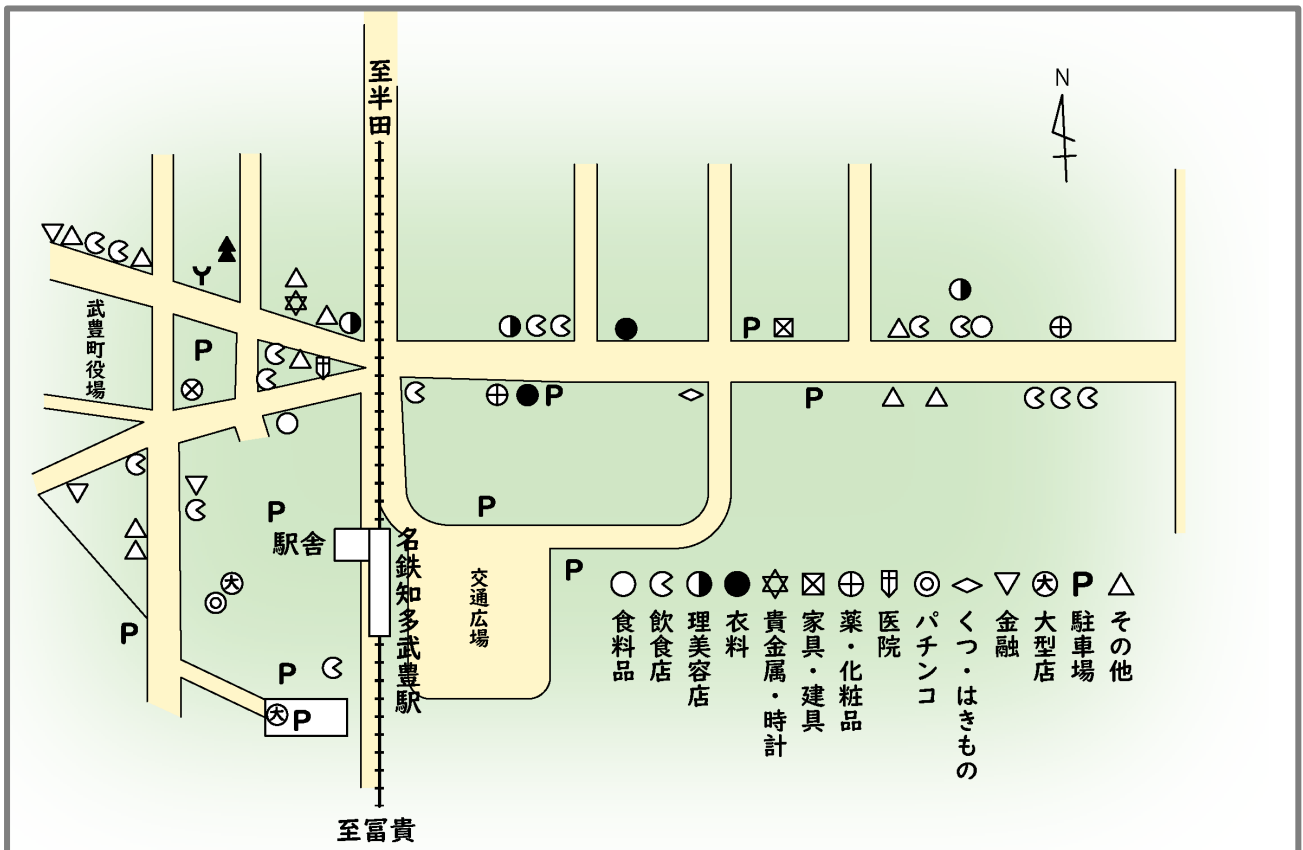


図表17 1983(昭和58)年の商店の分布



(資料: 武豊町誌)

図表18 現在2022(令和4)年の商店の分布



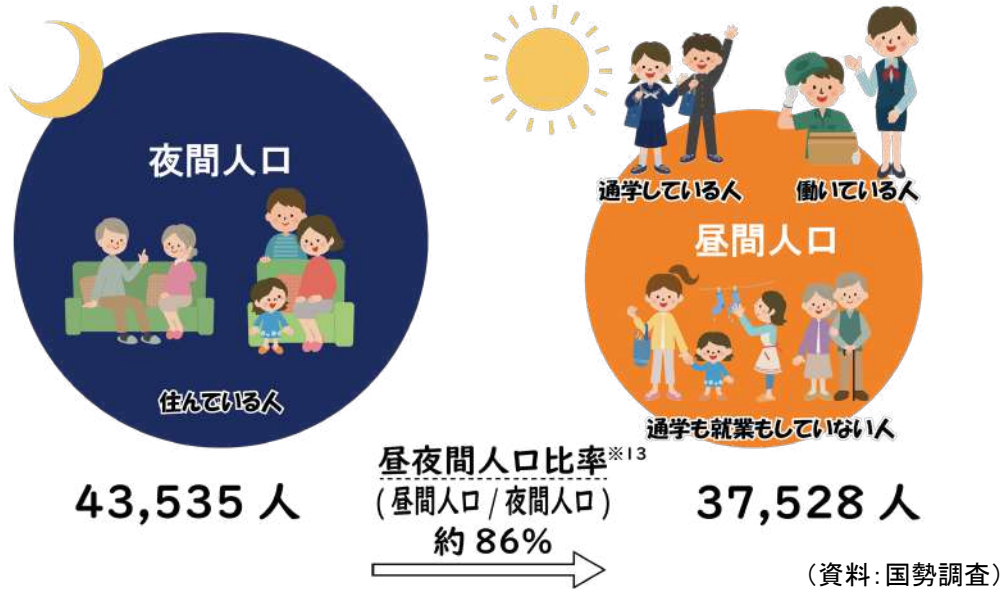
<対象区域の特徴>

鉄道を知る

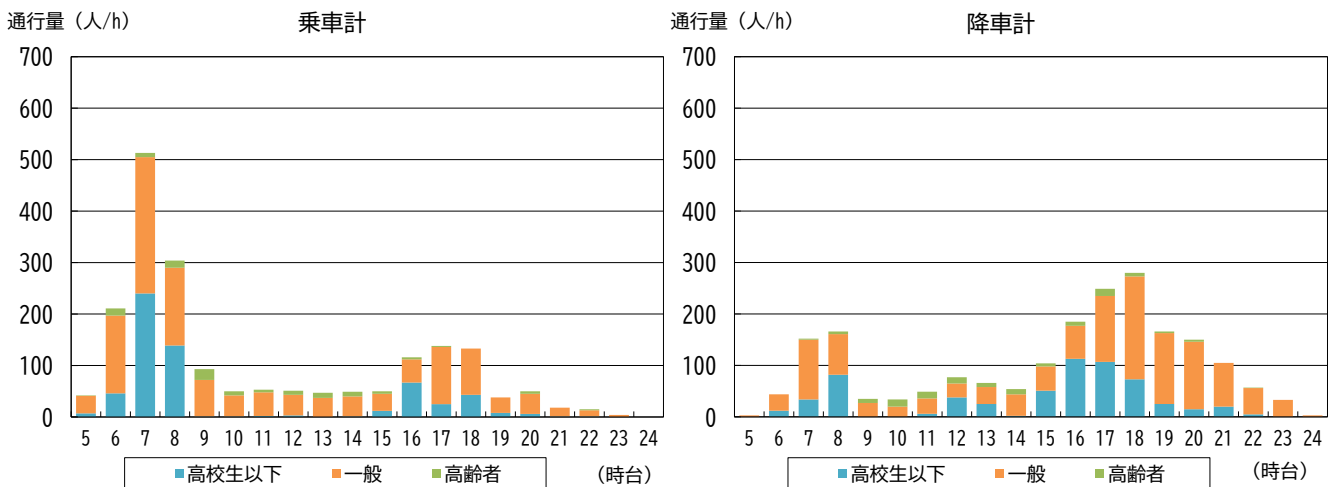
特急停車駅である名鉄知多武豊駅を中心に利便性が高い

- 対象区域は名鉄河和線及びJR武豊線が整備され、それぞれ名鉄知多武豊駅、JR武豊駅から名古屋都心部への鉄道でのアクセスが良好です。
- 特に名鉄知多武豊駅は特急停車駅であり、名鉄名古屋駅までは乗り換える必要もなく、所要時間は約35分となっています。通勤・通学の高い利便性から、本町の昼夜間人口比率^{※13}は約86%となっており、夜間人口が昼間人口を上回っており、名古屋市等のベッドタウンとしての役割も強めつつあります。
- 名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅の両駅の乗車人数は年間約140万人で、この内、名鉄知多武豊駅の乗車人数は約110万人と約8割を占めています。
- 名鉄知多武豊駅の利用者数は朝夕の通勤・通学時間帯で多く、武豊高等学校が立地していることから、高校生も多く利用しています。

図表19 町の昼夜間人口【町全体】(2020(R2))



図表20 名鉄知多武豊駅の時間帯別利用者数(平日)



※「高校生以下」、「一般」、「高齢者」の分類は目視による

用語解説

※13 昼夜間人口比率：常住人口100人あたりの昼間人口の割合で、100%を超えると通勤・通学人口の流入超過、100%を下回ると通勤・通学人口の流出超過を示します。知多半島の5市5町のうち、本町は3番目に低くなっています。(2020(令和2)年国勢調査より)

<対象区域の特徴>

道路を知る

南北に幹線道路が整備され、半田市等の名古屋方面への交通利便性が高い

- (都)知多東部線が南北に整備されていることから、半田市等の名古屋方面へのアクセスが良好であり、さらに、現在進められている(都)武豊港線の整備(拡幅・歩道設置)により東西のアクセス利便性の向上が期待されます。
- また、対象区域の西側には南知多道路が通っており、武豊ICとのアクセス利便性が高い状況にあります。
- さらに、武豊北IC(仮称)(令和5年供用開始目標)が整備中であり、広域交通の利便性のさらなる向上も期待されます。

図表21 道路の整備状況



整備が進められている(都)武豊港線



整備が進められている武豊北IC(仮称)

<対象区域の特徴>

まちなみを知る

緑豊かな公共空間が確保された市街地が形成されている

- 対象区域においては、地域住民が自然と触れ合い、憩うことができる武豊中央公園（北側）やアサリ池公園等の公園が立地しています。
- さらに、堀川や玉鉾神社の社寺林といった緑地もみられ、市街地では緑豊かな公共空間が確保されています。
- 緑豊かな環境は住民の暮らしに潤いを与える重要な要素であり、こうした緑豊かな公共空間が確保された市街地を今後も維持・充実していく必要があります。



対象区域航空写真



武豊中央公園(北側)



アサリ池公園



堀川

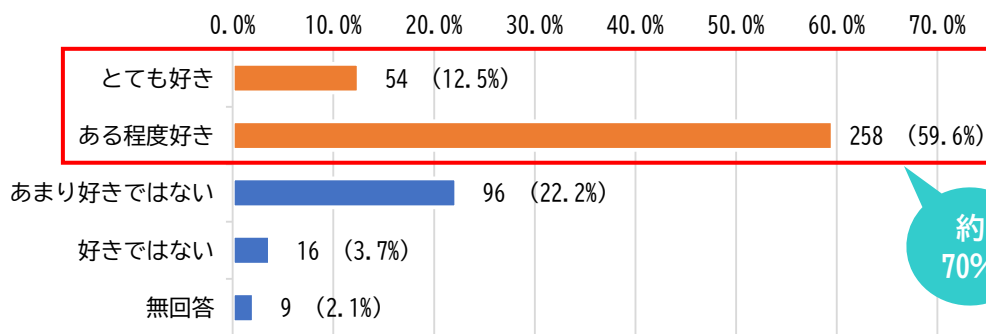
<対象区域の特徴>

愛着度を知る

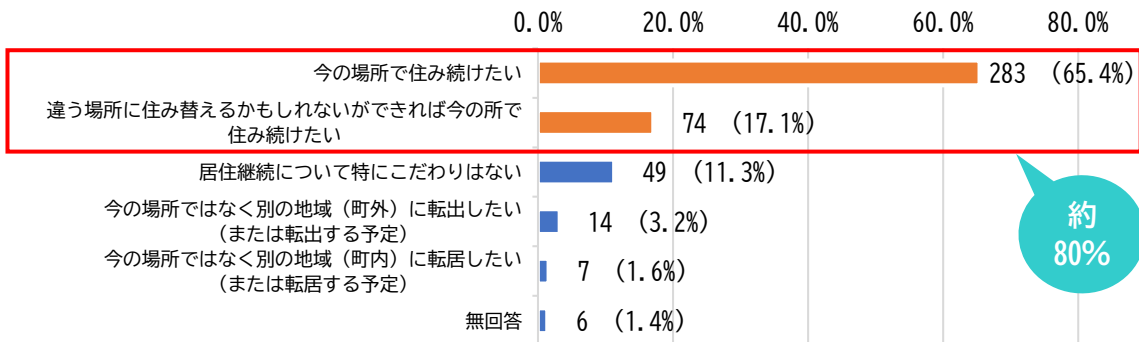
多くの住民がまちに愛着を持ち、今後も住み続けたいと思っている

- 対象区域住民アンケート調査によると、名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺のまちへの愛着について、「とても好き」と「ある程度好き」を合わせると、約70%の方が愛着を持っています。
- また、居住継続意向についても、「今の場所で住み続けたい」が約65%と多く、「違う場所に住み替えるかもしれないができれば今の所で住み続けたい」を合わせると、約80%の方が居住を継続する意向があると回答しています。
- まちが好きな理由としては、「買物や用事に便利だから」「慣れ親しんだまちだから」「住みやすいから」と回答する割合が高くなっています。次いで、「公共施設が充実していて利用しやすいから」も24%と高い値となっています。

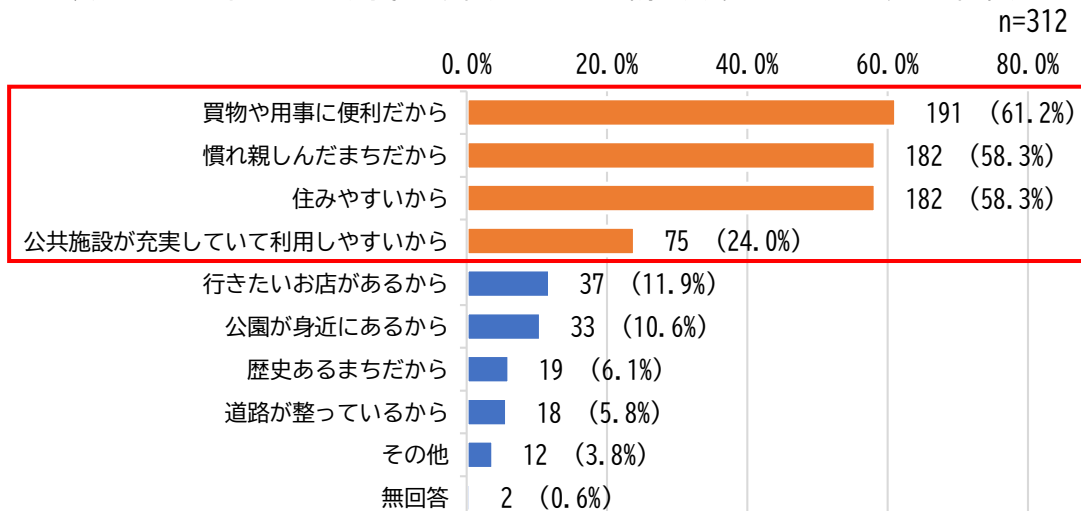
図表22 まちへの愛着(対象区域住民アンケート調査) n=433



図表23 居住継続意向(対象区域住民アンケート調査) n=433



図表24 まちが好きな理由(対象区域住民アンケート調査)(あてはまるものすべて回答)



※端数調整の関係で構成比の合計が100%にならないところがあります(複数回答以外)

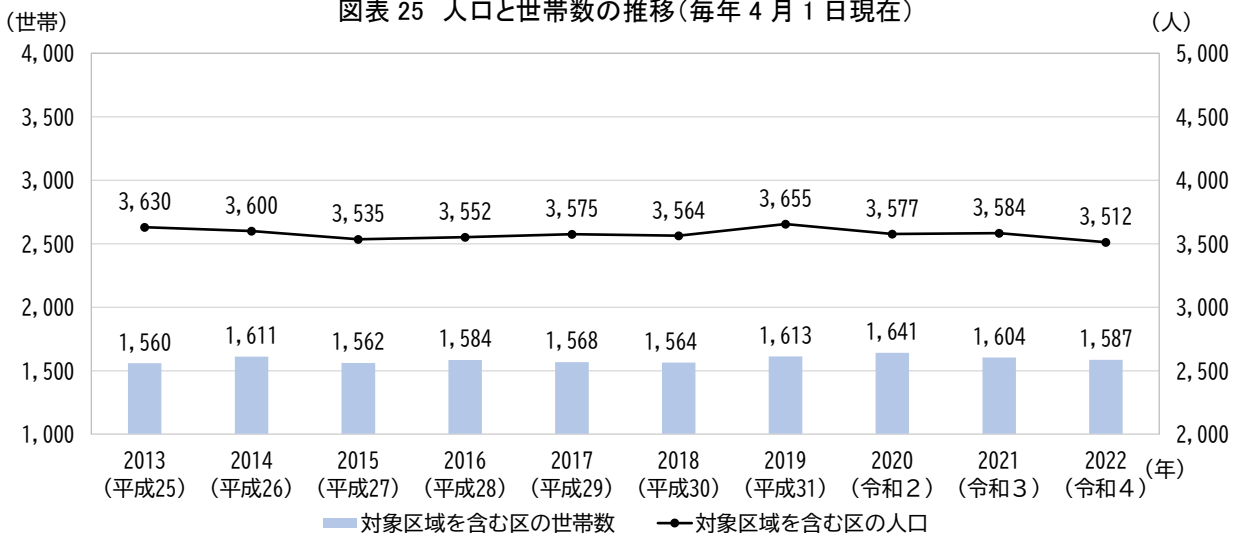
2. 対象区域の課題は？

人口の伸び悩み

人口及び世帯数が横ばいで推移しており、定住先として選択される魅力あるまちづくりが必要です

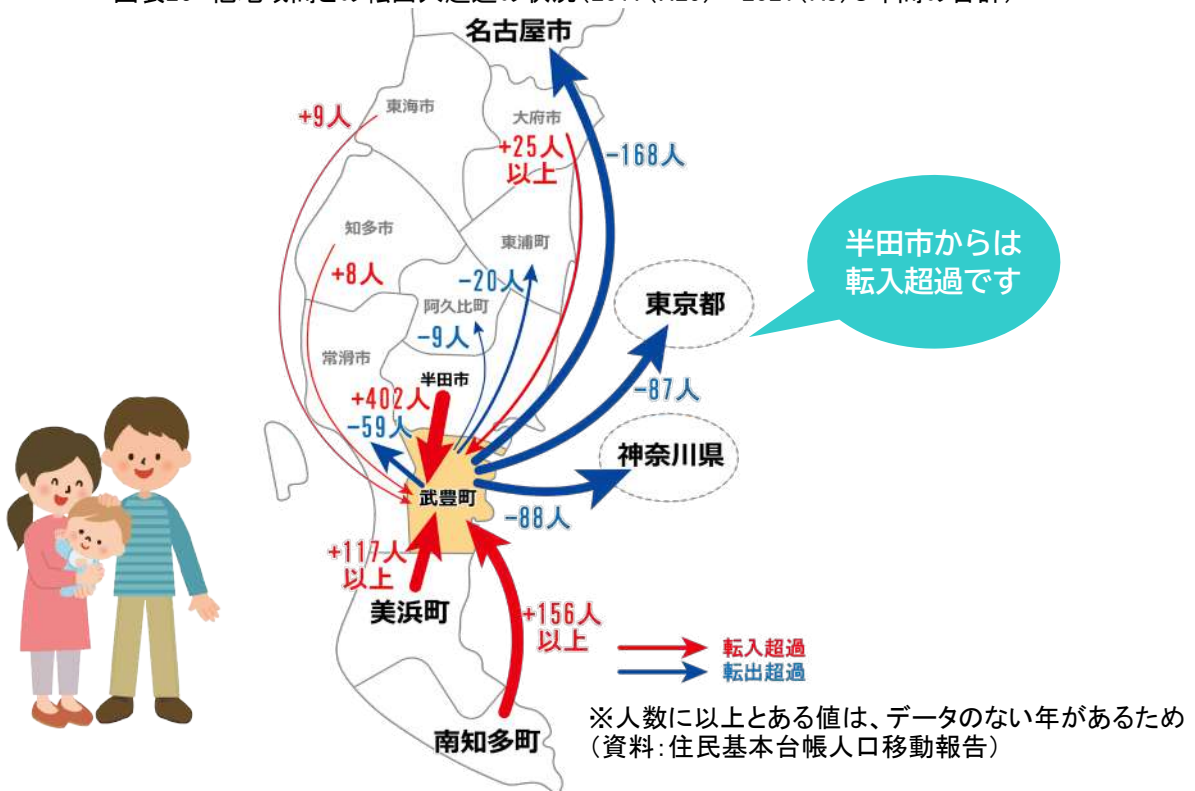
- 2022（令和4）年4月1日現在、対象区域（対象区域を含む区で集計）の人口は3,512人で、世帯数は1,587世帯です。過去10年間の人口・世帯数をみると、どちらも概ね横ばいの傾向が続いています。
- 町全体で他地域との転出入の状況を見ると、半田市、美浜町、南知多町といった近隣市町からの転入超過となっている一方、東京都、名古屋市、神奈川県に対しては転出超過となっています。
- 本町がもつ名古屋市等のベッドタウンとしての性格を踏まえると、鉄道駅が立地し、通勤・通学の利便性が高い対象区域は、居住地としてのポテンシャルを有していると考えられ、人口が増えると商業施設等の立地にもつながることから、人口増に向けた取組が必要です。

図表25 人口と世帯数の推移（毎年4月1日現在）



（資料：住民基本台帳）

図表26 他地域間との転出入超過の状況（2017(H29)～2021(R3)5年間の合計）



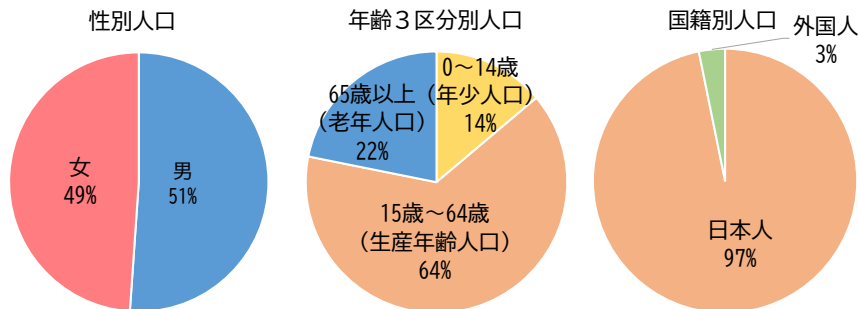
<対象区域の課題>

多様な世代の
定住促進

鉄道利便性の高さを活かし、多様な世代の定住を促進する必要があります

- 対象区域の人口は町全体とほぼ同じ構成比（年少人口：約14%、生産年齢人口：約64%、老年人口：約22%）となっており、今後は高齢化のさらなる進行が予測されます。
- 高低差がある地形を踏まえながらバリアフリーに対応する等、高齢者にとっても「住みよい」まちづくりを進める必要があります。
- 建築年代別の建築物分布状況を見ると、2011（平成23）年以降に建築された建物は少なく、対象区域において建築物の更新が進んでいない状況です。
- 対象区域は鉄道駅の利便性が高いことを活かし、若い世代を始めとする多様な世代を受入れ、建築物（まちなみ）の更新につなげる必要があります。

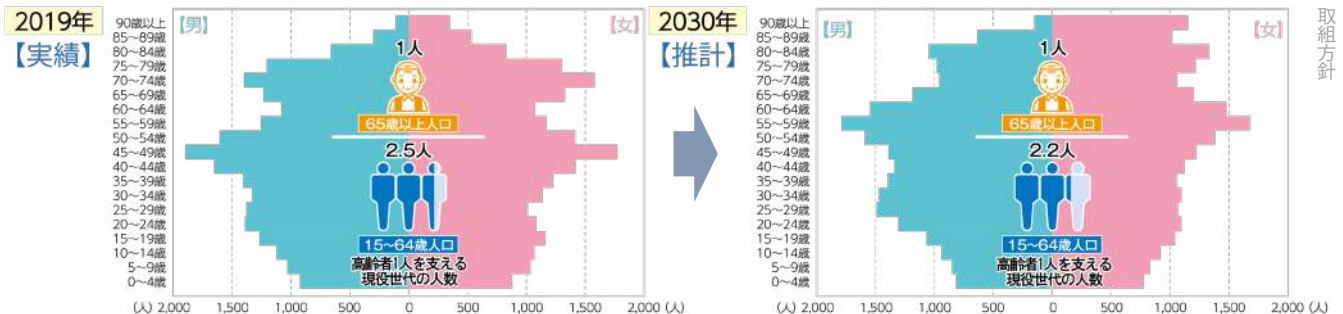
図表27 人口構成【対象区域】(2020(R2))



※対象区域と概ね重なる国勢調査 250mメッシュの人口を集計して構成比を算出

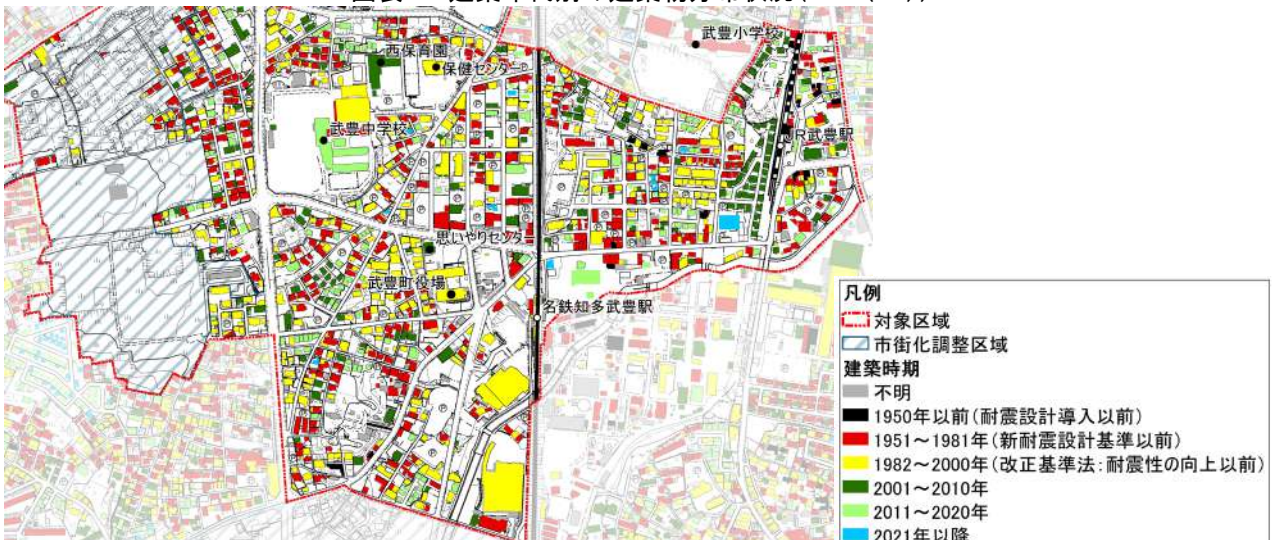
(資料:国勢調査)

図表28 人口ピラミッドの比較【町全体】



(資料:第6次武豊町総合計画)

図表29 建築年代別の建築物分布状況(2022(R4))



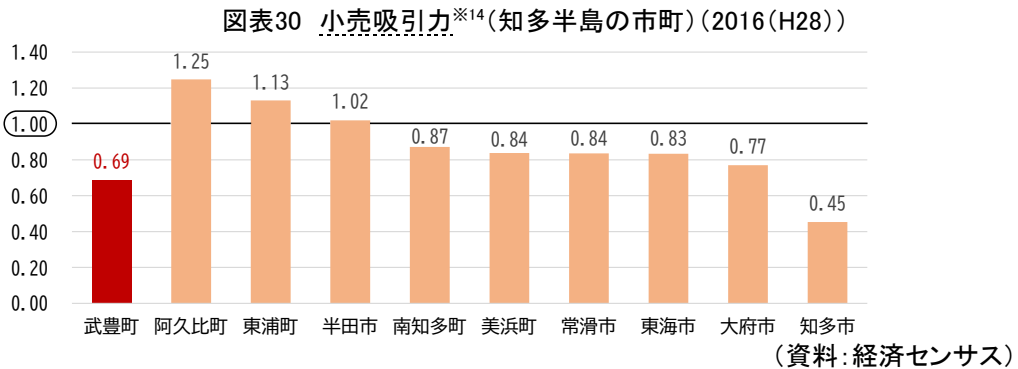
(資料:都市計画基礎調査)

<対象区域の課題>

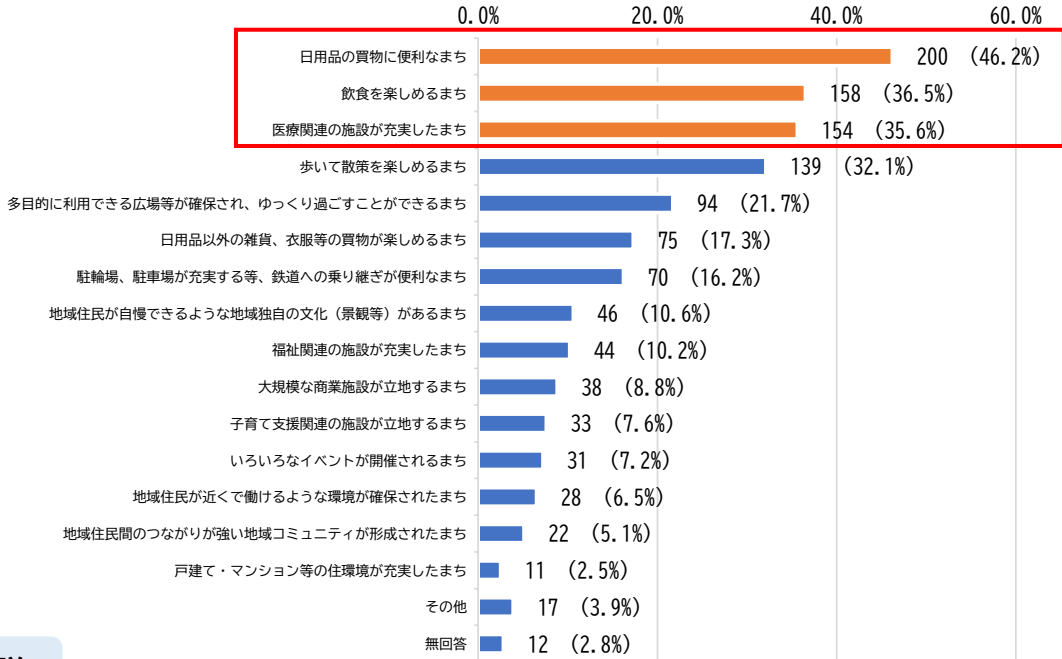
商業機能の低下

駅前としてのにぎわい創出と生活利便性の向上を図る必要があります

- 本町の小売吸引力^{※14}は周辺市町と比較しても低く、半田市や名古屋市等の町外へ町内の消費は流出している傾向があります。
- 名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺の将来のまちづくりに対する住民ニーズをみると、「日用品の買物に便利なまち」「飲食を楽しめるまち」「医療関連の施設が充実したまち」が高い傾向にあり、商業機能等の集積を図る必要があります。
- 近年では、ウォーキング等のイベントや観光、旅行によって得られる体験や経験に価値を見出す「コト消費」^{※15}への消費志向が高まってきており、まちを楽しむことができる取組を進めることで対象区域のにぎわいを創出する必要があります。
- こうしたことを踏まえながら、名鉄知多武豊駅西側は駅前というにぎわいを創出できるエリアの立地条件・ポテンシャルが十分に活かされておらず、町のイメージを印象づける場(まちの玄関口^{※7})としてのにぎわいの創出や生活利便性の向上が必要です。



図表31 名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺の将来のまちづくりについて(3つまで回答)(対象区域住民アンケート調査) n=433



用語解説

※7 まちの玄関口：8頁参照

※14 小売吸引力：県平均の人口あたり小売販売額に対する本町の人口あたり小売販売額の比率。これが1.0を超えると「他市町村に買物に行く人」より「他市町村から買物に来る人」が多いこと(流入超過)になり、1.0を下回ると逆の状況(流出超過)にあることを示します。

※15 コト消費：体験型商品やサービス等から得られる体験としての価値を重視した消費行動のことです。

<対象区域の課題>

公共施設の
修繕工増

対象区域内に同時期に整備された公共施設の老朽化に対応する必要があります

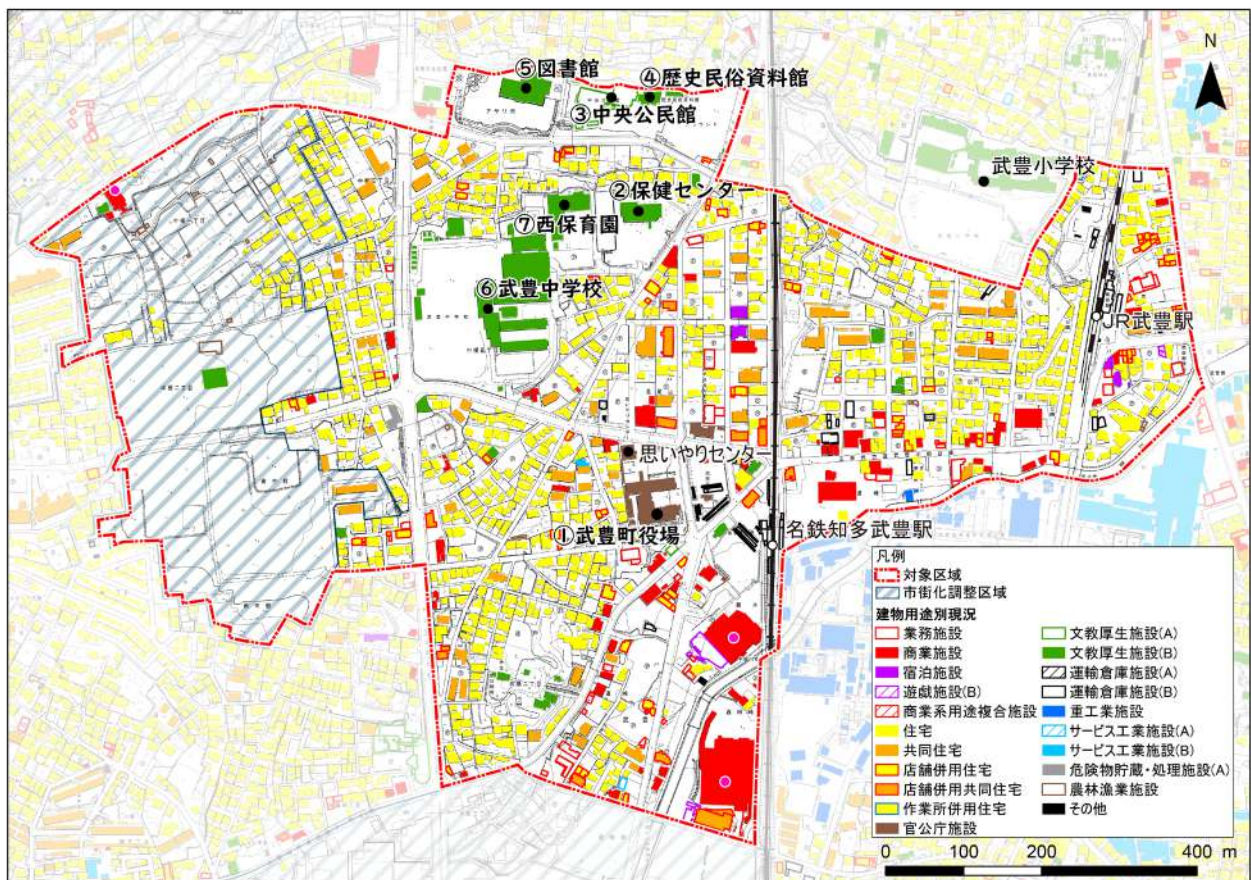
- 対象区域における主要な公共施設の多くは新耐震設計基準が導入された1982（昭和57）年以降に建築されていますが、1980年代頃の約10年間に建築されているため同時に老朽化が進むこととなります。
- 各施設の老朽化に伴い、公共施設の維持修繕にかかる費用の増加に対応する必要があることを踏まえ、住民の生活利便性の確保に向けて、庁舎整備や公共施設再配置を視野に入れつつ、第6次武豊町総合計画に位置づけた公共交流拠点^{※2}への集約や建替え・長寿命化等を検討し、住民のための公共施設として利便性及び安全性の向上を図ることが必要です。

図表32 対象区域の主要な公共施設

番号	施設名	建築年度	構造	階数	備考
①	武豊町役場	1988（昭和63）年度	鉄骨鉄筋コンクリート造	3階（地下1階）	北庁舎 1990（平成2）年大規模改修 南庁舎 1992（平成4）年一部増築
②	保健センター	1985（昭和60）年度	鉄筋コンクリート造	2階	
③	中央公民館	1976（昭和51）年度	鉄筋コンクリート造	3階（地下1階）	
④	歴史民俗資料館	1984（昭和59）年度	鉄筋コンクリート造	2階	
⑤	図書館	1986（昭和61）年度	鉄筋コンクリート造	2階	
⑥	武豊中学校	2010（平成22）年度	鉄筋コンクリート造	3階	
⑦	西保育園	2007（平成19）年度	鉄筋コンクリート造	2階	

（資料：武豊町公共施設カルテ）

図表33 用途別の建築物分布状況（2022（R4））



（資料：都市計画基礎調査）

用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照

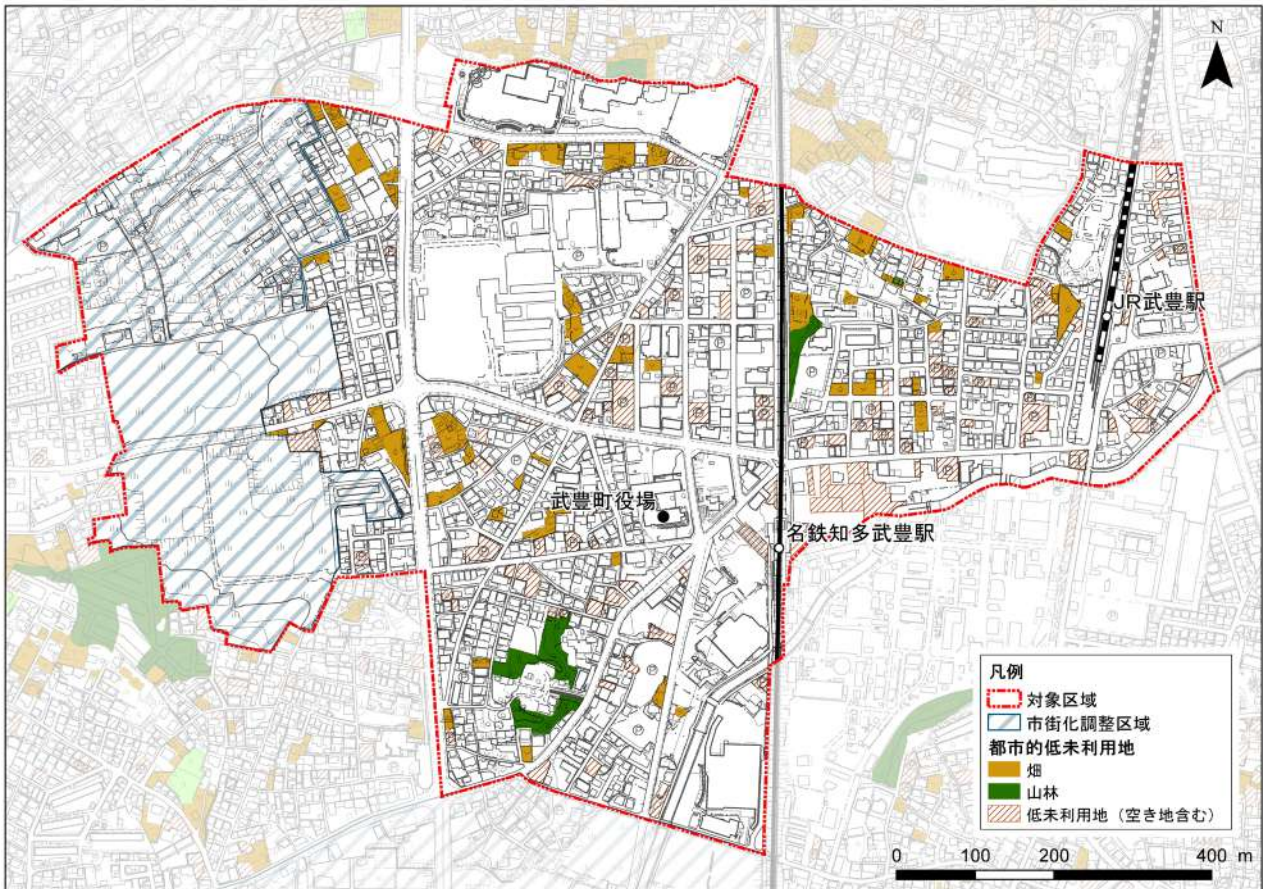
<対象区域の課題>

まちの
スポンジ化

空き地や青空駐車場の有効な土地利用を図る必要があります

- 都市的低未利用地（田・畑・山林、低未利用地）の分布をみると、鉄道駅周辺を始め青空駐車場等の低未利用地が広く分布しています。
- 対象区域では鉄道駅まで自動車を利用する人のための駐車場が整備されている一方、前述したように建築物が更新されず、駐車場のようにな暫定的な土地活用がみられます。
- 有効に活用されない土地が今後も増加し、まちのスポンジ化^{※16}が進むと、対象区域に居住する人や訪れる人が減少し、まちの活力が失われていくことが懸念されることから、点在する低未利用地の有効活用を図る必要があります。

図表34 都市的低未利用地の分布状況（2018(H30)）



(資料：都市計画基礎調査)



用語解説

※16 まちのスポンジ化：まちの大きさが変わらないにもかかわらず人口が減少し、小さい穴があくようにまちの中に使われない空間が生じ、密度が下がっていくことを指します。

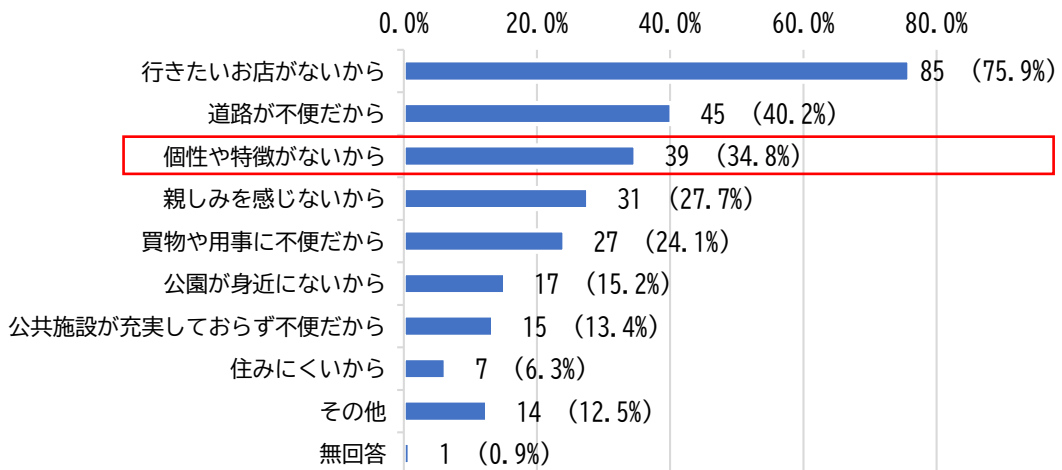
<対象区域の課題>

既存ストックの活用

既存ストック（今ある資源）を活かした緑豊かで個性ある市街地の形成を図る必要があります

- 対象区域住民アンケート調査では名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺のまちが「好きではない」または、「あまり好きではない」と回答した方の理由としては、「個性や特徴がないから」が3番目に高い値となっています。
- 個性や特徴あるまちづくりは、まちの魅力を高めるとともに、まちへの愛着形成を図るための一つの重要な要素として考えられます。
- 本町の大きな魅力は市街地を形成する都市環境と自然環境の調和のとれた居住環境です。「住みよいかから住みたい」と多くの方が思える魅力あるまちづくりには、居住環境に対するニーズが高い道路等の必要な都市基盤整備を進めるとともに、これまでに形成されてきた植栽等の既存ストックによる緑豊かな住宅地を活かした、良好な景観を有する市街地を広く形成する必要があります。

図表 35 名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺のまちが好きではない理由（あてはまるものすべて回答）
（対象区域住民アンケート調査）
n=112



緑化が図られた住宅地を広く形成することが必要

駅西ランドデザインとは

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

参考資料

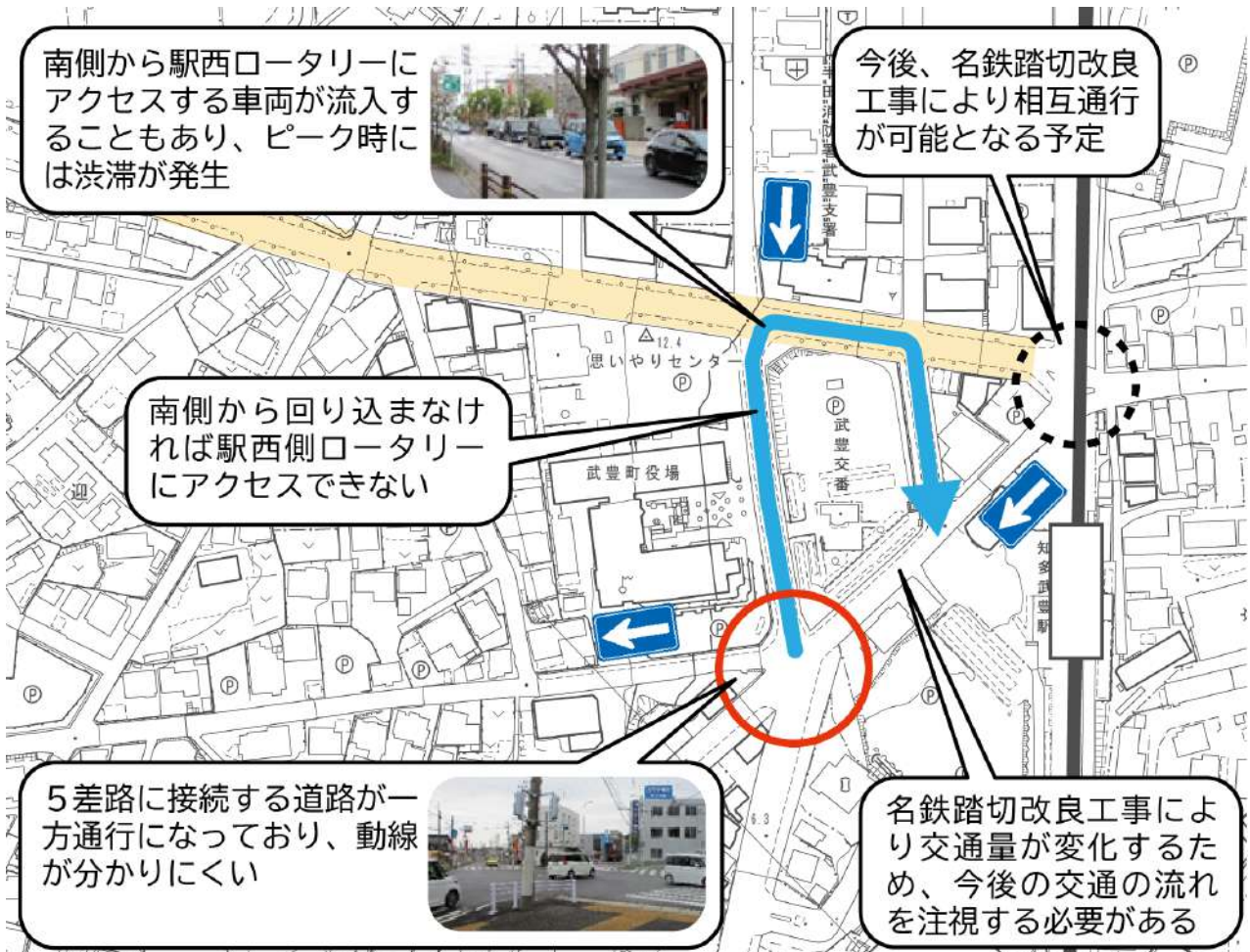
<対象区域の課題>

交通環境の改善

名鉄知多武豊駅西側では駅前広場が整備されておらず、さらに一方通行等により車でのアクセスが分かりにくい状況であり改善する必要があります

- (都)武豊港線が一部区間で未整備となっており、東西の交通の円滑化を促すために整備を進めることが必要です。
- (都)武豊港線の整備に伴い、交通量が変化することが予想されるため、一方通行となっている道路の交通規制のあり方の検討を含め、自動車交通の利便性向上に向けた名鉄知多武豊駅西側の交通基盤の改善が必要です。
- 駅利用者アンケート調査では名鉄知多武豊駅西側の交通機能については、「駅周辺へ車での行きやすさ」「駅周辺の歩道の安全性」に加えて、「車での駅前ロータリーの利用しやすさ」について、今後重点的に改善を図る必要があると回答しています。
- 名鉄知多武豊駅西駅前広場（ロータリー）について、役場庁舎の移転にあわせ、住民や駅利用者の利便性、安全性を高めるための整備改善を図る必要があります。

図表 36 名鉄知多武豊駅西側の交通状況



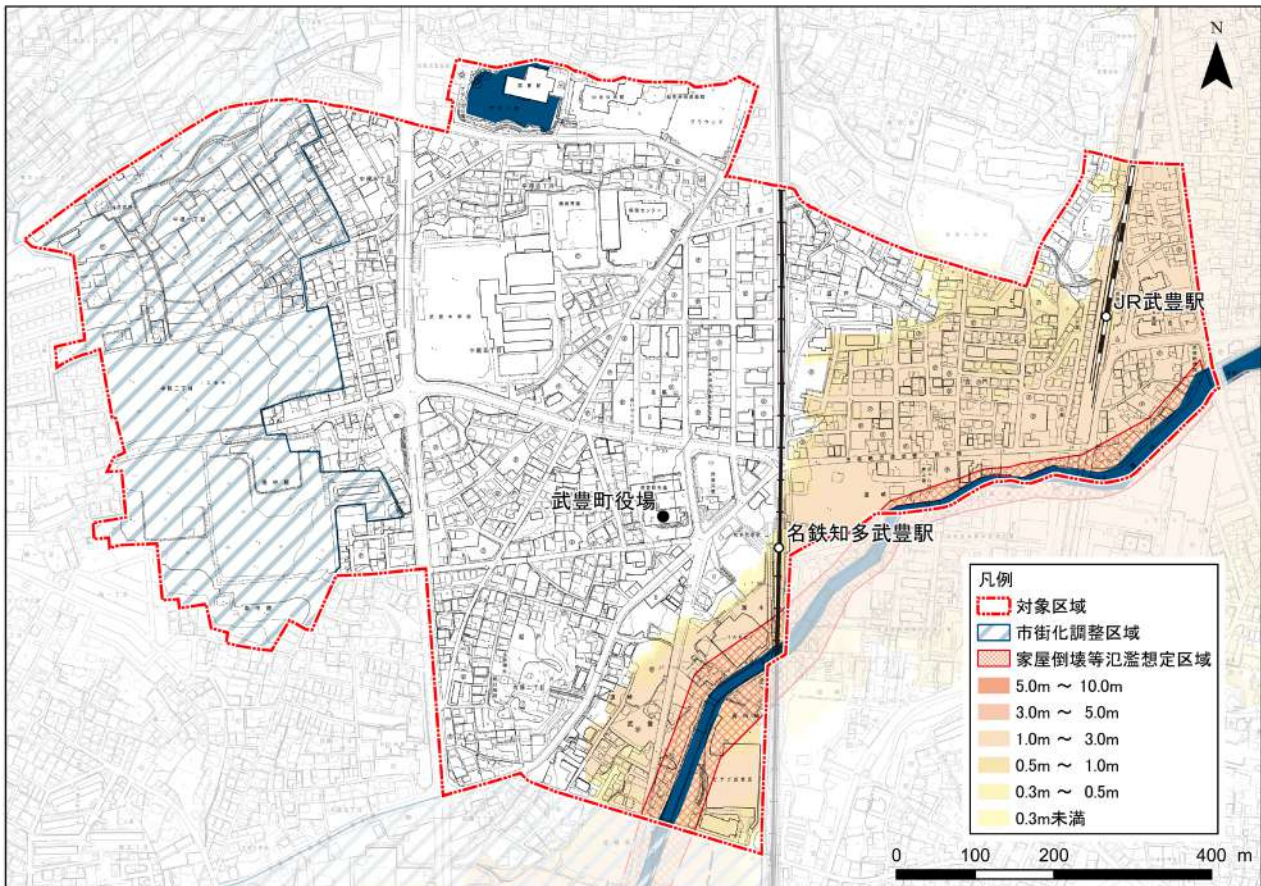
<対象区域の課題>

災害に強い
まちづくり

想定される洪水、内水^{※17}や高潮による浸水に対応する必要があります

- 本町では、東海地震・東南海地震等による被害予測として約2,900人の帰宅困難者が発生すると想定しています（武豊町地域防災計画－地震・津波災害対策計画－（令和4年3月修正）より）。
- 南海トラフ全域で、30年以内にマグニチュード8以上の地震が起きる確率は70%～80%程度と予測されており、この地域は、巨大地震がいつ起きてもおかしくない状況にあります。
- 南部から東部へ流れる堀川沿いの地域等では、洪水、内水^{※17}や高潮による浸水も想定されています。
- このため、住民が安心して暮らすことができる環境を確保するため、防災機能の強化に向けた役場庁舎の移転等、懸念される災害に対応した取組を推進することが必要です。

図表37 洪水ハザードマップ



※理論上想定される最大の降雨(836 mm/24 時間)でシミュレーションしたもの(参考:平成 12 年東海豪雨…365 mm/日)

(資料:水害ハザードマップ(2021(令和3)年3月作成)を編集)

用語解説

※17 内水：下水道の雨水排水能力を超える降雨により、雨を河川等の公共の水域に放流できない場合に発生する浸水のことです。

3. アンケート調査ではこんな意見が多くありました！

2021（令和3）年度に実施したアンケート調査では、対象区域のまちづくりについて、以下のような結果が得られました。（詳細は87頁から101頁参照）

（1）対象区域住民アンケート調査

調査対象：18歳以上の対象区域とその周辺に居住する住民

抽出方法：無作為抽出 **調査方法：**郵送配布、回収は郵送とwebを併用

調査時期：令和3年10月7日（木）～10月20日（水）

配布票数：1,193票 **回収票数：**433票（郵送：370/web：63）、回収率36.3%

○駅周辺のまちづくりについて商業施設の充実、道路整備、地域としての個性の創出等が必要です。（問4-2より）

○将来のまちづくりについて、日用品の買物や飲食が便利にできる身近な商業機能、医療機能の充実が必要です。（問6-1より）

○武豊中央公園周辺のまちづくりについて、広場（公園）の多目的利用や緑を感じられる場づくりが必要です。（問7-2より）

○居住環境について、一方通行等の交通規制の検討及び歩道の整備、防災対策、商業機能の充実が必要です。（問8-2より）

（2）駅利用者アンケート調査

①名鉄知多武豊駅利用者

調査対象：名鉄知多武豊駅利用者

調査方法：駅利用者に直接配布、回収は郵送とwebを併用

調査時期：令和3年9月29日（水）、10月3日（日）

配布票数：500票（平日：291/休日：209） **回収票数：**139票（郵送：103/web：36）、回収率27.8%

○駅周辺のまちづくりについて、日用品の買物や飲食が便利にできる身近な商業機能の充実が必要です。（問2-1より）

○駅周辺の交通状況について、車でへのアクセスの改善や道路、駅前ロータリー及び歩道の整備が必要です。（問4-1より）

②JR武豊駅利用者

調査対象：JR武豊駅利用者

調査方法：駅利用者に直接配布、回収は郵送とwebを併用

調査時期：令和4年2月20日（日）、2月21日（月）

配布票数：252票（平日：86/休日：166） **回収票数：**75票（郵送：58/web：17）、回収率29.8%

○駅周辺のまちづくりについて、飲食や日用品の買物が便利にできる身近な商業機能の充実が必要です。（問2-1より）

○駅周辺の交通状況について、駅前ロータリー及び歩道の整備が必要です。（問4-1より）

(3) 武豊中央公園利用者アンケート調査

調査対象：武豊中央公園利用者

調査方法：武豊中央公園利用者に直接配布、回収は郵送とwebを併用

調査時期：令和3年9月29日（水）、10月3日（日）

配布票数：162票（平日：83／休日：79） **回収票数**：61票（郵送：49／web：12）、回収率37.7%

○武豊中央公園の活用について、スポーツや遊び場の確保に加えて飲食ができるスペースの確保が必要です。

（問2-1より）

○武豊中央公園周辺のまちづくりについて、公園の多目的な利用や町民交流の場づくりが必要です。

（問2-2より）

○駅周辺の目指すまちのイメージについて、飲食、散策が楽しめるまちづくり、子育て支援関連施設の充実が必要です。（問3-1より）

(4) 町全域アンケート調査

※令和3年度町民意識調査（第6次武豊町総合計画の進捗状況把握のための調査）へ駅西グラウンドデザインに関する設問を追加して実施

調査対象：町在住の15歳以上の町民

抽出方法：無作為抽出 **調査方法**：郵送による配布・回収

調査時期：令和3年7月31日（土）～8月16日（月）

配布票数：3,000票 **回収票数**：1,616票、回収率53.9%

○駅周辺のまちづくりについて、駐輪場、駐車場の充実や日用品の買物、飲食が便利にできる身近な商業機能の充実が必要です。（問12より）



4. 将来に向けたまちづくりの方向性

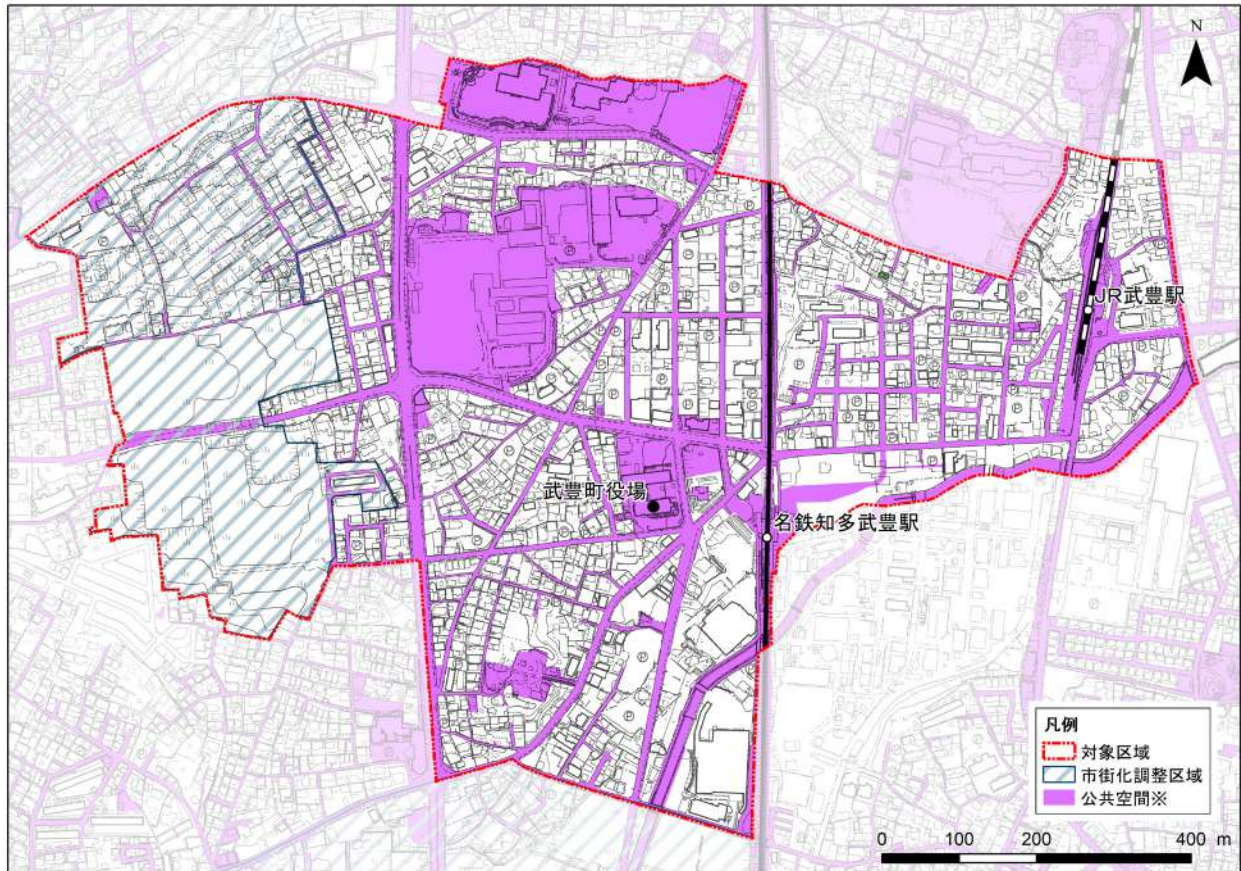
※将来のまちづくりに向け、まちの進む方向性を整理します。

新たな価値・
にぎわい創出

既存ストック（今ある資源）を活かしたリノベーション（再生）されたまちづくり

- 対象区域には、役場庁舎を始めとする公共施設や道路、公園等の公共空間が充実している一方で、空き家や低未利用地等の既存ストックが分布しています。
- 既存ストックはまちづくりを進める上では貴重な資源であり、既存の道路空間を再配分して十分な歩行者空間を確保する等、官民学との連携のもとリノベーションを進めている他都市の事例もあります。こうした取組は、歩行者交通量の増加、空き家・空き店舗の減少、地価の上昇等の効果が期待できます。

図表 38 既存ストックの分布



※公共空間は、都市計画基礎調査(2018(H30))において土地利用の現況の区分が水面(河川)、公共施設用地、道路用地、交通施設用地、公共空地に該当する土地を抽出

- 新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、デジタル化の進展も相まって、テレワークの急速な普及、自宅周辺での活動時間の増加等、人々の生活様式は大きく変容し(ニューノーマル^{※18})、これに伴うワークライフバランスの重視等、働き方や暮らし方に対する意識や価値観が変化・多様化しています。
- 変化に対応したシェアオフィスやオープンスペースの確保等に向けて、地域の資源として存在する既存ストックを最大限に活用していく必要があります。

用語解説

※18 ニューノーマル：社会に大きな変化が起こり、変化が起こる以前とは同じ姿に戻ることができず、新たな常識が定着することを指します。

図表 39 デジタル化の急速な進展やニューノーマル^{※18}に対応した都市政策のあり方

都市アセットを「使う」「活かす」

- 職住遊学の融合など、官民の都市アセットの一体的利活用による空間づくり
- 空き家をコワーキングスペースにするなど、都市アセットのリノベーション
- 街路⇄オープンスペースなど、都市アセットを可変的・柔軟に利活用



公・民・学の多様な関係者が連携してまちのビジョンを共有

スピーディーに「動く」

公園などまちなかでの社会実験の実施

デジタル技術・データを「使いこなす」

データを活用したシミュレーションや効果検証、デジタル技術による新たなサービス

Copyright © 2021 MLIT Japan. All Rights Reserved.

※都市アセット: 多様な主体による活用が可能で、使い方の柔軟な変更のできる既存の道路や公園、民間空地等
 ※コワーキングスペース: 共有型のオープンスタイルのオフィススペース

(資料: 国土交通省 デジタル化の急速な進展やニューノーマル^{※18}に対応した都市政策のあり方検討会「中間とりまとめ(概要)」)

図表 40 既存ストックを活用した神戸市の取組

実施範囲

○2016 (平成 28) 年に策定した「みちづくり計画」において「道路のリデザイン」の推進を位置づけ、同年、三宮中央通りで社会実験を実施 (2017 (平成 29) 年には常設化)

○地域主体の三宮中央通りまちづくり協議会と道路管理者である神戸市に加えて神戸芸術工科大学が参加

【利活用の推進体制】

■利活用検討時の体制 (現在はまだ検討段階であり運用段階の体制は検討中)

制作・設置者: 神戸市 (官)

地元地域 (三宮中央通りまちづくり協議会) (民)

神戸芸術工科大学 (学)

情報共有・連携・協力

清掃・植栽の管理

デザイン・社会実験監修

歩行者に滞留の場を提供する KOBE パークレット

部位	概要
可動式施設	●地域が設営や取り外しを行う施設 ●パラソル等
固定式施設	●床材とボルトで連結した施設 ●スツール、ベンチ、植栽、横断防止施設等
囲い	●利用者の安全性を重視し、車両衝突時にも耐えうるガードパイプを内蔵 ●その周囲には、人工木材による囲いを施し、上部にはうろおいを感じさせる植栽プランターを設置
床材	●約90cm四方のユニットデッキで構成し、汎用性を確保させる ●下部に束材を設置することで、様々な高さや勾配の調整も可 ●人工木材デッキ、スロープ等

※スツール: 背もたれや肘置きがない椅子

(資料: 国土交通省「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」令和3年6月)

＜将来に向けたまちづくりの方向性＞

ウォーカブルなまちづくり

対象区域を中心とした歩きたくなるまちづくり

- 対象区域及びその周辺には、歴史民俗資料館、黒板塀のまちなみ（里中・小迎区）や味の蔵たけとよ等の町の歴史や文化に触れられる施設が鉄道駅を基点として分布しています。また、公共施設や日常的な買物ができる商業施設も分布しています。
- このように対象区域の市街地は、多くの人が多様な目的で訪れ、にぎわいが生まれるポテンシャルを持っています。
- 名鉄知多武豊駅の駅前という立地を活かし、ウォーカブル^{※9}なまちづくりを進めることで、空間の多様な使い方の共存による多様な人々の交流やにぎわいを創出し、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成が期待できます。
- また、対象区域では居住者の高齢化が今後課題となることが想定されるため、高低差がある地形を踏まえながら、バリアフリーに対応する等、高齢者等にとっても住みよいまちづくりを進める必要があります。

図表 41 居心地が良く歩きたくなるまちなか

居心地が良く歩きたくなるまちなか : WEDO

Walkable	歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。
Eye level	まちに開かれた1階	歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
Open	開かれた空間が心地良い	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。



※ラボ(ラボラトリー): 研究所

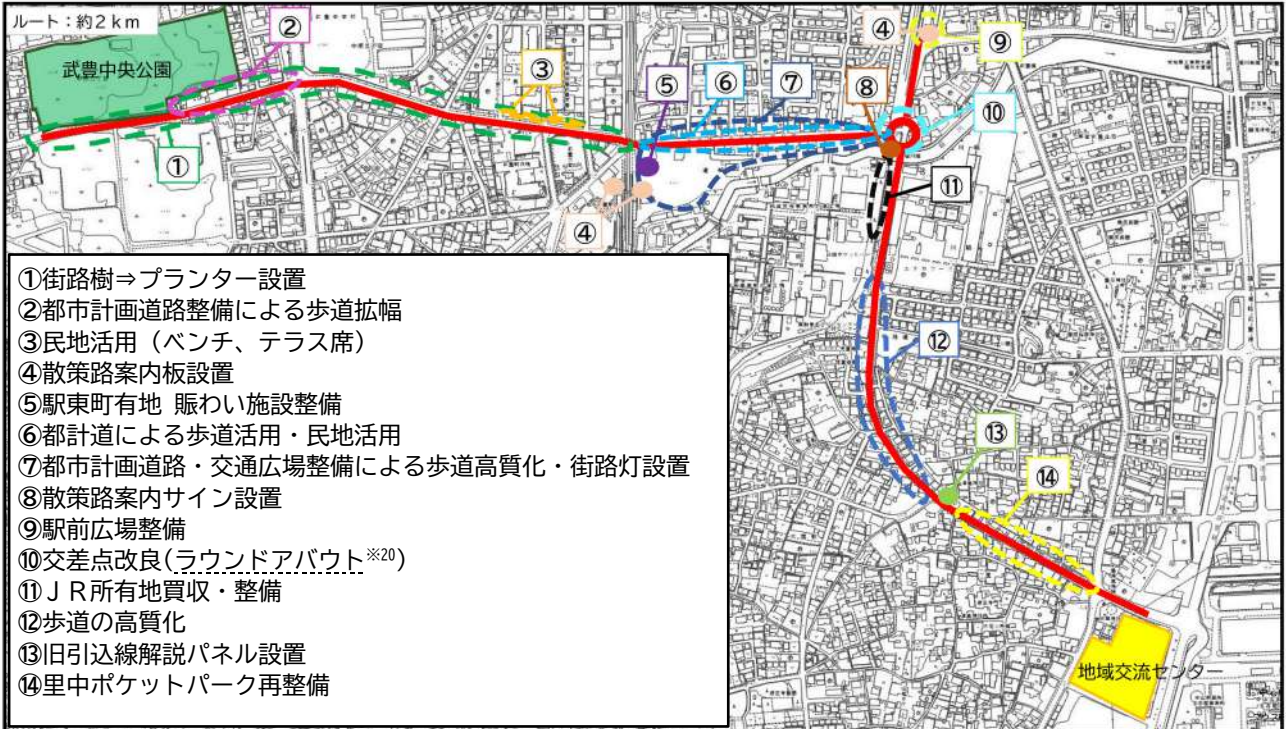
2つの開発の調整により
一体整備された神社と森(東京都中央区)

駅前のトランジットモール化^{※19}と広場創出 (兵庫県姫路市) (福岡県北九州市) (公園を芝生や民間カフェ設置で再生 (東京都豊島区)) (資料: 国土交通省資料)

用語解説

※9 ウォーカブル：8頁参照
 ※19 トランジットモール化：中心部の商業地等において、自動車の通行を制限し歩行者と路面を走行する公共交通機関とによる空間を創出し、歩行者の安全性の向上、商業地の魅力向上等を図る歩行者空間のことです。

図表 42 検討中のウォーカブル^{※9} ルートの案(2022(令和4)年3月時点)



図表 43 検討中の散策エリア(北部エリア)の案(2022(令和4)年3月時点)



用語解説

※20 ラウンドアバウト：円形の平面交差点の一種で、交差点中心に中央島が配置され、その周辺を円形の「環道」と、交差点に接続する道路が配置されており、交差点内での信号制御はありません。

<将来に向けたまちづくりの方向性>

コンパクト+ネットワーク

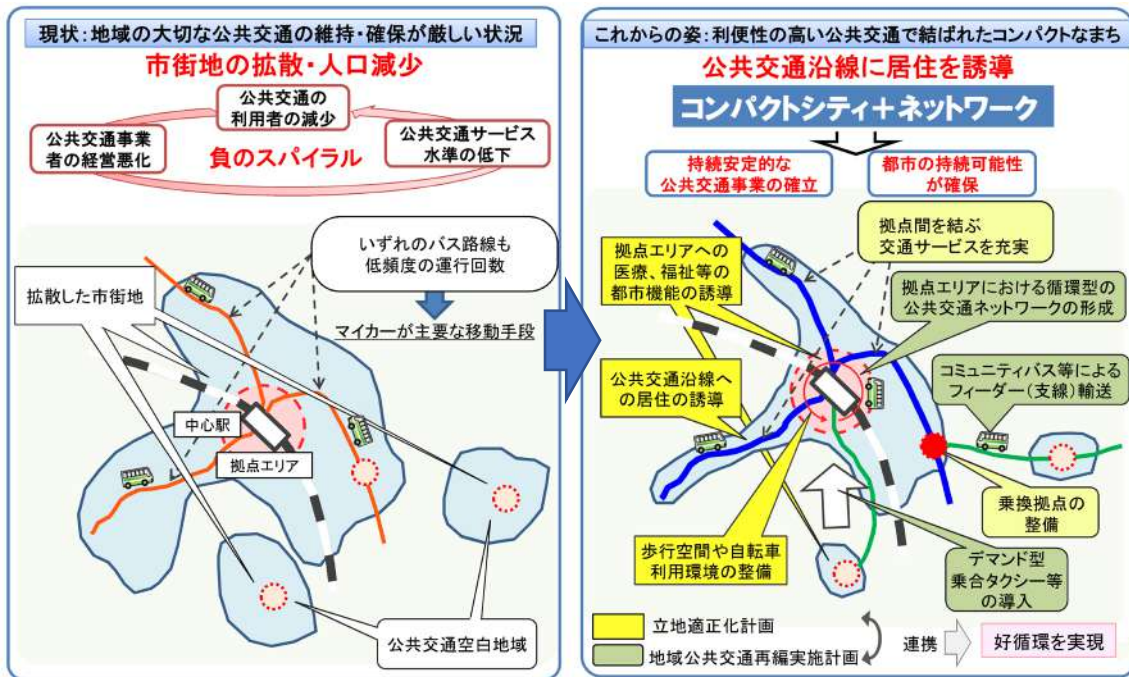
人口減少を見据えたコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

○人口密度が低い市街地を抱えたまま、今後人口が減少すると、医療、商業等の生活サービス施設や公共交通を維持することが困難となり、徒歩や公共交通で日常生活を営むことが困難になるおそれがあります。

○このため、「居住を公共交通沿線や日常生活の拠点に緩やかに誘導する」、「居住と生活サービス施設との距離を短縮することにより、生活利便性が向上する」等、人口減少を見据えたコンパクト・プラス・ネットワークで離れた地区を結ぶまちづくりが全国的に進んでいます。

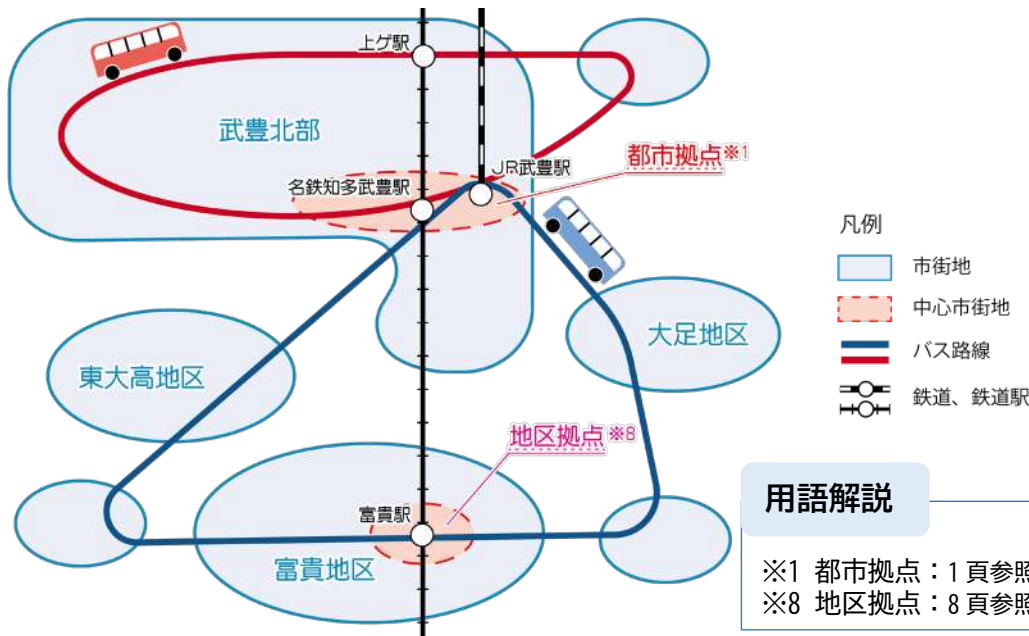
○本町においても、今後人口は減少していくことが見込まれています。このようなコンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえながら、鉄道の利便性が高い対象区域内への定住促進やさらなる公共交通の利便性向上に向けた取組等、人口減少社会に対応したまちづくりを進める必要があります。

図表 44 コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



(資料：国土交通省「立地適正化計画作成の手引き」)

図表 45 武豊町版コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



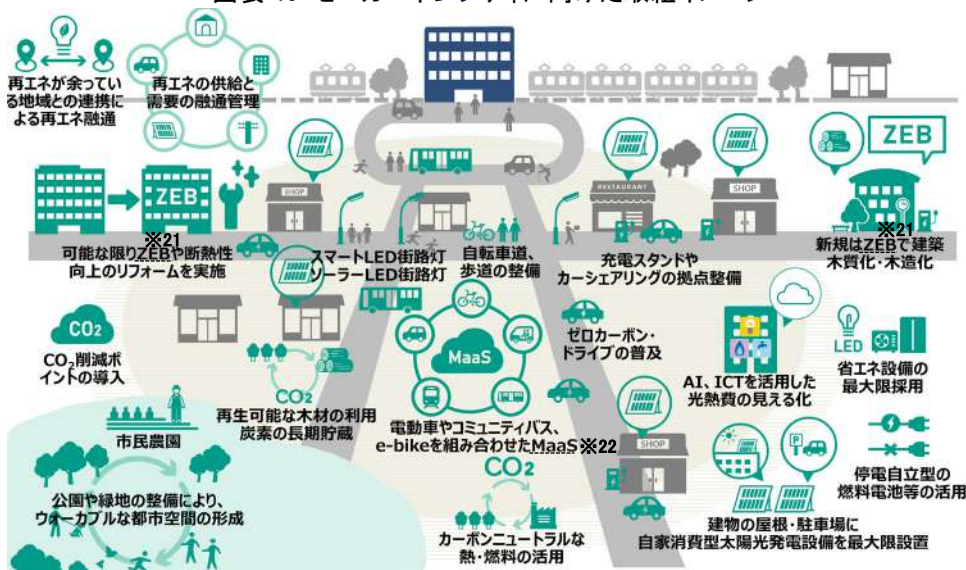
＜将来に向けたまちづくりの方向性＞

次世代型
まちづくり

新たな技術を活用した環境に配慮したまちづくり

- 本町では、2021（令和3）年2月に“2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロ”を目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、また2022（令和4）年3月には「武豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定しました。
- 町の特性を活かしつつ、住民・地域・事業者・行政が一体となって、温室効果ガスの排出抑制に向けた対策と気候変動への対応を総合的・計画的に推進しています。
- 地球温暖化対策について、蓄電池等の住宅用設備の設置や電気自動車等の次世代自動車の購入に対する補助金を交付し、普及啓発に取り組んでいます。
- 対象区域は、町の中心であると同時に公共施設が集積する地域であり、先導的に新たな技術を活用した取組を行うことで町全体に波及させ、環境に配慮したまちづくりを進めていくことが必要です。

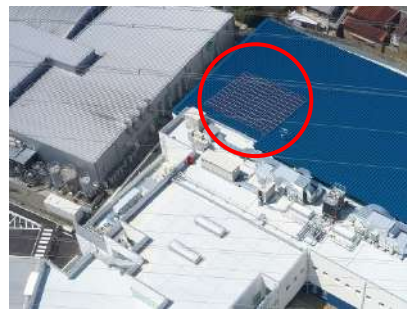
図表 46 ゼロカーボンシティに向けた取組イメージ



（資料：環境省「地域脱炭素ロードマップ」）



町内におけるEV 車両導入例



太陽光パネル
(武豊町屋内温水プール設置)

用語解説

- ※21 ZEB：Net Zero Energy Building の略で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー（石油、石炭、水力、太陽熱等の加工されない状態でエネルギー源として利用されるもの）の収支をゼロにすることを旨とした建物のことです。
- ※22 MaaS：Mobility as a Service の略で、地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ（ある目的をもってある地点からある地点まで移動すること）単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。

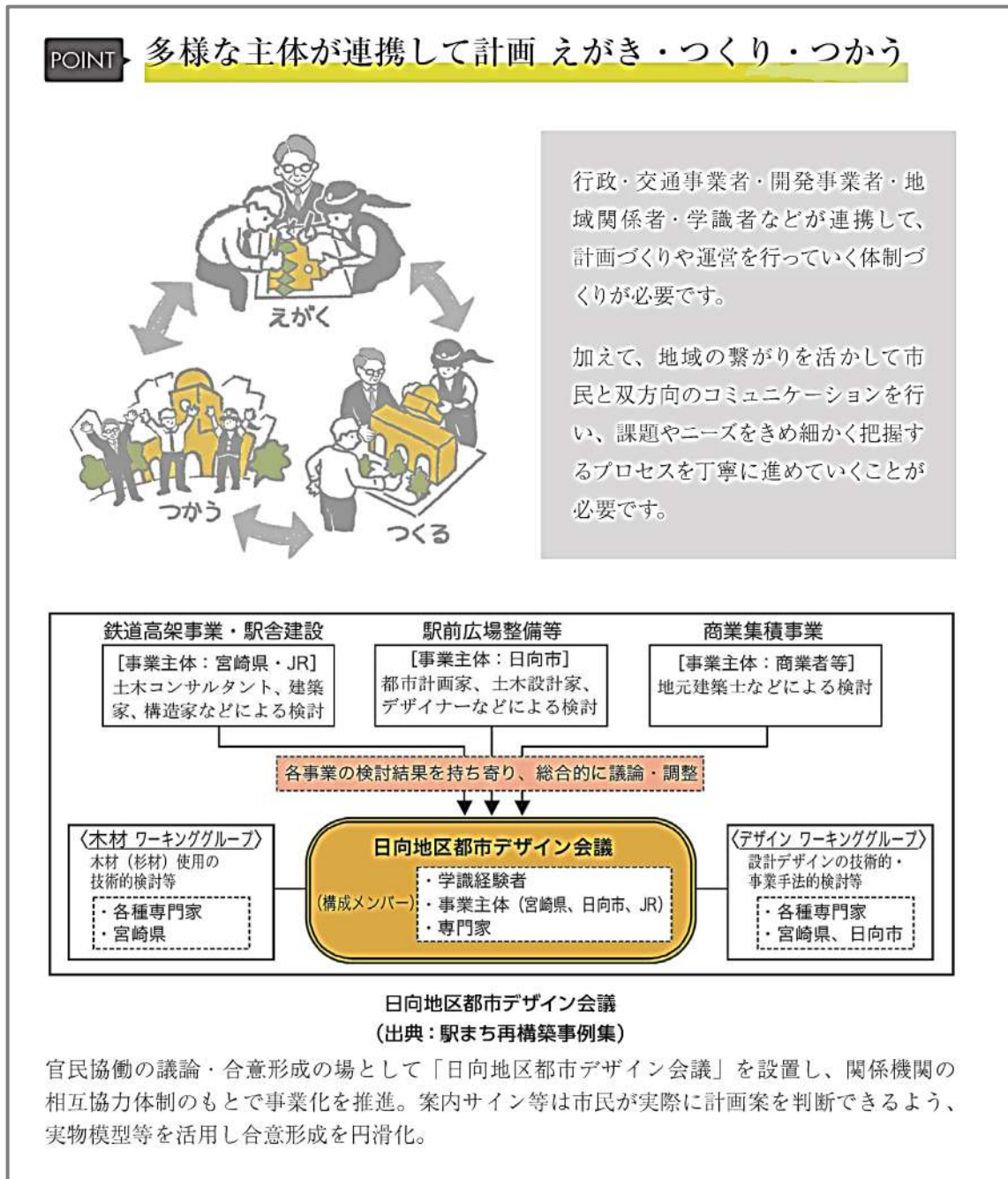
<将来に向けたまちづくりの方向性>

多様な主体との連携

多様な主体と連携したまちづくり

- 対象区域には、町・交通事業者・民間企業、地権者等の多種多様なステークホルダー^{※23}が存在するため、持続的にまちづくりを進めるためには、こうした多様な主体（関係者）と連携して計画の策定から関わってもらうとともに、計画策定後もまちづくりを運営していく体制づくりが必要です。
- 主要な施設の管理運営を担っている町、鉄道事業者等が中心的な役割を果たしていくことが想定されますが、一方で地域の繋がりを活かして住民と双方向のコミュニケーションを図り、課題や住民ニーズをきめ細かく把握するプロセスを丁寧に進めていくことが必要です。

図表 47 多様な主体の連携イメージ



(資料：国土交通省「駅まちデザインの手引き」パンフレット令和3年9月)

用語解説

※23 ステークホルダー：まちづくりを進める上で影響を受ける利害関係者のことです。

<将来に向けたまちづくりの方向性>

災害に強い
まちづくり

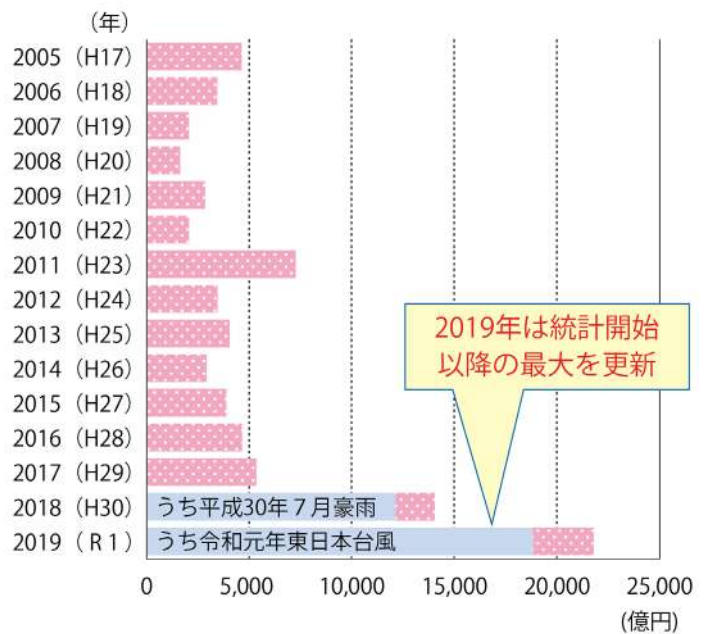
頻発・激甚化する水災害に対応するまちづくり

- 近年、甚大な被害をもたらす水災害が全国各地で発生しており、今後、気候変動の影響による降雨量の増加や海面水位の上昇により、さらに水災害が頻発化・激甚化することが懸念されています。
- 河川整備等と防災まちづくりの総合的・重層的な取組により、水災害に強いまちづくりを目指すことが必要になっています。
- 防災機能（かまどベンチ、マンホールトイレ等）を有する武豊中央公園には、令和5年度中に半田消防署武豊支署の移転が予定されており、さらには災害時の復旧活動指示、制御等の防災業務の中核を担う役場庁舎の移転等を図ることで災害発生時に、防災機能を確実に発揮するための対策を着実に推進する必要があります。

図表48 半田消防署武豊支署完成予想図
(令和5年度中供用開始予定)



図表49 津波以外の水災害被害額の推移



(資料:国土交通省「国土交通白書 2021」)



かまどベンチ(武豊中央公園(北側)設置)



マンホールトイレ(武豊中央公園(北側)設置)

※小型のテントで覆われた簡易仮設トイレを設置して使用します

5. 対象区域におけるまちづくりのキーワード

2022（令和4）年2月7日に開催した「第2回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会」（詳細は85・86頁参照）では、3つの班に分かれ、ワークショップ形式で意見交換を行いました。意見交換では、住民が楽しめる取組や環境に配慮した取組、新たな技術を活用した移動手段に関する取組等、たくさんのアイデアをいただきました。

さらに、同年5月12日に開催した「第3回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会」では、対象区域の将来像について、2人1組で話し合っていたいただき、アイデアをいただきました。

図表50 「第2回 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会」における意見

A 班



- ・まちの顔として駅に降り立つと「武豊に来た」と実感の持てるまち
- ・ゼロカーボンシティを先導できる場所を設定する
- ・若者の起業を応援できるハード+ソフトの仕組
- ・プレイパーク、自然体験型公園
- ・SNS等で住みやすさPR
- ・オシャレな休憩スペース設置
- ・醸造のまちの再生・再現



B 班



- ・駅前でストリートミュージック
- ・マルシェができる芝生広場
- ・カフェ等毎日立ち寄れるお店
- ・歩道を広げて散歩と休憩スペースとしての活用
- ・自動運転EVバスでピストン輸送
- ・アーケードで雨天時もウォークブル^{※9}



C 班



- ・みゆき通りの道路を活用してチョークでお絵描き、むかし遊び、大道芸体験等
- ・手作り菓子、お惣菜が買えるキッチンカー
- ・若者が集まれる場、スケートボードができる場
- ・未来型の公園（畑）に町民がかかわり作る花、果樹、野菜等
- ・役場のとなりにカフェ、レストラン、民と官をつなぐエリア
- ・わかりやすい案内板
- ・役場移転と共に駅前の整備

用語解説

※9 ウォークブル：8頁参照

図表51 「第3回 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会」における意見

駅西グランドデザインとは

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

ステップアップタウン武豊

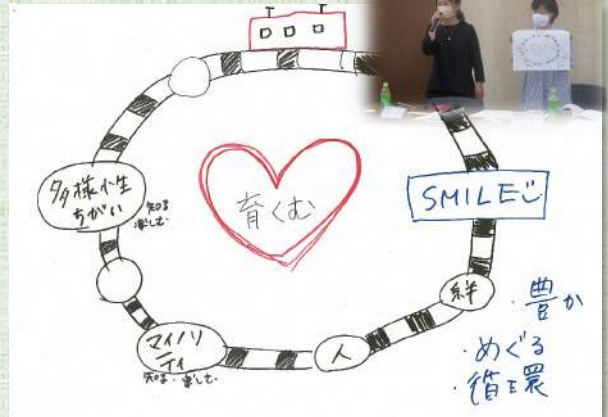
- ・何もないという意見を伸びしろがあると捉え、一歩ずつ前進をしていく
- ・坂道があっても高齢者に優しいまちに

ステップアップ
タウン武豊



『育む』『スマイル駅』 『豊か』『循環』

- ・JRと名鉄があり、JRの終点があるということが特徴的
- ・『育む』を動力として、最終的には武豊スマイルという駅にたどり着く
- ・武豊の『豊』という文字が意味する『豊かさ』も育まれていく



『スマートタウン』『センターエリア』 『集い拠点』『顔』 『先導地』

- ・現在の2つの拠点を最終的には1つの大きな拠点としてまとめる
- ・対象区域は重要な区域であるということをしっかりと表現

2つから、1つの大きな拠点へ。
「顔」、「先導地」
「スマートタウン」
「センターエリア」
「集い拠点」



ネクスト 『武豊NEcSTエリア』

～ゆめがあふれるみんなのリビング～

- ・N: new/next先進性、E: ecofriendly環境・省エネ、c: communication/comfort人の交流・快適な住環境、S: smart/sustainable知の集積・未来に続くにぎわい、T: terminal交通利便性・集積地
- ・NEcSTの大文字を読むとNEcSTで鳥の巣を表し、ここで育ち巣立っていった人たちがまた戻ってくるようなまちに
- ・リビングのようにみんながリラックスできる空間を提供する

武豊(たけとよ)
NEcST エリア
～ゆめがあふれるみんなのリビング～

- ・N: new/next 先進性
- ・E: ecofriendly 環境・省エネ
- ・c: communication/comfort 人の交流・快適な住環境
- ・S: smart/sustainable 知の集積、未来に続くにぎわい
- ・T: terminal 交通利便性・集積地



『交流』

- ・役場や鉄道駅が2つある等区域の特性を考えると、様々な人々が集うのではないかと
- ・来訪者と住民の隣同士での会合や、買物等、人々が滞留するような議論も必要

交流

来訪者、住民、会合、お店、施設
跡地の利用の視点



※上記のご意見を参照してP48の将来像を検討しました



第3章 将来像とまちづくりの目標及び戦略

1. 対象区域のまちづくりの意義と将来像

対象区域では、名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺という立地条件を活かしながら、第6次武豊町総合計画で位置づけた都市拠点※1・公共交流拠点※2を含めた一体的なまちづくりが必要です。

そのためには、第6次武豊町総合計画に即しつつ、対象区域の特徴や課題を踏まえ、武豊町の中心となるまちづくりを進め、町全体に波及させていくことが重要です。このため、町内外から人々が集い、交流する場の創出に向けたまちづくりを進めます。さらに、最新の技術を取り入れながら、武豊町の未来につながる持続可能なスマートタウン（デジタル技術等を活用して利便性・快適性を高めるまち）の創出を図ります。

上記を踏まえ、駅西グランドデザインの将来像を以下のように設定します。



駅西グランドデザイン

将来像

人が集い・交流する 夢があふれるみんなのスマートタウン

“豊” かさ育む 次世代（ネクスト：NEcST）エリアの創造

N: new/next 先進性

E: ecofriendly 環境・省エネ

C: communication/comfort 人の交流・快適な住環境

S: smart/sustainable/smile/station 知的集積・未来に続くにぎわい、笑顔の交差する駅

T: transport/transform/together 交通便利性、変わりゆく武豊、一緒に

NESTには鳥の巣という意味もあります。

（人が育ち、住み続けられるまち）



用語解説

※1 都市拠点：1頁参照、※2 公共交流拠点：1頁参照

2. 駅西グランドデザインのまちづくりの目標

対象区域における課題の整理を踏まえ、まちづくりの目標を以下のように定めます。

目標①

心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口^{※7}』 となるワクワクするまち

対象区域は、特急停車駅である名鉄知多武豊駅を始めとする鉄道駅が整備され、通勤・通学等の利便性が高いまちの玄関口^{※7}です。

対象区域の特性を活かし、町内外から訪れる人がそれぞれ心地よい時間を過ごすことをイメージすることができ、好印象を持ってもらえるワクワクするまちを目指します。

目標②

様々な人がまちの魅力を感じながら、 快適に、楽しく暮らせるまち

対象区域は、商業施設や公共施設が立地しており、居住者の居住継続意向は高い値となっていますが、空き地や青空駐車場が多く点在するとともに、建築物の更新が進んでおらず、都市のスポンジ化^{※16}が懸念されます。

生活に便利な施設が立地している状況を活かしつつ、土地の有効活用を促すことで、さらなる地域の魅力や生活利便性を向上し、住んでいる人が便利な日常生活を送ることができ、まちの魅力を感じながら楽しく暮らし続けることができるまちを目指します。

目標③

持続可能な未来に向けて武豊を先導する 新しいチャレンジをしていくまち

本町はゼロカーボンシティ宣言都市として、将来にわたって健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいく取組を推進する必要があります。

町の中心として、持続可能なまちづくりに向けて、町を先導する新たなチャレンジを行うまちを目指します。

用語解説

- ※4 カーボンニュートラル：6頁参照
- ※7 玄関口、まちの玄関口：8頁参照
- ※9 ウォークアブル：8頁参照
- ※16 スポンジ化：32頁参照

3. 駅西グランドデザインのまちづくり戦略

まちづくりの目標を実現するためのまちづくり戦略を以下のように定めます。

まちづくりの目標①

心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口^{※7}』となるワクワクするまち

戦略①

多くの人が集まる駅周辺のにぎわいを創出するまちづくり

- ・対象区域は名鉄知多武豊駅やJR武豊駅が立地し、町内外から多くの人が集まるため、まちの『玄関口』^{※7}となる魅力的な市街地の形成を図ります。
- ・多くの人が集まるポテンシャルの高さを活かして、駅周辺で長く過ごしてもらうことで、にぎわいの創出を図ります。

戦略②

町民への公共サービスが充実するまちづくり

- ・公共施設の老朽化に伴う更新・再配置にあわせて、町全体からアクセスしやすい場所への公共機能の集積を進めます。
- ・住民が快適に過ごせる公共施設の配置を計画し、効率的な公共サービスを提供できる体制の整備とともに住民同士の交流の活性化を図ります。

まちづくりの目標②

様々な人がまちの魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまち

戦略③

通勤・通学や買物が便利で、良好な住環境で暮らせるまちづくり

- ・通勤、通学が便利であるとともに、買物ができる商業施設の立地する便利な環境を活かし、空き地・空き家等を有効活用した多様な世代の定住促進を図ります。
- ・対象区域内を公共交通、自家用車、徒歩、自転車等で安全で快適に移動できる環境整備を図ります。

戦略④

歩いて武豊の魅力を体感できるまちづくり

- ・居住者や訪れた人が、イベントに参加したり、散策して魅力を体感できるような、歩いて楽しめるウォークアブル^{※9}な空間の整備を図ります。

まちづくりの目標③

持続可能な未来に向けて武豊を先導する新しいチャレンジをしていくまち

戦略⑤

新しいことにチャレンジするまちづくり

- ・町の中心として、官民で連携しながら最新技術の導入の検討やカーボンニュートラル^{※4}の実現に向けた新たな取組に挑戦し、町全域への波及を図ります。

戦略⑥

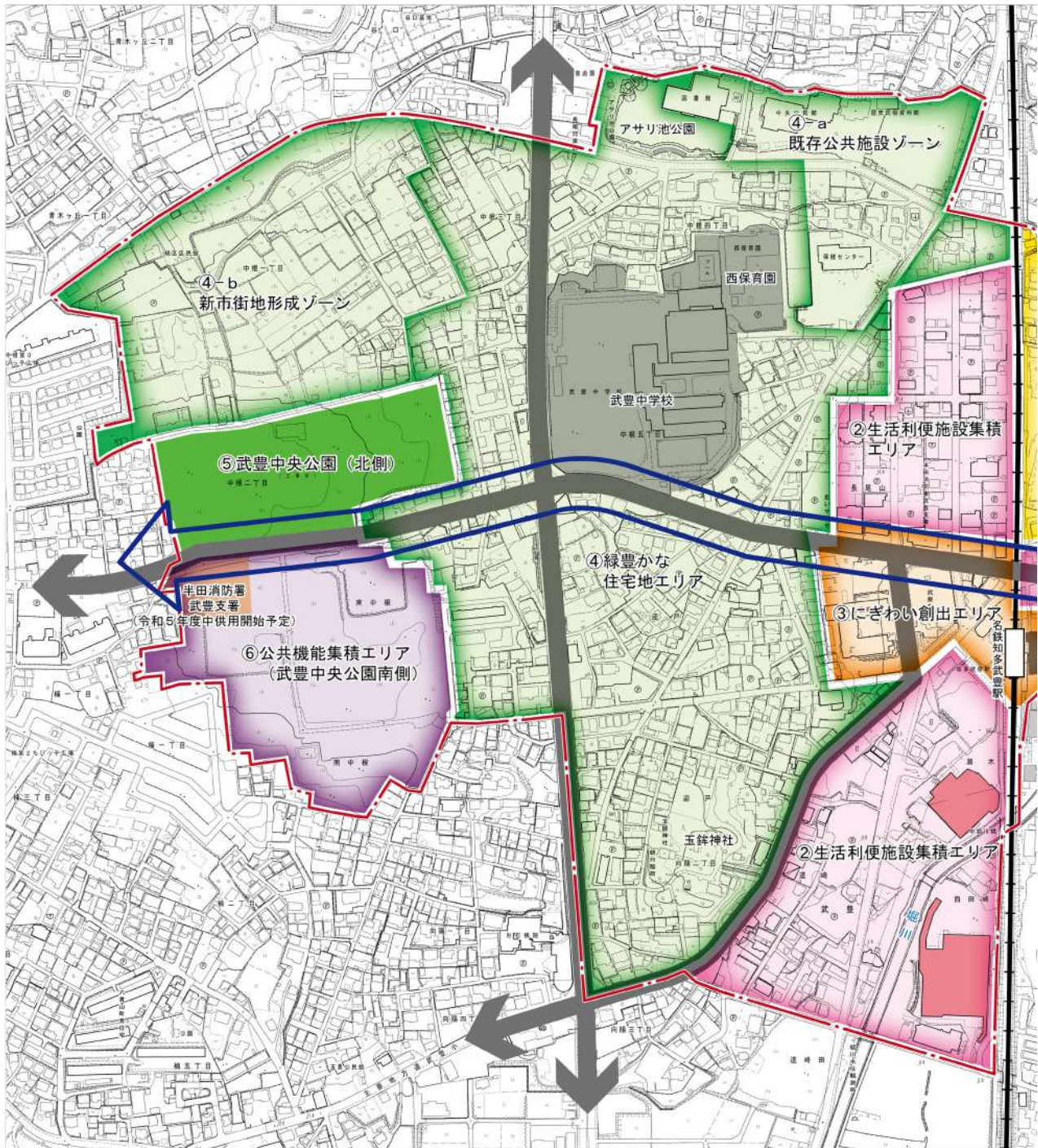
災害に強いまちづくり

- ・対象区域の住民のみならず全町民が、今後も安全で安心して住み続けられるように、防災対策の強化・充実を図ります。

4. 駅西グランドデザインのまちづくり構想図

まちづくり戦略を踏まえ、まちづくり構想図を以下のように設定します。

図表 52 まちづくり構想図



用語解説

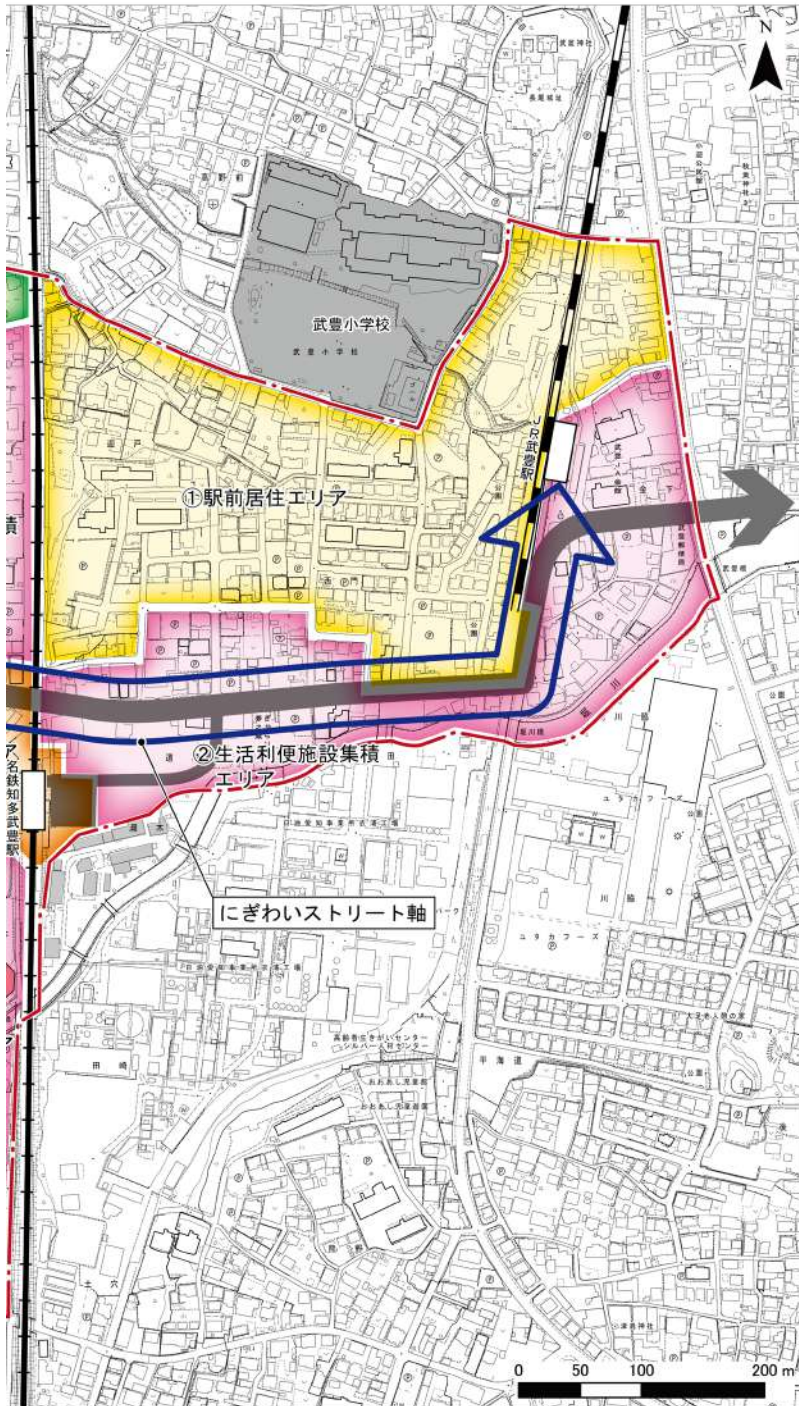
- ※2 公共交流拠点：1頁参照
- ※9 ウォークブル：8頁参照

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて



- ①駅前居住エリア
多様な世代の居住ニーズに対応した戸建住宅・共同住宅等が立地するまちなか居住エリア
- ②生活利便施設集積エリア
生活利便施設が充実し、地域住民を始めすべての住民の便利で快適な暮らしを支えるエリア
- ③にぎわい創出エリア
町内外から多くの人が集い、多様な交流が生まれる名鉄知多武豊駅を中心とするにぎわいあふれるエリア
- ④緑豊かな住宅地エリア
a. 既存公共施設ゾーン
b. 新市街地形成ゾーン
緑豊かで環境に配慮した戸建住宅等が立地する住宅地エリア
- ⑤武豊中央公園（北側）
住民が集うことができ、防災機能を有する公共交流拠点^{※2}の核となる公園
- ⑥公共機能集積エリア（武豊中央公園南側）
役場庁舎を含む公共施設が集積し、様々な目的で住民が集い、交流が育まれるエリア

⇔ 主要道路
対象区域内外におけるネットワークを形成する主要な道路

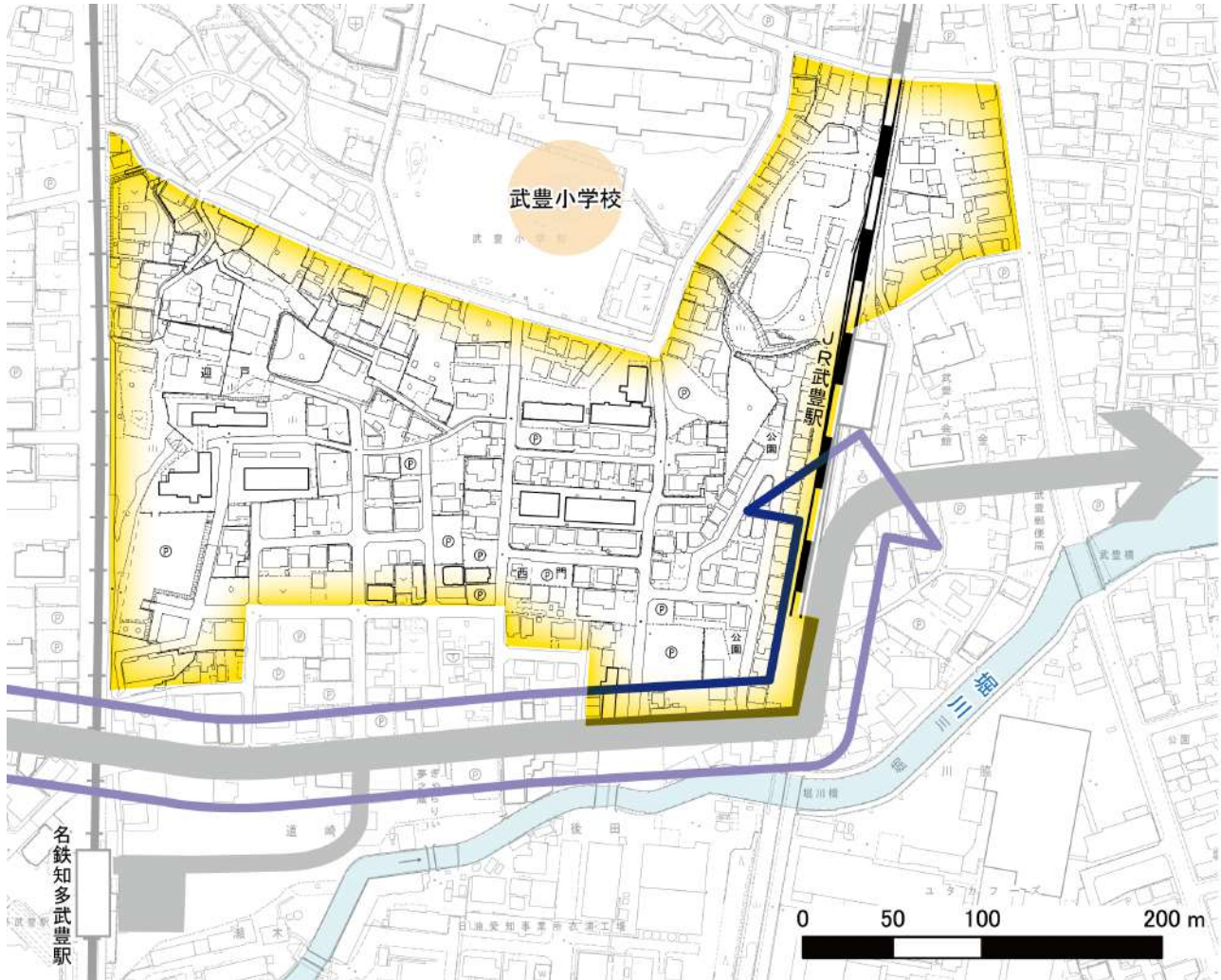
⇔ にぎわいストリート軸
名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅をつなぎ、沿道に買物・飲食・サービス施設が充実するエリア
また、ウォークブル^{※9}なまちづくりが進められ、歩行者が歩くことが楽しくなるエリア

①駅前居住エリア

駅前居住エリアは、名鉄河和線とJR武豊線の間の鉄道駅の利便性に優れたエリアです。JR武豊駅西側には比較的新しい戸建て住宅があり、公園の整備も進められ、住宅地が形成されています。一方、畑や青空駐車場等の都市的低未利用地が点在している状況があります。

駅前居住エリアにおいては、名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅の利便性の高さを活かし、都市的低未利用地を有効活用しながら武豊小学校も近いことから戸建住宅・共同住宅等の立地を促進する、便利な駅前居住ができるエリアとしてまちづくりを進めます。

図表53 駅前居住エリア

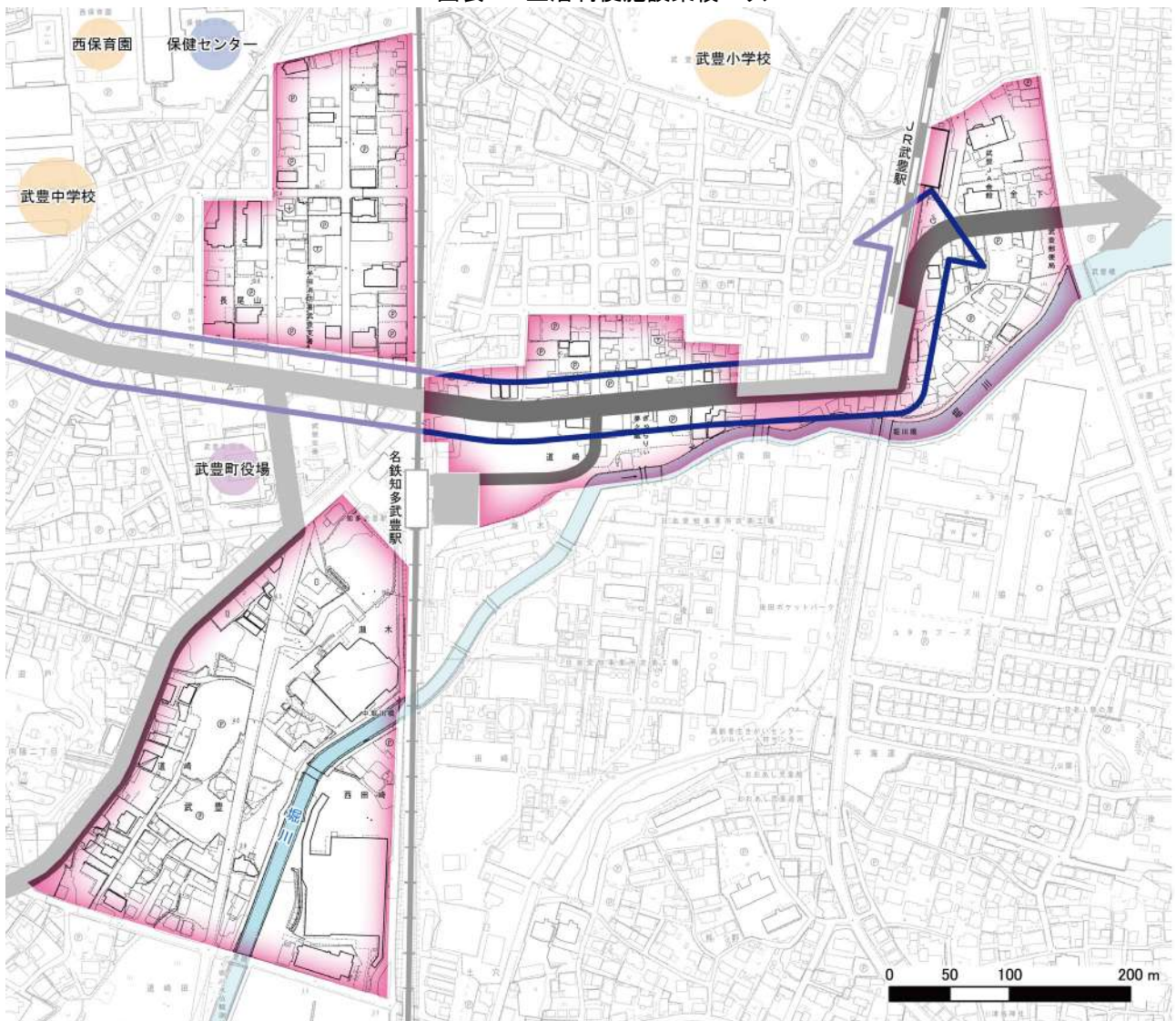


②生活利便施設集積エリア

生活利便施設集積エリアは、日常的な買物や飲食等ができるスーパー等の店舗が複数立地しています。アンケート調査結果からは、このエリアを中心とする将来のまちづくりについて「日用品の買物に便利なまち」や「飲食を楽しめるまち」への住民ニーズが高く、生活利便施設のさらなる充実が必要です。

生活利便施設集積エリアにおいては、生活利便施設が充実し、地域住民を始めすべての住民の便利で快適な暮らしを支えるエリアとしてまちづくりを進めます。

図表54 生活利便施設集積エリア

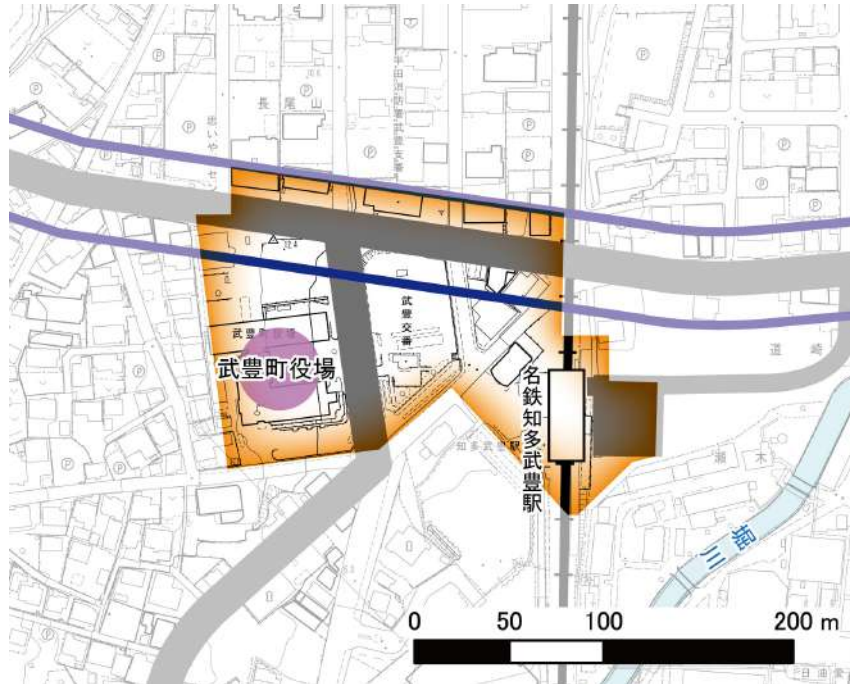


③にぎわい創出エリア

にぎわい創出エリアは、鉄道利用者が最も多い名鉄知多武豊駅の西側に隣接し、駅利用者の多くが駅西口を利用することから、にぎわい創出の観点においてポテンシャルの高いエリアです。また、エリア内には役場庁舎敷地を始め町の所有する公共用地があり、公共空間を活用した取組も期待されます。

にぎわい創出エリアにおいては、名鉄知多武豊駅を中心とする町内外からの多くの人が集い、多様な交流が生まれるシンボリックな、にぎわいあふれるエリアとしてまちづくりを進めます。

図表55 にぎわい創出エリア



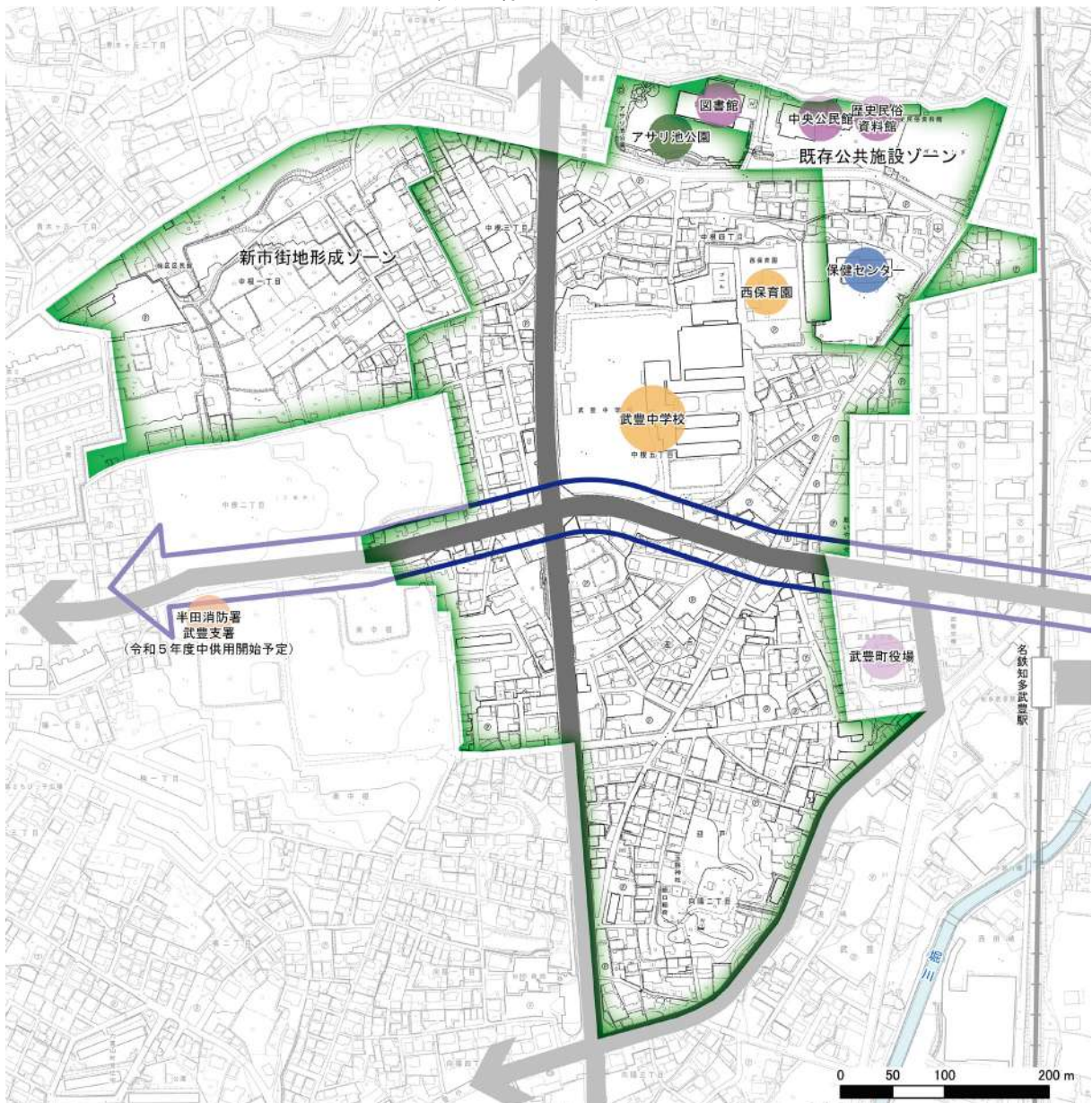
④緑豊かな住宅地エリア

緑豊かな住宅地エリアは、既存ストック（今ある資源）としての生垣等のある戸建住宅が主体の住宅地となっており、緑豊かな住宅地の環境を維持していくエリアとしてまちづくりを進めます。

そして、エリア内の図書館、中央公民館、歴史民俗資料館、保健センターが立地するゾーンを既存公共施設ゾーンとし、公共公益サービスを住民に提供するゾーンとしてまちづくりを進めます。

さらに、武豊中央公園北部一帯の市街化調整区域となっている新市街地形成ゾーンについては、公共交流拠点※2に隣接する立地を活かし、緑豊かで環境に配慮した新たな住宅地の整備を検討します。

図表56 緑豊かな住宅地エリア



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照

⑤武豊中央公園（北側）

武豊中央公園（北側）は、地域住民が集い憩うことができる公園であり、また、高台に位置しており、防災面でも有利なことから、かまどベンチやマンホールトイレ等、防災機能を有する公園として整備が進んでいます。

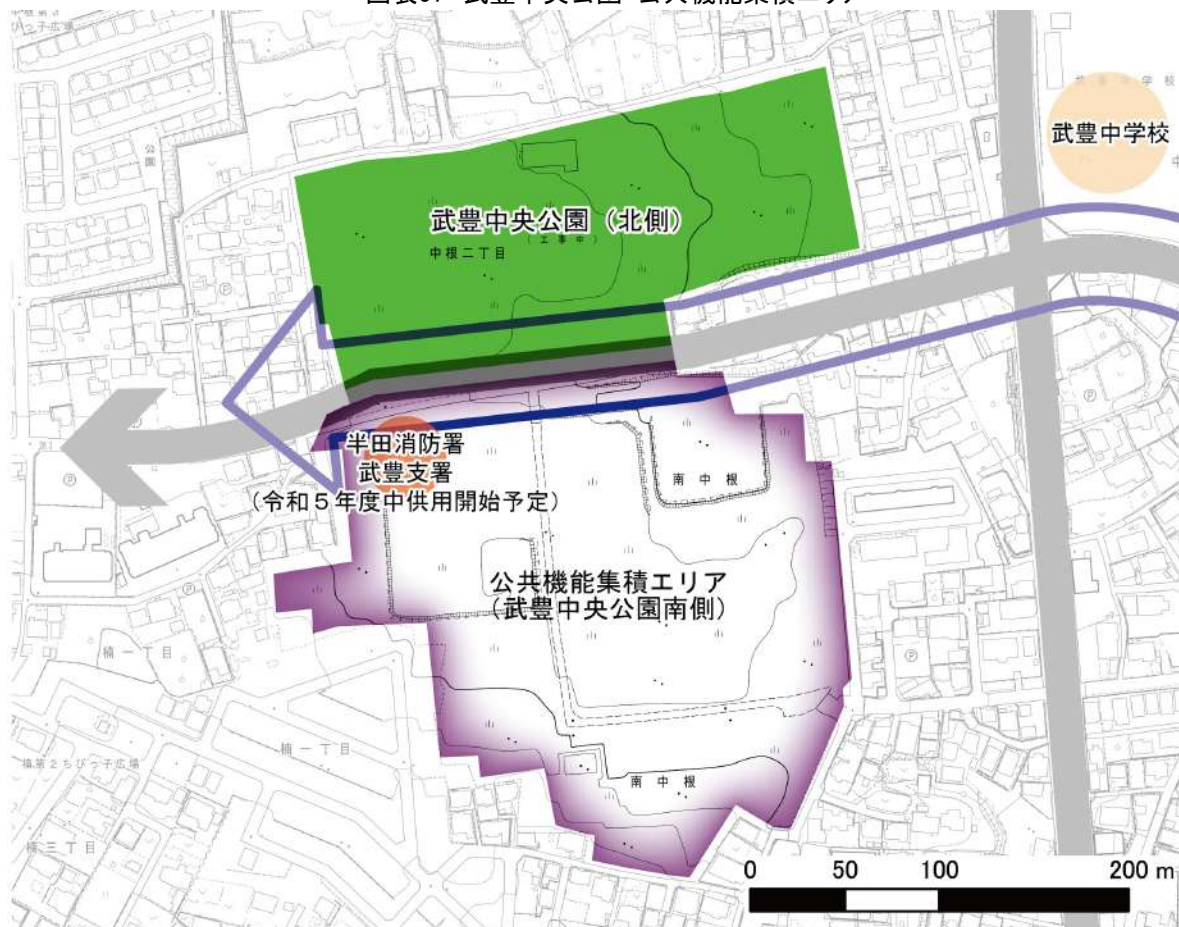
武豊中央公園においては、住民が親しみをもって利用でき、災害時には防災機能を備える公共交流拠点※2の核となる場づくりを進めます。

⑥公共機能集積エリア（武豊中央公園南側）

公共機能集積エリア（武豊中央公園南側）は、（都）武豊港線の南側に接するエリアであり、本町の最上位計画である第6次武豊町総合計画では武豊中央公園（北側）とともに公共交流拠点※2に位置づけられています。エリア内には、半田消防署武豊支署が先行して移転する予定です（令和5年度中供用開始予定）。

公共機能集積エリアにおいては、役場庁舎を含む公共施設が集積し、様々な目的で住民が集い、豊かな交流が育まれるエリアとしてまちづくりを進めます。

図表57 武豊中央公園・公共機能集積エリア



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照

第4章 取組方針

1. 取組の体系

まちづくり戦略を進める上で必要となる具体的な取組方針を以下に整理します。

図表58 取組方針

まちづくりの目標	まちづくり戦略	取組方針
目標① 心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口』※7となるワクワクするまち	戦略① 多くの人が集まる駅周辺のにぎわいを創出するまちづくり	<取組方針①-1> ・機能性が高いシンボリックな駅前空間の形成 <取組方針①-2> ・人が集い、にぎわい創出に資する都市機能の立地誘導
	戦略② 町民への公共サービスが充実するまちづくり	<取組方針②-1> ・様々な世代・目的の人が集い触れ合うことで豊かな交流が育まれる 公共交流拠点 ※2の形成 <取組方針②-2> ・公共交通サービスの充実 <取組方針②-3> ・公共施設が集積する地域を 学習交流拠点 ※3として維持・活用
目標② 様々な人がまちの魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまち	戦略③ 通勤・通学や買物が便利で、良好な住環境で暮らせるまちづくり	<取組方針③-1> ・新たな住宅地の形成 <取組方針③-2> ・円滑な自動車交通循環を図る 基盤施設整備 <取組方針③-3> ・新たな移動手段の導入
	戦略④ 歩いて武豊の魅力を体感できるまちづくり	<取組方針④-1> ・歩きたくなる魅力的な空間づくり <取組方針④-2> ・安全で快適に移動できる 歩行空間 の形成
目標③ 持続可能な未来に向けて武豊を先導する新しいチャレンジをしていくまち	戦略⑤ 新しいことにチャレンジするまちづくり	<取組方針⑤-1> ・ エコ拠点 ※24・ エコタウン ※25の形成 <取組方針⑤-2> ・環境にやさしい移動手段の導入
	戦略⑥ 災害に強いまちづくり	<取組方針⑥-1> ・防災拠点の形成 <取組方針⑥-2> ・避難場所・避難経路の確保

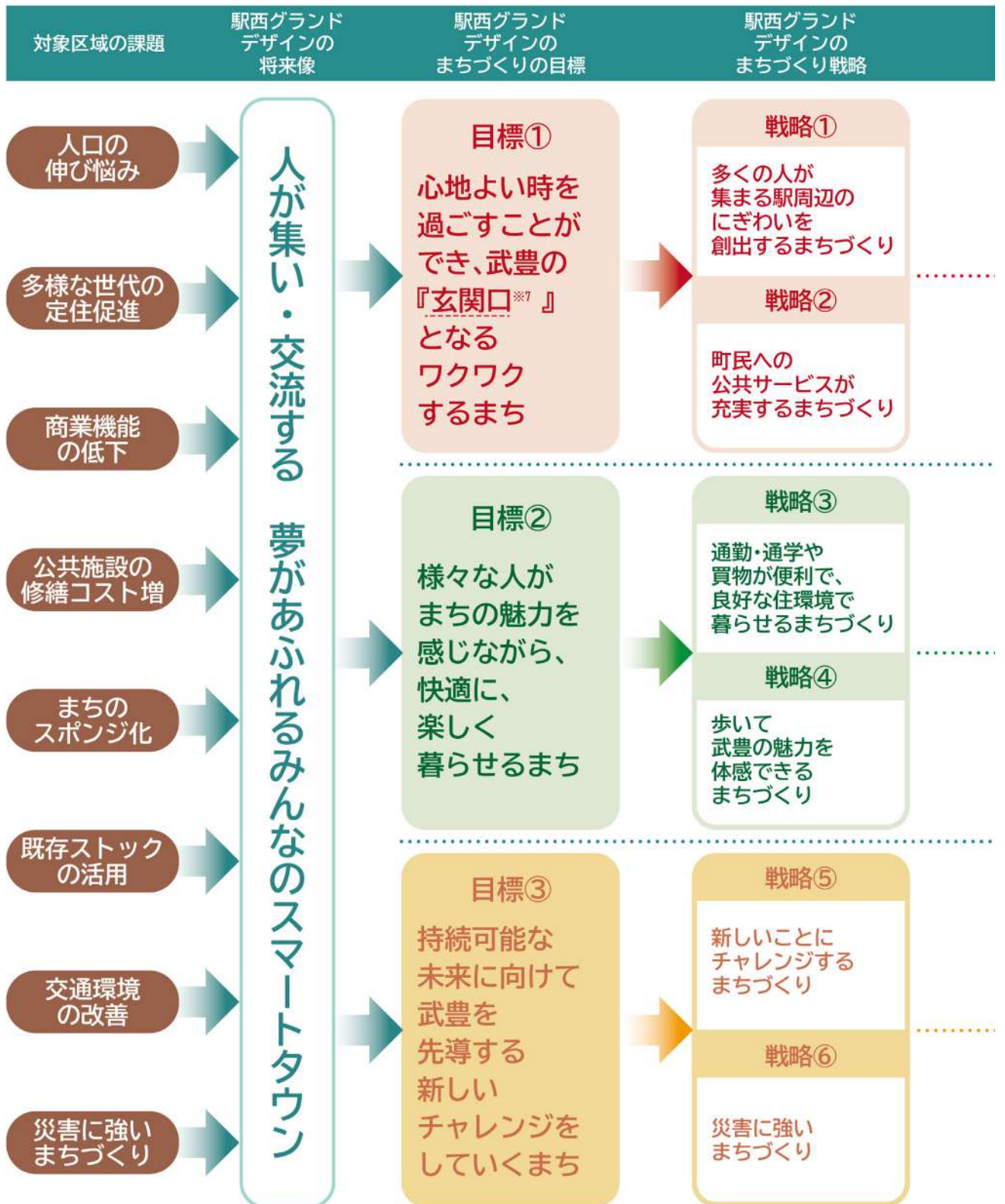
用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照 ※3 学習交流拠点：3頁参照 ※7 玄関口：8頁参照

※24 エコ拠点：温室効果ガスの排出削減に向けた取組（例、蓄電池や電気自動車の普及啓発等）を先進的に行っていく拠点です。

※25 エコタウン：温室効果ガスの排出削減に向けた取組を先進的に行っていく住宅地等の市街地です。（例、スマートLED街灯の設置）

図表 59 駅西グランドデザインの体系



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照 ※3 学習交流拠点：3頁参照 ※7 玄関口：8頁参照
 ※24 エコ拠点：58頁参照 ※25 エコタウン：58頁参照

取組方針 関連する ゴール SDGsの目標

①-1 機能性が高いシンボリックな駅前空間の形成

①-2 人が集い、にぎわい創出に資する都市機能の立地誘導

②-1 様々な世代・目的の人が集い触れ合うことで豊かな交流が育まれる公共交流拠点^{※2}の形成

②-2 公共交通サービスの充実

②-3 公共施設が集積する地域を学習交流拠点^{※3}として維持・活用



③-1 新たな住宅地の形成

③-2 円滑な自動車交通循環を図る基盤施設整備

③-3 新たな移動手段の導入

④-1 歩きたくなる魅力的な空間づくり

④-2 安全で快適に移動できる歩行空間の形成



⑤-1 エコ拠点^{※24}・エコタウン^{※25}の形成

⑤-2 環境にやさしい移動手段の導入

⑥-1 防災拠点の形成

⑥-2 避難場所・避難経路の確保



図表 60 取組方針とまちづくり構想図との関係

取組方針	まちづくり構想図						
	①駅前居住エリア	②生活利便施設集積エリア	③にぎわい創出エリア	④緑豊かな住宅地エリア	⑤武豊中央公園(北側)	⑥公共機能集積エリア(武豊中央公園南側)	にぎわいストリート軸
①-1-a 公共空間の修景整備(美装化、無電柱化等)			○				○
①-1-b 官民が連携して機能性が高い駅前空間の形成			○				
①-1-c 公共空間や民有空間の緑化促進			○				○
①-2-a 交流、子育て支援機能の立地誘導、地域でマネジメントする仕組づくり			○				
①-2-b 駅前のにぎわい創出に資する都市機能の立地誘導		○	○				○
①-2-c 沿道建物の共同化を促進、憩いやにぎわいの空間づくり		○	○				○
①-2-d 空き家や空き店舗、空き地等の有効活用、試行的実験の実施		○	○				○
①-2-e 既存ストックの有効活用(宅地化)に向け地権者意識の啓発	○	○	○				○
②-1-a 公共施設の移転及び集約化・複合化						○	
②-1-b 豊かな交流が育まれる施設整備						○	
②-1-c 将来の公共施設の受け皿として支障が生じないような暫定利用						○	
②-2-a コミュニバスのルートやダイヤの見直し、公共交通結節機能の強化・充実			○			○	
②-2-b 駐車場・駐輪場の適正な配置及び整備		○	○				
②-3-a 中央公民館等の将来の移転の検討と引き続きの維持・活用				○			
②-3-b 保健センターの住民サービス向上に向けた移転				○			
③-1-a 自然を感じることができる新たな住宅地の形成				○			
③-1-b 民有地再編を契機とした住宅供給、民間活力導入による共同住宅の立地誘導			○				
③-1-c (都)武豊港線の拡幅にあわせた中高層階への住宅導入の働きかけ		○	○				○
③-1-d 既存ストックの有効活用に向けた地権者意識の啓発	○	○	○				○
③-2-a 安全で便利に駅にアクセスすることが可能となる基盤施設整備			○				
③-2-b JR武豊駅前広場の新設整備		○	○				○
③-3-a 公共交通の利用促進、環境に優しい小型モビリティや燃料電池車両等の導入	○	○	○	○	○	○	○
④-1-a 道路のコミュニティ道路化や修景整備、案内板の設置による散歩道づくり	○	○	○	○	○	○	○
④-2-a 低未利用地の有効活用や歩道にベンチを設置する等滞在空間の確保	○	○	○	○	○	○	○
④-2-b 通過交通の速度抑制を図るための安全対策	○	○		○			
④-2-c 沿道建物の共同化を促進、憩いやにぎわいの空間づくり		○	○				○
⑤-1-a クリーンエネルギーによる発電、緑化促進			○			○	
⑤-1-b 緑豊かで環境に配慮した住宅形成の促進				○			
⑤-1-c 緑化や景観に関するルールづくり	○			○			
⑤-2-a 公共交通の利用促進、環境に優しい小型モビリティや燃料電池車両等の導入	○	○	○	○	○	○	○
⑥-1-a 武豊中央公園や消防署と一体となった防災安全性を高める施設の設置					○	○	
⑥-2-a 避難場所の確保や地域住民と協力した適切な維持管理、避難経路の確保	○	○	○	○	○	○	○

第1章

駅西グラウンドデザインとは

第2章

対象区域はどんなまち?

第3章

将来像とまちづくりの目標及び戦略

第4章

取組方針

第5章

計画の実現に向けて

参考資料

2. 取組方針の整理

取組の体系で示した個別の取組方針について以下に整理します。

まちづくりの目標① 心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口※7』となるワクワクするまち

戦略① 多くの人が集まる駅周辺のにぎわいを創出するまちづくり

- ・対象区域は名鉄知多武豊駅やJR武豊駅が立地し、町内外から多くの人が集まるため、まちの『玄関口』※7となる魅力的な市街地の形成を図ります。
- ・多くの人が集まるポテンシャルの高さを活かして、駅周辺で長く過ごしてもらうことで、にぎわいの創出を図ります。

取組方針①-1 機能性が高いシンボリックな駅前空間の形成

関連 エリア	駅前居住 エリア	生活利便施設 集積エリア	にぎわい創出 エリア	緑豊かな 住宅地エリア	武豊中央公園 (北側)	公共機能集積 エリア (武豊中央公園南側)	にぎわい ストリート軸
-----------	-------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------------------	----------------

- 名鉄知多武豊駅西側駅前広場の新設やアクセス道路の改善にあわせ、公共空間の修景整備（美化、無電柱化等）を進めます。
にぎわい創出
エリア にぎわい
ストリート軸
- 公共空間と周辺の建物が一体感を醸成するようなトータルデザインの誘導、景観コントロールにより、官民が連携して機能性が高い駅前空間を形成します。
にぎわい創出
エリア
- 緑地空間の確保を図るとともに、公共空間や民有空間の緑化を促進します。
にぎわい創出
エリア にぎわい
ストリート軸

図表 61 にぎわい創出エリアのイメージ



用語解説

※7 玄関口、まちの玄関口：8頁参照

取組方針①-2 人が集い、にぎわい創出に資する都市機能の立地誘導

関連エリア	駅前居住エリア	生活利便施設集積エリア	にぎわい創出エリア	緑豊かな住宅地エリア	武豊中央公園(北側)	公共機能集積エリア(武豊中央公園南側)	にぎわいストリート軸
-------	---------	-------------	-----------	------------	------------	---------------------	------------

a. 現在の役場用地では、庁舎移転にあわせ多様な世代が交流できる空間づくりを図り、交流機能や子育て支援に関する機能等の立地誘導を検討します。また、にぎわい創出エリアを中心にマルシェやイベント等が開催できる多目的な空間を確保するとともに、地域住民や地域活動を行う団体等への空間の使い方をマネジメントする仕組づくりの働きかけを検討します。

にぎわい創出エリア

b. 名鉄知多武豊駅西側駅前広場の新設やアクセス道路の改善にあわせ、魅力ある店舗や飲食店の立地誘導を図るとともに、医療施設等の住民生活を支える生活利便施設や、高校生を始めとする駅利用者が滞在できる施設、職住近接^{※26}や起業を支援するコワーキングスペース^{※27}を有する施設、観光案内スペース・アンテナショップ等の駅前のにぎわい創出に資する都市機能の立地を検討します。

生活利便施設集積エリア

にぎわい創出エリア

にぎわいストリート軸

c. (都)武豊港線の拡幅にあわせ、低層階への商業施設等を配置した沿道建物の共同化の検討や、新設される歩道では、沿道店舗等と連携して、憩いやにぎわいの空間づくりを進めます。(取組方針④-2-c 共通)

生活利便施設集積エリア

にぎわい創出エリア

にぎわいストリート軸

d. まちづくりに興味がある住民や商店主等と連携し、沿道に点在する空き家や空き店舗、空き地等の有効活用・リノベーション(再生)を図るとともに、基盤整備と連携した官民のパブリック空間を活用したプレイスメイキング^{※28}等の試行的実験を実施します。

生活利便施設集積エリア

にぎわい創出エリア

にぎわいストリート軸

e. 点在する空き地や青空駐車場等の既存ストック(今ある資源)の有効活用(宅地化)に向け地権者意識の啓発を図ります。

駅前居住エリア

生活利便施設集積エリア

にぎわい創出エリア

にぎわいストリート軸

図表 62 にぎわい創出エリア(役場庁舎移転後)のイメージ



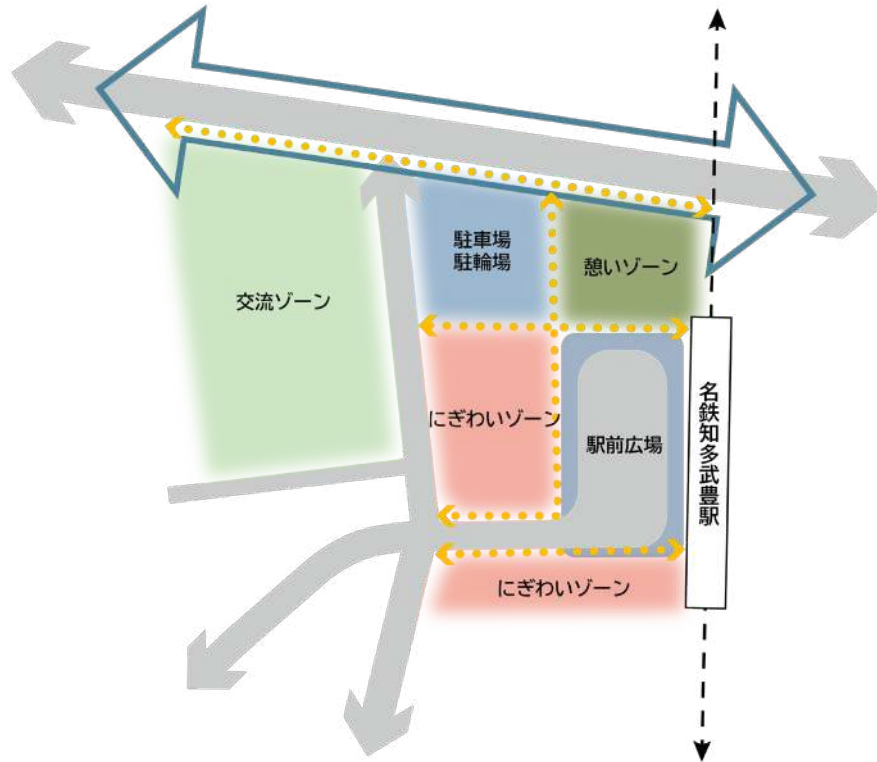
用語解説

※26 職住近接：自宅と職場の距離が近いことを意味します。通勤時間が短くなり、ゆとりある生活の実現が期待されます。

※27 コワーキングスペース：専用の個室スペースではなく共有型のオープンスペースで仕事をするスタイルのオフィススペースです。

※28 プレイスメイキング：都市の中に、単なるスペースではなく、居心地の良い場所、楽しく過ごせる場所(プレイス)をつくることや個人の精神的なよりどころとなる場をその人自身が住んでいる地域や関わりのある地域で自ら創出・再生することです。(例. まちなかの駐車場を借り切ってイベントを開催する等)

図表 63 にぎわい創出エリアの整備イメージ



交流ゾーンのイメージ(他市町の例)

(資料:国土交通省「官民連携(PPP/PFI)事業の推進セミナー資料」)

まちづくりの目標① 心地よい時を過ごすことができ、武豊の『玄関口^{※7}』となるワクワクするまち

戦略② 町民への公共サービスが充実するまちづくり

- ・ 公共施設の老朽化に伴う更新・再配置にあわせて、町全体からアクセスしやすい場所への公共機能の集積を進めます。
- ・ 住民が快適に過ごせる公共施設の配置を計画し、効率的な公共サービスを提供できる体制の整備とともに住民同士の交流の活性化を図ります。

取組方針②-1 様々な世代・目的の人が集い触れ合うことで豊かな交流が育まれる公共交流拠点^{※2}の形成

関連エリア	駅前居住エリア	生活利便施設集積エリア	にぎわい創出エリア	緑豊かな住宅地エリア	武豊中央公園（北側）	公共機能集積エリア（武豊中央公園南側）	にぎわいストリート軸
-------	---------	-------------	-----------	------------	------------	---------------------	------------

- 役場庁舎や保健センターを始めとする公共施設の移転については、民間活力の導入を視野に入れ、長期的な視点で集約化・複合化を検討します。 公共機能集積エリア
- 公共交流拠点^{※2}形成の検討にあたっては、単に役場へ手続きに訪れるだけでなく、様々な世代・目的の人が集い触れ合うことで豊かな交流が育まれる施設整備を図ります。例えば、子育て支援施設は、子どもだけではなく、その保護者である大人も訪れる施設であり、また、多目的な広場や緑豊かな憩いの公園等は多様な世代の住民が集い・交流できることが期待されるものであり、その立地を検討します。 公共機能集積エリア
- 町の特産物の“食と農”の販売促進のPRに繋がる取組や将来の公共施設の受け皿として支障が生じないような暫定利用（市場やフリーマーケットを自主的に開催できるスペース等）を進めます。 公共機能集積エリア

図表 64 公共交流拠点^{※2}の整備イメージ



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照
 ※7 玄関口：8頁参照

取組方針②-2 公共交通サービスの充実

関連 エリア	駅前居住 エリア	生活利便施設 集積エリア	にぎわい創出 エリア	緑豊かな 住宅地エリア	武豊中央公園 (北側)	公共機能集積 エリア (武豊中央公園南側)	にぎわい ストリート軸
-----------	-------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------------------	----------------

a. 公共交流拠点^{※2}の形成等にあわせ、コミュニティバスの路線やダイヤ等の見直しを検討するとともに、名鉄知多武豊駅西側駅前広場の新設にあわせ、公共交通結節機能の強化・充実（乗継利便性や停留所の安全性の向上、駅施設や歩道空間等のバリアフリー化等）を図ります。

にぎわい創出
エリア

公共機能集積
エリア

b. 鉄道を利用するために駅周辺に駐車・駐輪する人の利便性を向上するため、駐車場・駐輪場の適正な配置及び整備を図ります。

生活利便施設
集積エリア

にぎわい創出
エリア

図表 65 駅前広場の整備イメージ



取組方針②-3 公共施設が集積する地域を学習交流拠点^{※3}として維持・活用

関連 エリア	駅前居住 エリア	生活利便施設 集積エリア	にぎわい創出 エリア	緑豊かな 住宅地エリア	武豊中央公園 (北側)	公共機能集積 エリア (武豊中央公園南側)	にぎわい ストリート軸
-----------	-------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------------------	----------------

a. 中央公民館や図書館、歴史民俗資料館については、将来的な公共交流拠点^{※2}への移転の可能性を検討しつつ学習交流拠点^{※3}において、引き続き公共施設の維持・活用を図ります。

緑豊かな
住宅地エリア

b. 役場庁舎とあわせて保健センターについても、さらなる住民サービスの向上のため公共交流拠点^{※2}へ移転を図ります。

緑豊かな
住宅地エリア

用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照
 ※3 学習交流拠点：3頁参照

まちづくりの目標② 様々な人がまちの魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまち

戦略③ 通勤・通学や買物が便利で、良好な住環境で暮らせるまちづくり

- ・通勤、通学が便利であるとともに、買物ができる商業施設の立地する便利な環境を活かし、空き地、空き家等を有効活用した多様な世代の定住促進を図ります。
- ・対象区域内を公共交通、自家用車、徒歩、自転車等で安全で快適に移動できる環境整備を図ります。

取組方針③-1 新たな住宅地の形成



- 武豊中央公園北部一帯の農地が多く残るエリアでは、民間活力を最大限活用して、民間事業者等による戸建住宅を主体としつつ、地区計画等の活用により、自然を感じることができる新たな住宅地の形成を図ります。
緑豊かな住宅地エリア
- 名鉄知多武豊駅西側駅前広場の新設やアクセス道路の改善にあわせ、民有地の再編を契機とした住宅供給を促進するとともに、公共施設の移転に伴う跡地活用にあたっては、民間活力導入も視野に入れ共同住宅等の立地誘導等を図ります。
にぎわい創出エリア
- (都)武豊港線の拡幅にあわせ、沿道建物の共同化を促進しつつ、中高層階への住宅の配置を働きかけます。
生活利便施設集積エリア にぎわい創出エリア にぎわいストリート軸
- 点在する空き地や青空駐車場等の既存ストック（今ある資源）の有効活用（宅地化）に向け地権者意識の啓発を進め、地区計画等の活用により、多様な世代の定住促進を図ります。
駅前居住エリア 生活利便施設集積エリア にぎわい創出エリア にぎわいストリート軸

図表 66 自然を感じることのできる新たな住宅地のイメージ

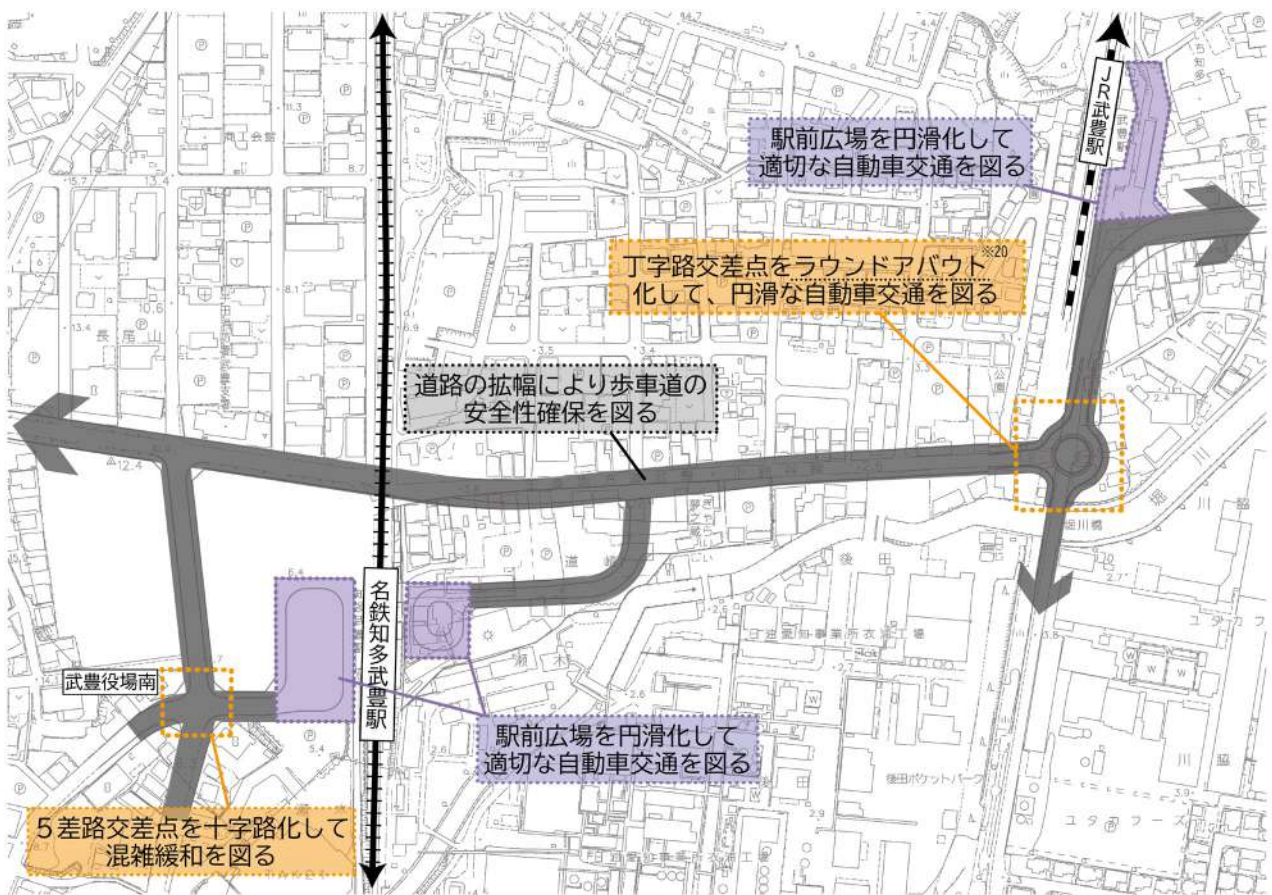


取組方針③-2 円滑な自動車交通循環を図る基盤施設整備

関連エリア	駅前居住エリア	生活利便施設集積エリア	にぎわい創出エリア	緑豊かな住宅地エリア	武豊中央公園(北側)	公共機能集積エリア(武豊中央公園南側)	にぎわいストリート軸
-------	---------	-------------	-----------	------------	------------	---------------------	------------

- a. 現在の役場庁舎南の変則交差点(5差路)を始めとする不整形な道路網、一方通行や踏切横断等に起因する自動車交通の混雑解消を図るため、誰もが安全で便利に駅へアクセスすることが可能となる基盤施設整備を進めます。にぎわい創出エリア
- b. (都)武豊港線の拡幅整備を引き続き県に働きかけるとともに、JR武豊駅前広場の改良整備を進めます。生活利便施設集積エリア にぎわい創出エリア にぎわいストリート軸

図表 67 駅周辺基盤施設整備イメージ図



用語解説

※20 ラウンドアバウト：41 頁参照

取組方針③-3 新たな移動手段の導入

関連
エリア駅前居住
エリア生活利便施設
集積エリアにぎわい創出
エリア緑豊かな
住宅地エリア武豊中央公園
(北側)公共機能集積
エリア
(武豊中央公園南側)にぎわい
ストリート軸

- a. 傾斜地のある地形のため、移動手段が自家用車に依存しがちであることから、コミュニティバスのルート再編等による公共交通の利用促進に加え、環境に優しい次世代小型モビリティや燃料電池車両等の導入を進めます。(取組方針⑤-2-a 共通)

全エリア
共通

図表 68 次世代モビリティや多様な交通手段のイメージ



自動運転バス

『NAVYA ARMA(ナビヤ アルマ)』

- ・茨城県境町
- ・2020年運行開始
- ・乗車人数は最大11人

複数の自動運転車両の運行を遠隔地から同時に管理・監視できるBOLDLYの自動運転車両運行プラットフォーム「Dispatcher(ディスパッチャー)」を活用して、町内の医療施設や郵便局、学校、銀行等をつなぐルートで自律走行バスの運行が可能。(資料:境町観光協会 HP)

電動キックボードシェア

『LUUP』

- ・東京都、横浜市、大阪市、京都市で導入事例あり。

(資料:国土交通省 令和3年度 車両安全対策検討会資料)



用語解説

※9 ウォークابل: 8頁参照

※29 コミュニティ道路: 人と車の共存を図るため、歩行者等が安全かつ快適に通行できるよう舗装を着色する等、車の速度抑制を図るとともに、歩道においては幅を広くし、植栽やベンチ等を設けた道路です。

まちづくりの目標② 様々な人がまちの魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまち

戦略④ 歩いて武豊の魅力を感じながら、快適に、楽しく暮らせるまちづくり

- ・居住者や訪れた人が、イベントに参加したり、散歩して魅力を体感できるような、歩いて楽しめるウォーカブル^{※9}な空間の整備を図ります。

取組方針④-1 歩きたくなる魅力的な空間づくり

関連 エリア	駅前居住 エリア	生活利便施設 集積エリア	にぎわい創出 エリア	緑豊かな 住宅地エリア	武豊中央公園 (北側)	公共機能集積 エリア (武豊中央公園南側)	にぎわい ストリート軸
-----------	-------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------------------	----------------

- a. ウォーカブル^{※9}なまちづくりの実現に向けて、駅や主要施設を結ぶ歩行者軸になる道路のコミュニティ道路^{※29}化や修景整備（美装化、無電柱化等）、案内板の設置により、散歩道づくりを進めます。
- 全エリア
共通

取組方針④-2 安全で快適に移動できる歩行空間の形成

関連 エリア	駅前居住 エリア	生活利便施設 集積エリア	にぎわい創出 エリア	緑豊かな 住宅地エリア	武豊中央公園 (北側)	公共機能集積 エリア (武豊中央公園南側)	にぎわい ストリート軸
-----------	-------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------------------	----------------

- a. 傾斜地のある地形のため、散歩道づくりにあわせ、移動困難者が休憩したり、立ち寄ることができるよう、低未利用地の有効活用や歩道にベンチを設置する等滞在空間の確保を図ります。
- 全エリア
共通
- b. 住宅が多く立地するエリアでは、通過交通の速度抑制を図るための安全対策を進めます。
- 駅前居住
エリア
- 生活利便施設
集積エリア
- 緑豊かな
住宅地エリア
- c. (都)武豊港線の拡幅にあわせ、低層階への商業施設等を配置した沿道建物の共同化の検討や、新設される歩道では、沿道店舗等と連携して、憩いやにぎわいの空間づくりを進めます。(取組方針①-2-c 共通)
- 生活利便施設
集積エリア
- にぎわい創出
エリア
- にぎわい
ストリート軸

図表 69 歩行者軸の修景整備イメージ



まちづくりの目標③ 持続可能な未来に向けて武豊を先導する新しいチャレンジをしていくまち

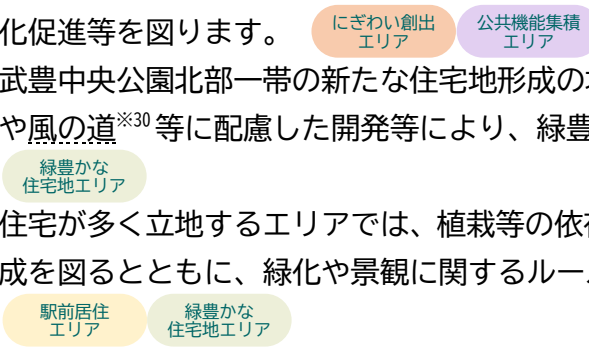
戦略⑤ 新しいことにチャレンジするまちづくり

・町の中心として、官民で連携しながら最新技術の導入の検討やカーボンニュートラル※4の実現に向けた新たな取組に挑戦し、町全域への波及を図ります。

取組方針⑤-1 エコ拠点※24・エコタウン※25の形成



- a. 対象区域では、町全体でのカーボンニュートラル※4のまちづくりをリードする先導的エリアとしてのエコ拠点※24の形成に向けて、公共施設の新設にあわせ、クリーンエネルギーによる発電、緑化促進等を図ります。
- b. 武豊中央公園北部一帯の新たな住宅地形成の場合には、公園緑地の整備に加え、既存樹木の保全や風の道※30等に配慮した開発等により、緑豊かで環境に配慮した住宅の形成を促進します。
- c. 住宅が多く立地するエリアでは、植栽等の依存ストック（今ある資源）を活かしたまちなみの形成を図るとともに、緑化や景観に関するルールづくり等を進めます。



図表 70 緑豊かで環境に配慮した住宅地の整備イメージ



用語解説

※4 カーボンニュートラル：6頁参照
 ※24 エコ拠点：58頁参照
 ※25 エコタウン：58頁参照
 ※30 風の道：風の通り道のことで、風が抜けやすい形状の道路や緑地等の空間を確保することにより、まちなかを通る風を適度な温度と強さに保とうとするものです。

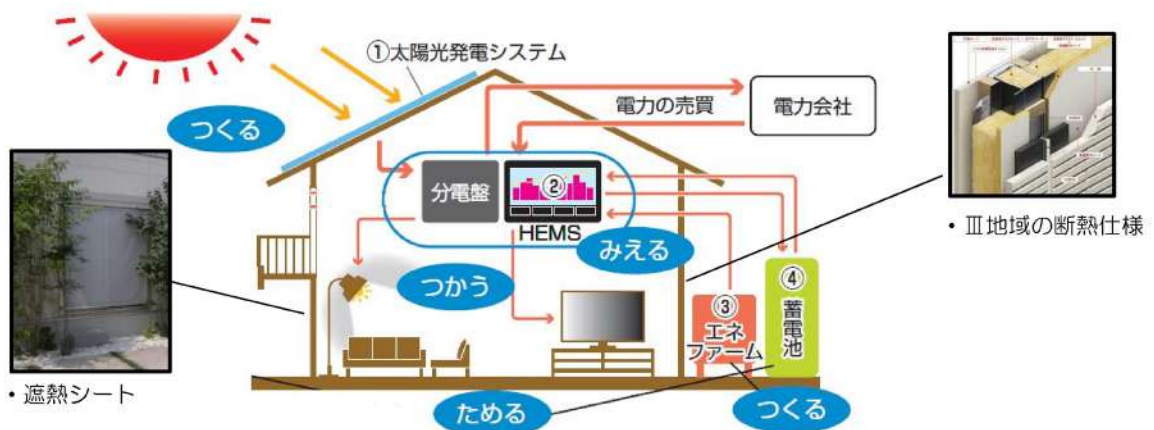
■省エネ・創エネ^{※31}をまちづくりの柱とした事例

『スマ・エコタウン晴美台』（大阪府堺市）

小学校跡地を活用し、再生可能エネルギーの利用拡大とともに、高効率な省エネ機器等を装備したネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）^{※32}の早期実現と普及を目的に取り組んでいる事業（晴美台エコモデルタウン）。



晴美台エコモデルタウンの外観



晴美台エコモデルタウンの特徴

（資料：堺市 HP）

取組方針⑤-2 環境にやさしい移動手段の導入

関連 エリア	駅前居住 エリア	生活利便施設 集積エリア	にぎわい創出 エリア	緑豊かな 住宅地エリア	武豊中央公園 （北側）	公共機能集積 エリア （武豊中央公園南側）	にぎわい ストリート軸
-----------	-------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------------------	----------------

a. 傾斜地のある地形のため、移動手段が自家用車に依存しがちであることから、コミュニティバスのルート再編等による公共交通の利用促進に加え、環境に優しい小型モビリティや燃料電池車両等の導入を進めます。（取組方針③-3-a 共通）

全エリア
共通

用語解説

※31 創エネ：創エネルギーの略で、自らが意識的にエネルギーを創り出そうという考え方です。

※32 ネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）

：外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー（石油、石炭、水力、太陽熱等の加工されない状態でエネルギー源として利用されるもの）消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅のことです。

まちづくりの目標③ 持続可能な未来に向けて武豊を先導する新しいチャレンジをしていくまち

戦略⑥ 災害に強いまちづくり

・対象区域の住民のみならず全町民が、今後も安全で安心して住み続けられるように、防災対策の強化・充実を図ります。

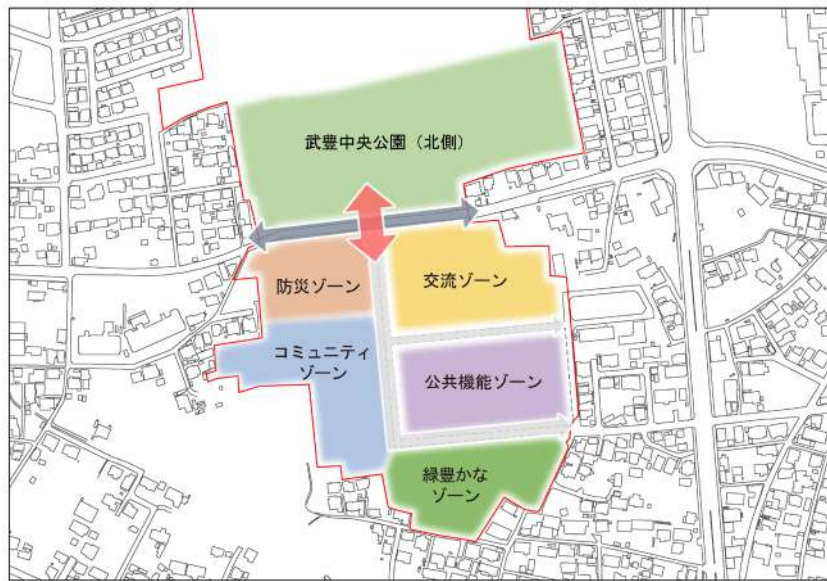
取組方針⑥-1 防災拠点の形成

関連エリア	駅前居住エリア	生活利便施設集積エリア	にぎわい創出エリア	緑豊かな住宅地エリア	武豊中央公園(北側)	公共機能集積エリア(武豊中央公園南側)	にぎわいストリート軸
-------	---------	-------------	-----------	------------	------------	---------------------	------------

a. 公共交流拠点^{※2}では、防災機能を有する武豊中央公園や消防署と一体となって住民の防災安全性を高める施設(備蓄倉庫等)の設置を進めます。



図表 71 公共交流拠点^{※2}ゾーンのイメージ



取組方針⑥-2 避難場所・避難経路の確保

関連エリア	駅前居住エリア	生活利便施設集積エリア	にぎわい創出エリア	緑豊かな住宅地エリア	武豊中央公園(北側)	公共機能集積エリア(武豊中央公園南側)	にぎわいストリート軸
-------	---------	-------------	-----------	------------	------------	---------------------	------------

a. 点在する空き地等を活用し、身近な避難場所としてのスペースの確保や地域住民と協力した適切な維持管理を図るとともに、散歩道づくりにあわせ、発災時に高齢者や障がい者が円滑に避難できるよう避難経路の確保・バリアフリー化等を進めます。



用語解説

※2 公共交流拠点：1頁参照

第5章 計画の実現に向けて

1. 官民連携による協働のまちづくりの進め方

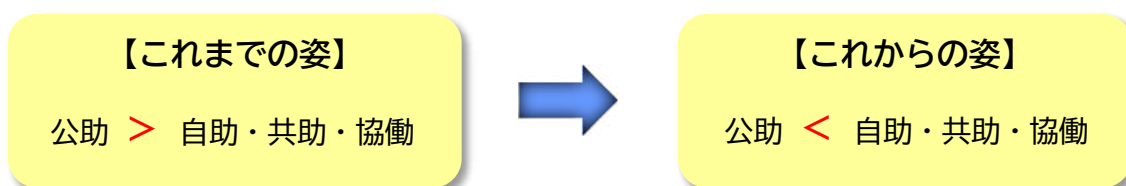
日本では、かつて高度成長期において都市を拡大していくため、ハード整備に重点が置かれる「都市化社会」のまちづくりを展開してきました。しかし、既存ストックが充実し、ハード面の都市づくりが成熟した「都市型社会」への移行に伴い、人々の多様化するニーズに対応した、より質が高く、持続的で豊かな暮らしを送ることができる都市づくりが必要となっています。

さらに、行政の財政状況が厳しい状況下においては、行政と一般住民や地権者、区、NPO法人、ボランティア団体、企業、大学等といった多様な主体（以下「多様な主体」という。）との協働・総働（マルチパートナーシップ）のもとでまちづくりを進めていくことが必要となっています。

こうした基本的な認識のもと、対象区域における各戦略を進める上で必要となる、具体的な取組を実践していくにあたっては、公共空間におけるハード整備のみならず、行政と多様な主体が連携しながら民有空間の整備や規制誘導のほか、対象区域の魅力や価値を高めるようなソフト的な取組を進めていく必要があります。

新たなまちづくりに向け、行政と多様な主体が連携した取組を展開していくために協働のまちづくりの進め方を整理し例示します。将来像の具現化に向け、今後はさらに検討を重ね各取組を推進していきます。

図表 72 町の「協働のまちづくり」手引書



- ・公助… 行政が公共的課題の解決等に関わること
- ・自助… 住民自らが地域の課題の解決等に関わること
- ・共助… 町民活動団体（区、NPO法人、ボランティア団体、企業等）が協力して公共的課題の解決等に関わること
- ・協働… 町民活動団体（区、NPO法人、ボランティア団体、企業等）と行政が協力して公共的課題の解決等に関わること

(1) 名鉄知多武豊駅周辺におけるまちづくり

生活利便施設
集積エリア

にぎわい創出
エリア

町内外から多くの人が集い、多様な交流やふれあいが生まれる「にぎわい創出エリア」の形成にあたっては、名鉄知多武豊駅西側駅前広場の新設やアクセス道路の改善、現在の役場庁舎南の変則交差点（5差路）を始めとする不整形な道路網の解消等を図ると同時に、まちなみの再編及び宅地の有効活用により、多様な交流を創出するにぎわい機能や住民・駅利用者のニーズに応える魅力ある店舗や飲食店、生活利便施設等の立地のための“受け皿”づくりを進めることが考えられます。

駅前広場を始めとする基盤施設の整備・改善は行政が主導的に進めることができますが、にぎわい施設となる店舗等の用地確保は、地権者の意向を踏まえながら協働して検討を進める必要があります。当該エリアの実現に向けては、以下のような進め方を検討します。

図表73 委員会組織化イメージ

◎実現に向けた取組の例

STEP①

土地利活用意向調査

当該エリアの地権者に対して、自身の所有地の利活用に対する意向やまちづくりの方向性を把握するための意向調査(アンケート調査)を実施



STEP②

(仮)駅前まちづくりを考える会の組織化

土地利用意向調査結果を踏まえ、行政・地権者双方のニーズに合致する土地利用のあり方や整備手法(土地区画整理事業、市街地再開発事業、建物共同化(優良建築物等整備事業)等)を検討する組織の立ち上げ



STEP③

分科会(土地区画整理研究会、共同化研究会等)の組織化

整備手法ごとに、各事業の事業化に向けた詳細検討を進める組織を設立



(事業化へ)

(2) みゆき通り沿道におけるまちづくり

生活利便施設
集積エリア

にぎわい創出
エリア

にぎわい
ストリート軸

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に密にならない屋外公共空間を活用する住民ニーズ等の高まりもあって、官民のパブリック空間をウォークブル^{※9}な人中心の空間へ転換していく動きが全国的に広まりつつあります。

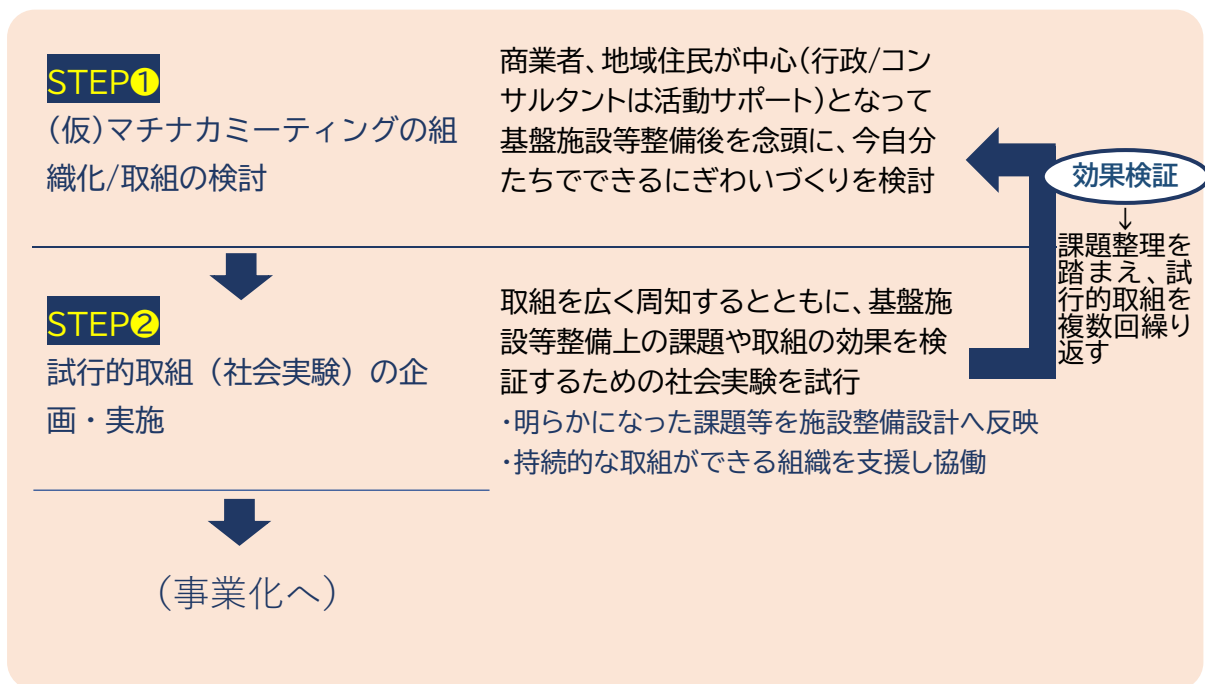
歩くことが楽しくなる「にぎわいストリート軸」の形成にあたっては、知多武豊駅東土地区画整理事業や(都)武豊港線の拡幅整備を契機に、こうした時代の流れを踏まえつつ、民間投資と連携しながら歩道空間及びその沿道の民有地空間の一体的な有効活用を図ることが考えられます。

「にぎわいストリート軸」と位置づけたみゆき通りでは、定期的に商店街のイベントが開催され多くの来訪者でにぎわいをみせていますが、このにぎわいは一過性のものに終わってしまっていることから、住民に愛される持続可能なにぎわいの場を創出していくためにも、行政と事業者(みゆき通り発展会)、地域住民が協働してイベント頼みに終わらない持続可能なにぎわいづくりを進めることが必要です。

当該エリアの実現に向けては、以下のような進め方を検討します。

図表74 社会実験イメージ

◎実現に向けた取組の例



用語解説

※9 ウォークブル：8頁参照

(3) 新たな市街地形成に向けたまちづくり

緑豊かな
住宅地エリア

武豊中央公園北部一帯において、緑豊かで環境にも配慮した戸建住宅等が主に立地する「緑豊かな住宅地エリア（b. 新市街地形成ゾーン）」の形成にあたっては、定住人口増加に大きく寄与する取組ではあるものの、地権者自身が所有する土地の利用増進・資産価値の向上といった実質的なメリットから、地権者主体のまちづくり（民間開発事業や組合施行土地区画整理事業等）を進めていくことが考えられます。

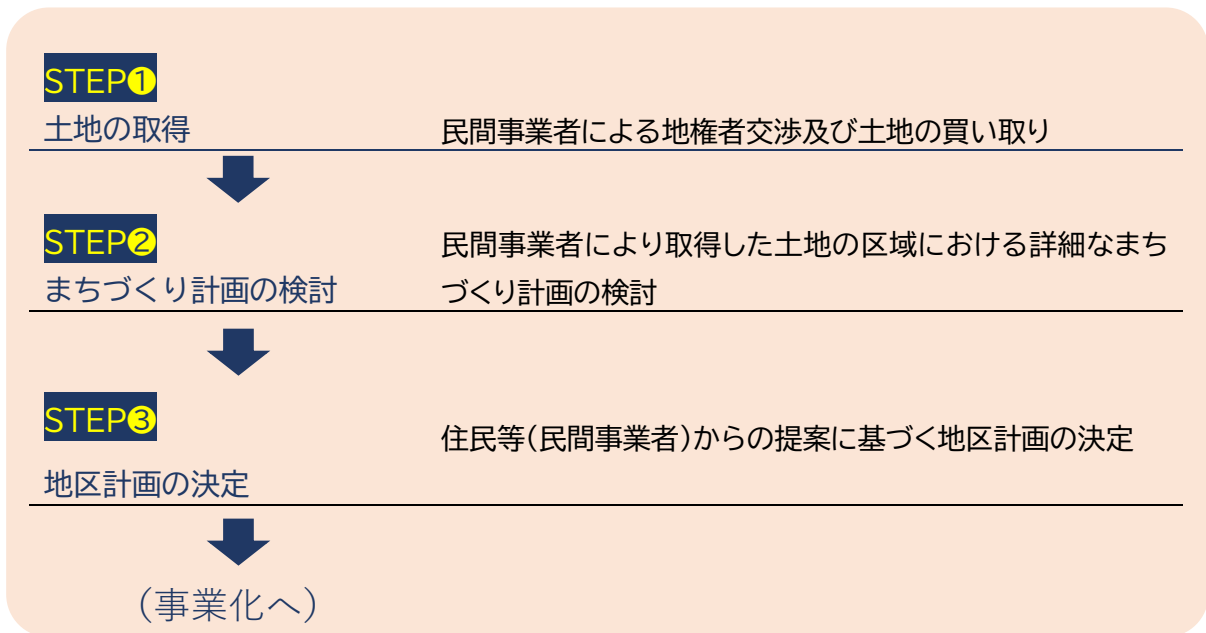
民間開発事業による事業化の場合は、民間事業者が地権者交渉により取得した土地の区域における詳細なまちづくり計画の検討後、地区計画の決定を経て事業化となります。

組合施行による土地区画整理事業の事業化を図る場合は、地権者ニーズの把握や、行政・地権者双方のニーズに合致する土地利用のあり方の検討等により、地権者のまちづくりへの機運を徐々に高めていく初動期の活動が特に重要です。

当該ゾーンの実現に向けては、以下のような進め方を検討します。

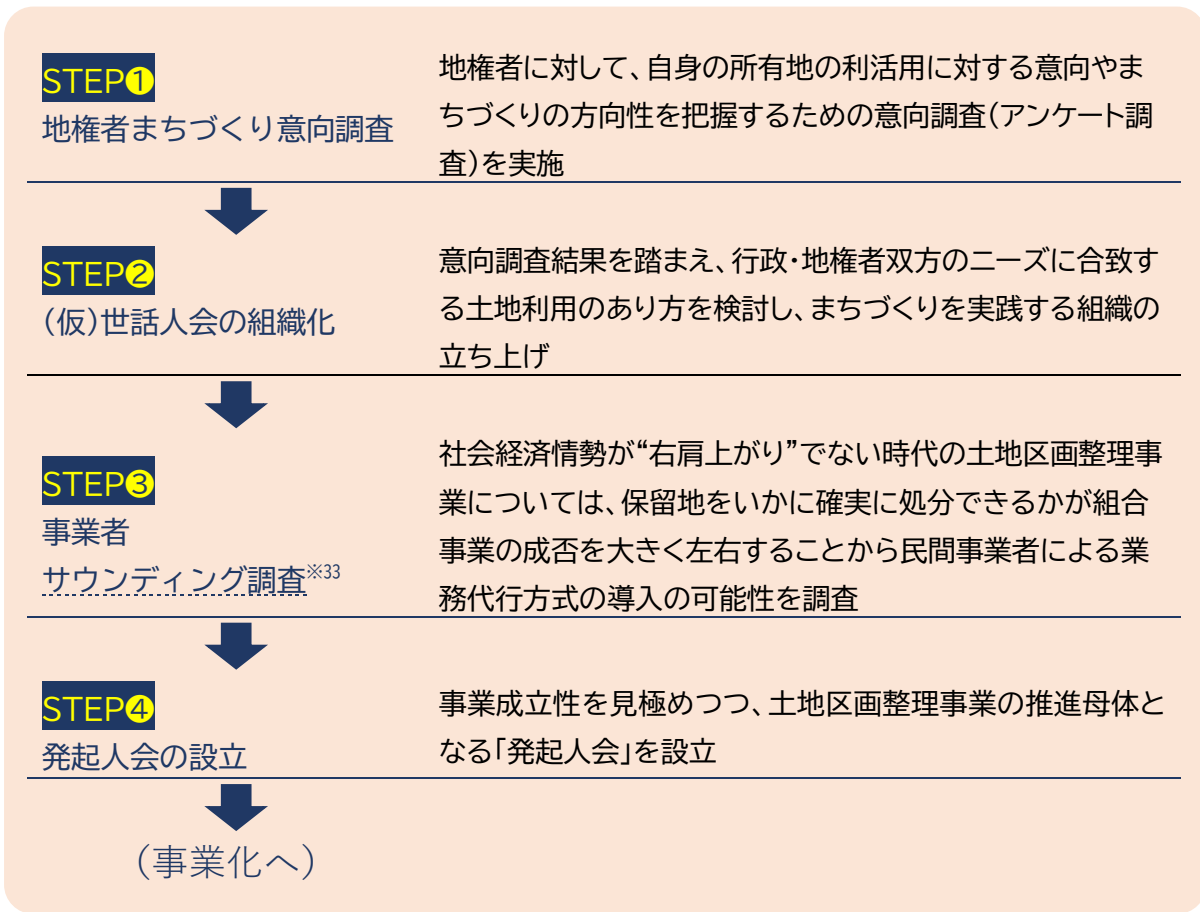
図表75 民間事業者主体のまちづくりの検討イメージ

◎実現に向けた取組の例①（民間開発事業の場合）



図表76 地権者によるまちづくりの検討イメージ

◎実現に向けた取組の例②（組合施行土地区画整理事業の場合）



用語解説

※33 サウンディング調査：事業発案段階や事業化検討段階において、事業内容や事業計画等に関して、民間事業者との対話によりさまざまなアイデアや意見等を把握する調査のことです。

(4) 住宅主体の市街地におけるまちづくり

駅前居住
エリア緑豊かな
住宅地エリア

「駅前居住エリア」や「緑豊かな住宅地エリア」のような住宅が主体の市街地においては、対象区域の利便性を活かした定住促進を図り、対象区域の活性化につなげていくことが重要です。このような既存の市街地においては、まとまった新たな住宅地を生み出すことは難しく、低未利用地や空き家を活用していくことが必要です。低未利用地や空き家の有効活用の促進に向け、狭あい道路の拡幅に際しては、拡幅に必要な用地の確保を地権者の協力等を得ながら進めていきます。また、空き家等の対策における町との協定締結団体へ積極的に情報提供を行い、空き家の活用を働きかけます。

(5) 公共施設の充実に向けたまちづくり

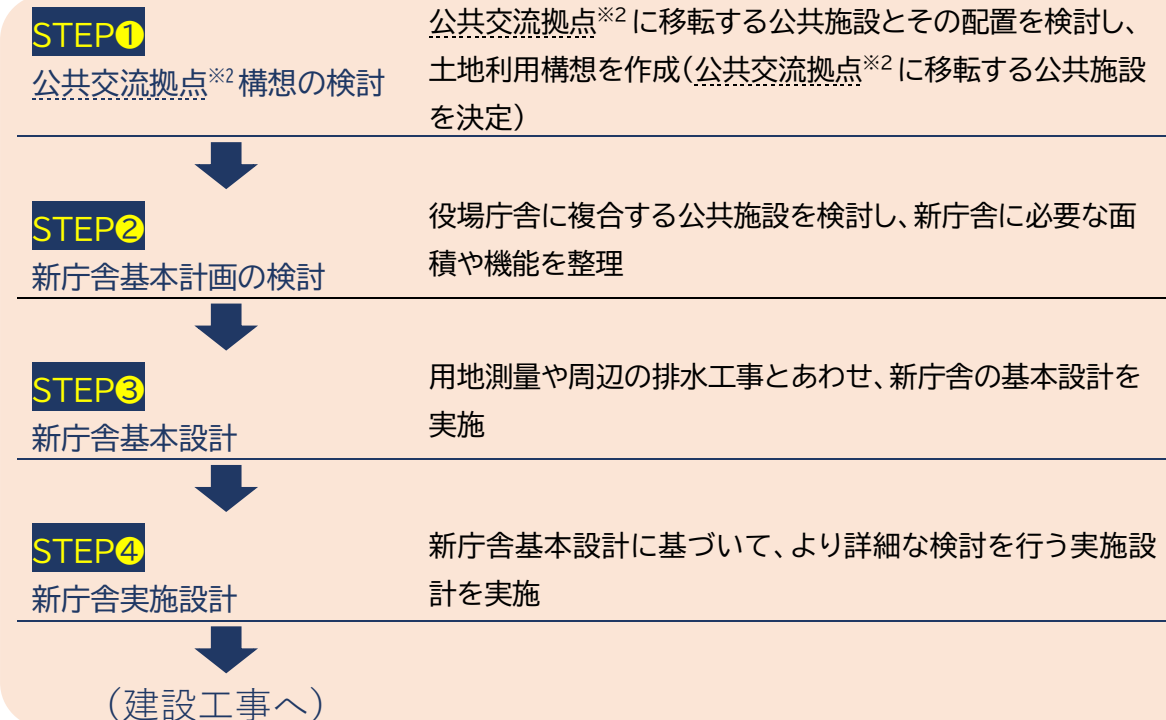
公共機能集積
エリア

「公共機能集積エリア」では、役場庁舎、その他の公共施設を集約することにより、公的な手続きの効率化を図ります。また、単に公的な手続きのための機能だけでなく、住民が多様な目的で集い、交流することができる場として機能することが重要です。どのような施設を公共機能集積エリアに配置するかを町全体のバランス等に配慮しながら検討するとともに、住民が集い、交流する場づくりの手法にあたっては、民間の有するノウハウの活用を検討します。「公共機能集積エリア」は、現在市街化調整区域となっていますが、武豊町都市計画マスタープランでは、公共交流拠点^{※2}に位置づけられていることから、公共施設の配置を検討し、一体的な利便性の高いエリアの形成を図ります。

また、当該エリアへの役場庁舎等の立地を図る場合は、地区計画の策定と並行して、以下のような進め方を検討します。

図表77 役場庁舎移転の検討イメージ

◎実現に向けた取組の例



用語解説

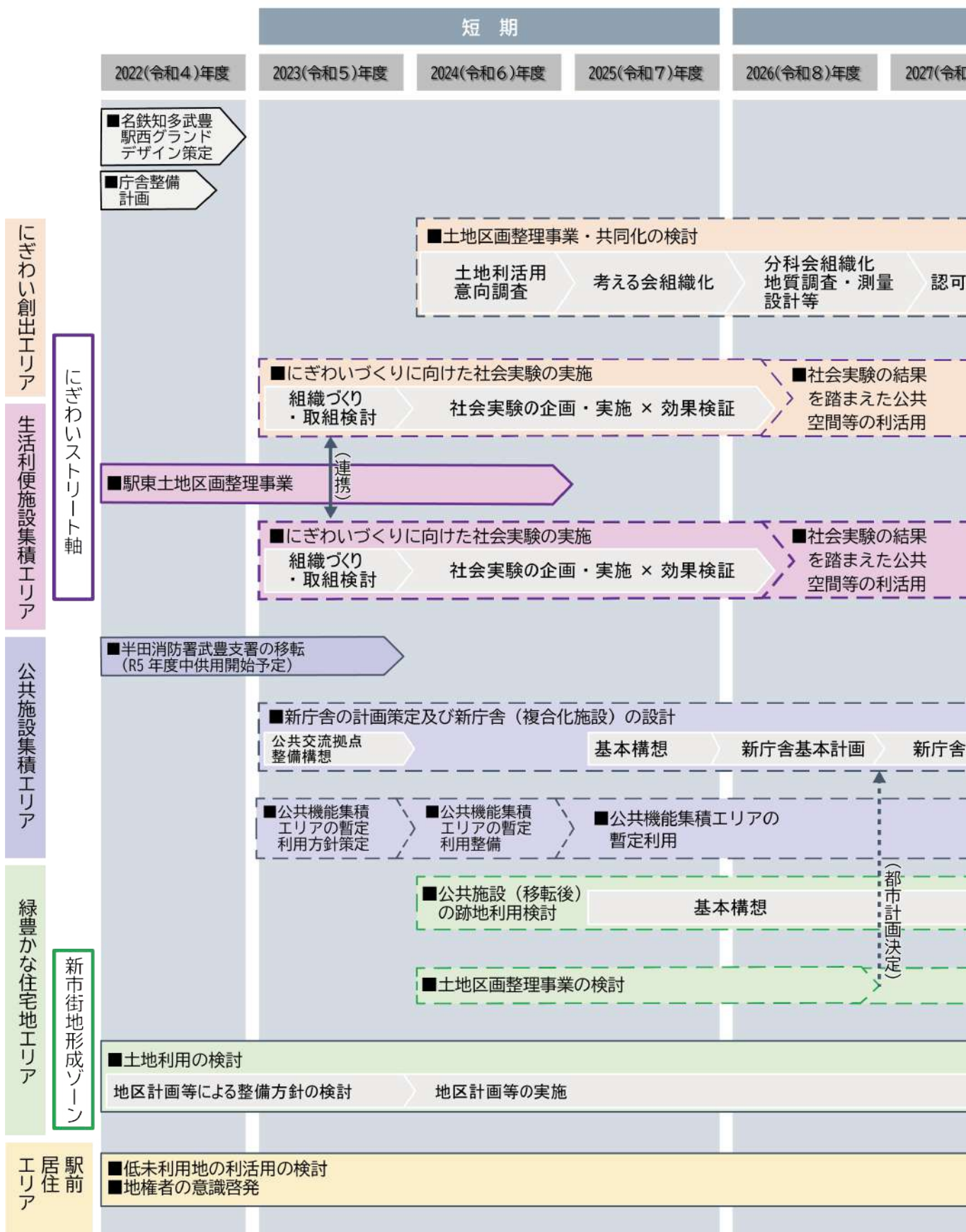
※2 公共交流拠点：1頁参照

2. 段階的プロセス（実現に向けたロードマップ）

対象区域における将来像の実現に向け、各戦略を進める上で必要となる具体的な取組には、駅西ランドデザイン策定後の早期に取組が可能なもの、また検討に時間を要し中長期的に実現を図るもの等、時間軸が異なる様々な取組が含まれています。

そのため、ここでは各取組の内容や実現の容易性等を踏まえた段階的プロセス（実現に向けたロードマップ）を明らかにし、これに基づき段階的な施策展開を図ることとします。

図表78 実現に向けたロードマップ



※点線の矢印は、今後の検討において具体化していきます。

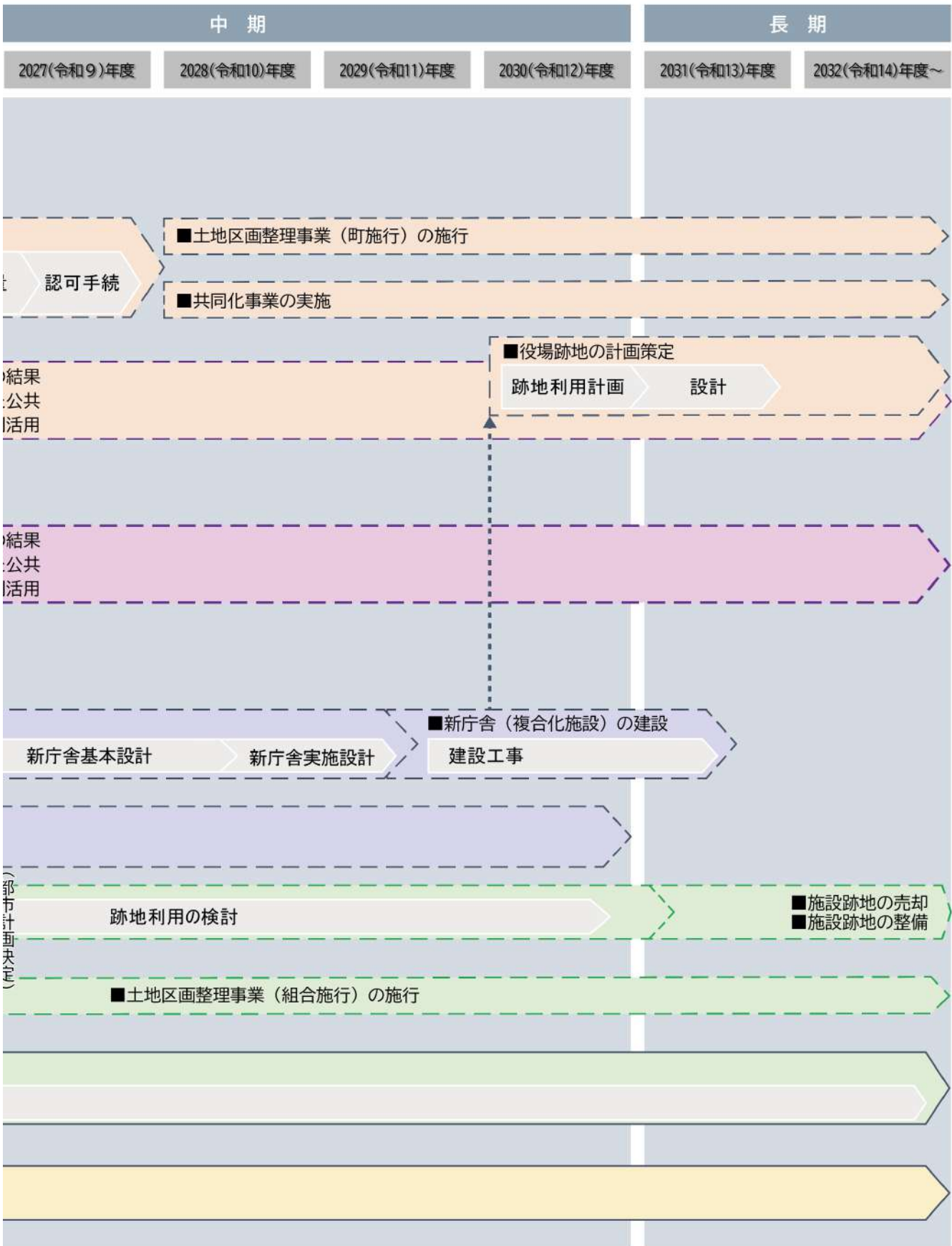
駅西ランドデザインとは

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

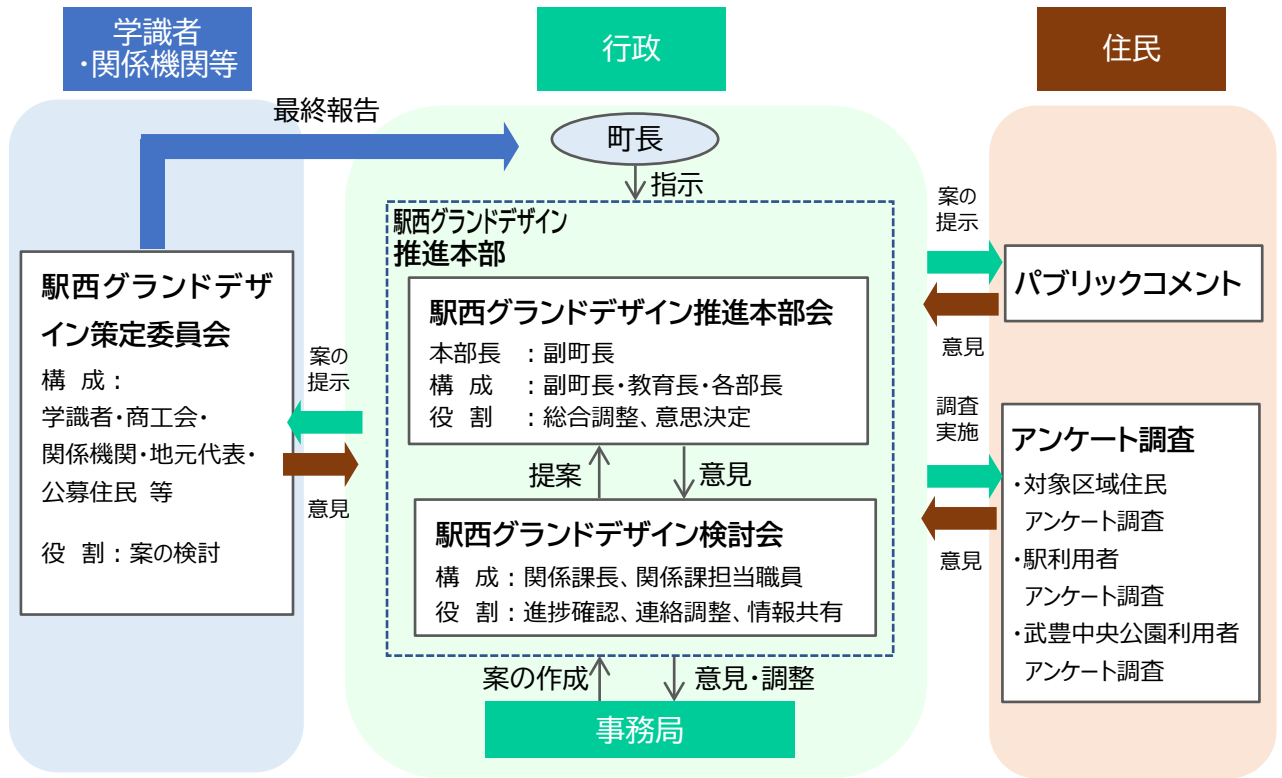
取組方針

計画の実現に向けて



参考資料

1. 検討・推進体制

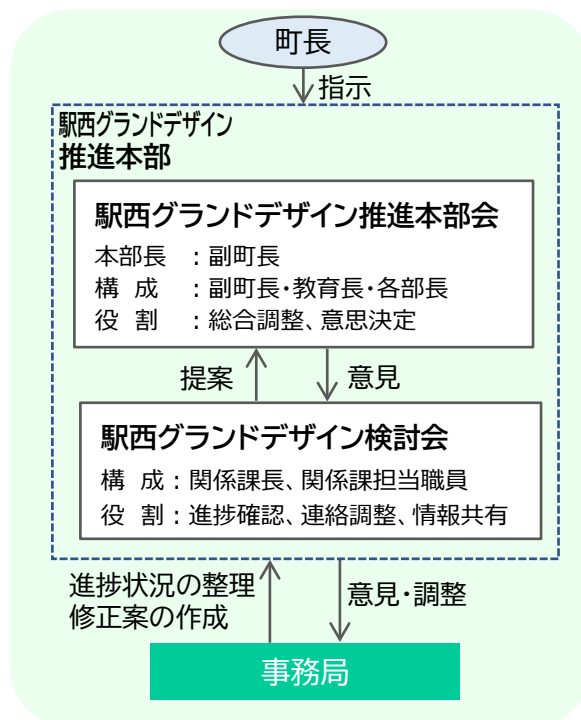


対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

2. 進捗管理



計画の実現に向けて

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

3. 策定過程

年	月	町議会	策定委員会	推進本部会	住民参加	内容
2021 (令和3) 年	7月				○	町全域アンケート調査（町民意識調査） （7月31日～8月16日）
	8月			①		第1回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン推進本部会(27日)
	9月		①			第1回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会(7日)
					○	名鉄知多武豊駅利用者アンケート調査(29日) 武豊中央公園利用者アンケート調査(29日)
	10月				○	名鉄知多武豊駅利用者アンケート調査(3日) 武豊中央公園利用者アンケート調査(3日)
				○	対象区域住民アンケート調査(7日～20日)	
2022 (令和4) 年	1月			②		第2回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン推進本部会(26日)
	2月		②			第2回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会 (ワークショップ形式)(7日)
					○	JR武豊駅利用者アンケート調査(20～21日)
	3月	○				行政報告会 名鉄知多武豊駅西グランドデザインの進捗状況について(1日)
	4月			③		第3回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン推進本部会(27日)
	5月		③			第3回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会 (ワークショップ形式)(12日)
	7月			④		第4回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン推進本部会(22日)
	8月		④			第4回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会(3日)
	9月	○				行政報告会 名鉄知多武豊駅西グランドデザインのパブリックコメントの実施について(9月2日)
10月			⑤	○	パブリックコメント(9月8日～10月7日) 第5回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン推進本部会(10月27日)	
11月		⑤			第5回名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会(10日)	

4. 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員

※敬称略

		所属	役職	氏名
知識経験を 有する者	1	日本福祉大学	教授	◎千頭 聡
	2	中京大学	講師	○加藤 武志
	3	武豊町商工会	会長	橋詰 弥久雄
各種団体の 役員	4	名古屋鉄道(株)	駅運営部長 (中部支配人)	奥村 崇岐 (脇本 裕司)
	5	地元代表	長尾部長	久保 隆 (榊原 鉄弘)
	6	みゆき通り発展会	会長	中川 備介
公募による者	7	公募		山下 紘史
	8	公募		長谷川 雄紀
	9	公募		村田 千代
	10	公募		花田 鮎美
オブザーバー	11	愛知県都市計画課	課長	木村 昌博 (小井手 秀人)
	12	知多建設事務所	企画調整監	小柳 和人 (内山 敬士)
	13	知多中部広域事務組合	武豊支署長	小坂 勤太郎
	14	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室	室長	南木 宏和

※◎会長、○副会長、()内は前任者

2022(令和4)年度

		所属	役職	氏名
事務局	企画部 企画政策課		次長兼課長	森田 良孝
			課長補佐	森田 光一
			副主幹	西村 翠
			主査	江口 美幸
			主査	西田 裕
			主査	鈴木 麻美
			主事	新保 徹

5. 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会の経緯

回	開催日時	検討内容
第1回	2021(令和3)年9月7日(火) 13:30~15:30	【議事】 (1)名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定方針について (2)名鉄知多武豊駅西グランドデザイン対象区域(案)について (3)アンケート調査について ・対象区域住民アンケート調査 ・駅利用者アンケート調査 ・武豊中央公園利用者アンケート調査 (4)今後のスケジュールについて
第2回	2022(令和4)年2月7日(月) 13:30~15:30	【報告】 (1)第1回策定委員会からのご意見・ご提案への回答について (2)アンケート調査結果について ・対象区域住民、武豊中央公園、駅利用者アンケート調査等 (3)公共施設の再配置に関する整理 【議事】 (1)駅西グランドデザイン「ビジョンを描こう！」 (ワークショップ形式)
第3回	2022(令和4)年5月12日(木) 10:00~12:00	【報告】 (1)まちづくりのアイデアについて (2)駅西グランドデザインの計画冊子(案)について ・対象区域における課題について ・第4章 将来像とまちづくりの目標及び戦略について ・第5章 取組方針について (3)庁舎整備計画(案)の報告について 【議事】 (1)対象区域の将来像について(ワークショップ形式)
第4回	2022(令和4)年8月3日(水) 10:00~12:00	【報告】 (1)駅西グランドデザインの将来像について 【議事】 (1)駅西グランドデザインの計画冊子(案)について
第5回	2022(令和4)年11月10日(木) 13:30~15:30	【報告】 (1)第4回策定委員会からのご意見・ご提案について (2)駅西グランドデザインパブリックコメントの結果について (3)駅西グランドデザインの計画冊子(案)について

6. アンケート調査について

(1) アンケート調査の実施状況

①対象区域住民アンケート調査

ア 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	18歳以上の検討の対象区域とその周辺に居住する住民
配布数	1,193通
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送配布、回収は郵送とwebを併用
調査時期	令和3年10月7日(木)～10月20日(水)
調査地域	検討の対象区域とその周辺

イ 配布数及び回収結果

配布票数	1,193票
回収票数	433票(郵送:370/web:63)
回収率	36.3%

②駅利用者アンケート調査

【名鉄知多武豊駅】

ア 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	名鉄知多武豊駅利用者
配布数	500通
調査方法	駅配布、回収は郵送とwebを併用
調査時期	令和3年9月29日(水)、10月3日(日)
調査地域	名鉄知多武豊駅

イ 配布数及び回収結果

配布票数	500票(平日:291/休日:209)
回収票数	139票(郵送:103/web:36)
回収率	27.8%

【JR武豊駅】

ア 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	JR武豊駅利用者
配布数	252 通
調査方法	駅配布、回収は郵送と web を併用
調査時期	令和4年2月 20 日(日)、2月 21 日(月)
調査地域	JR武豊駅

イ 配布数及び回収結果

配布票数	252 票(平日:86/休日:166)
回収票数	75 票(郵送:58/web:17)
回収率	29.8%

③武豊中央公園利用者アンケート調査

ア 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	武豊中央公園利用者
配布数	162 通
調査方法	武豊中央公園配布、回収は郵送と web を併用
調査時期	令和 3 年 9 月 29 日(水)、10 月 3 日(日)
調査地域	武豊中央公園

イ 配布数及び回収結果

配布票数	162 票(平日:83/休日:79)
回収票数	61 票(郵送:49/web:12)
回収率	37.7%

④町全域アンケート調査

※令和3年度町民意識調査（第6次武豊町総合計画の進捗状況把握のための調査）へ駅西グランドデザインに関する設問を追加して実施

ア 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	町在住の15歳以上の町民
配布数	3,000通
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布・回収
調査時期	令和3年7月31日(土)～8月16日(月)
調査地域	町全域
追加設問	名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺の将来のまちづくりについて等

イ 配布数及び回収結果

配布票数	3,000票
回収票数	1,616票
回収率	53.9%

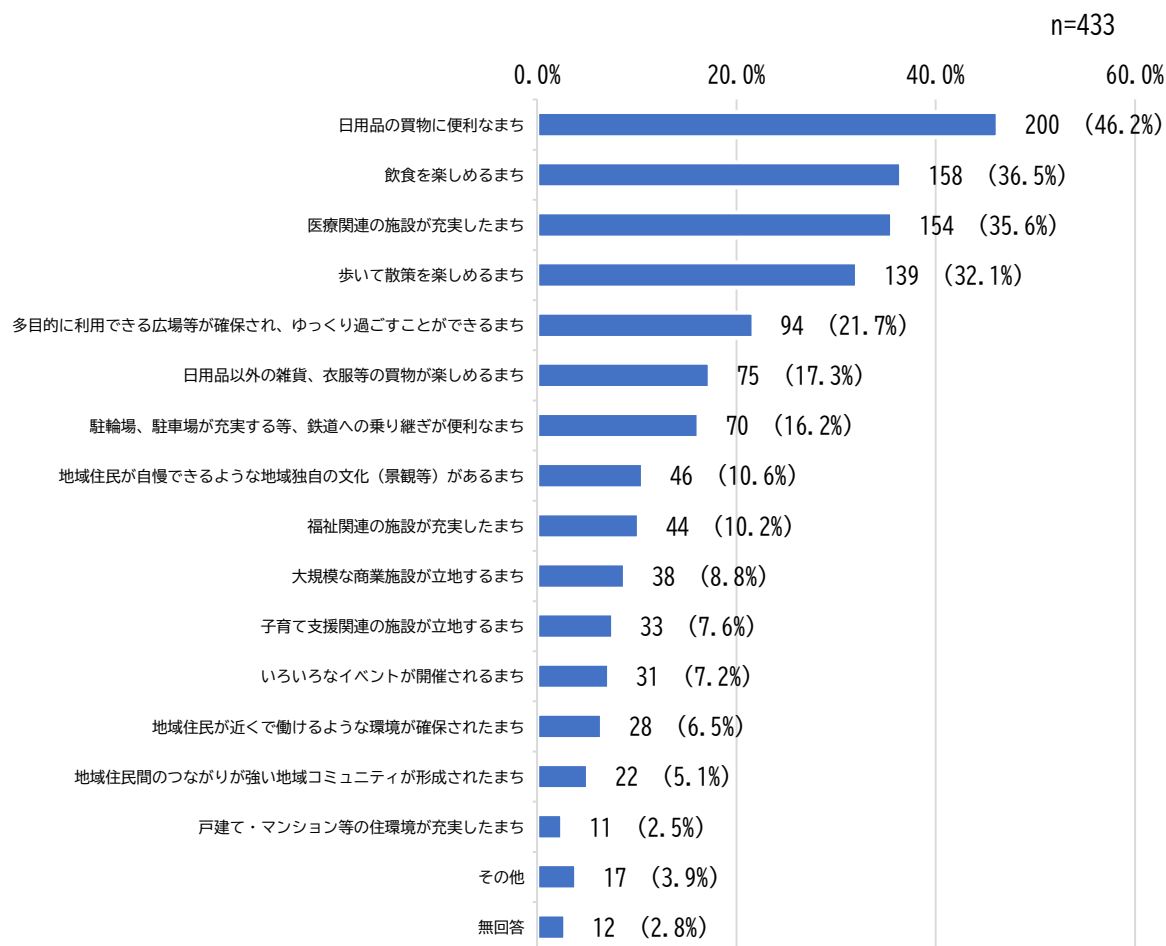
(2) アンケート調査の主な結果概要(まちづくり関連部分を抜粋)

①対象区域住民アンケート調査

【問6—1】名鉄知多武豊駅及びJR武豊駅周辺の将来のまちづくりについて（3つまで回答）

■「日用品の買物に便利なまち」が約46%と最も割合が高く、次いで「飲食を楽しめるまち」が約37%となっています。

▼将来のまちづくりについて

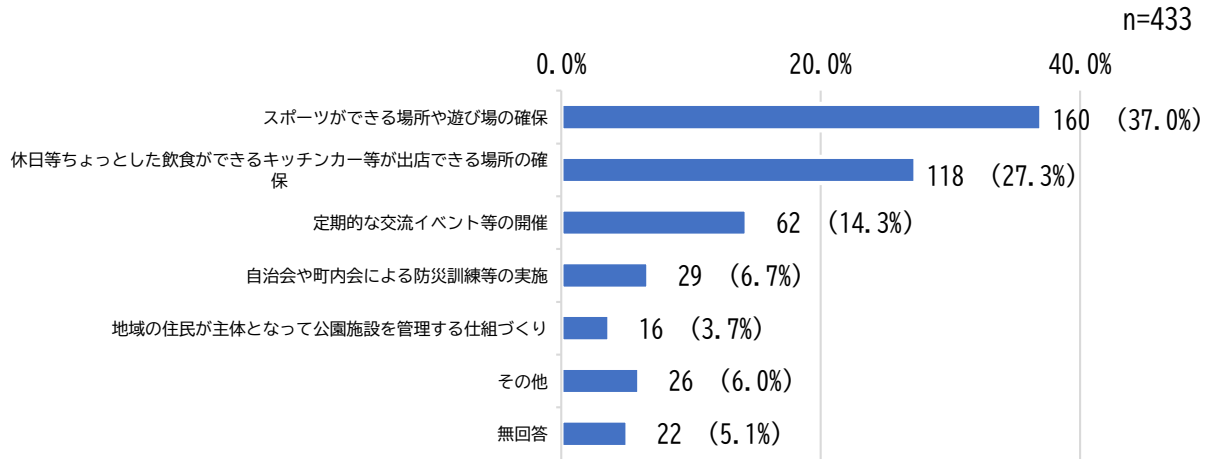


※端数調整の関係で構成比の合計が100%にならないところがあります(複数回答以外)

【問7-1】武豊中央公園の活用について

■「スポーツができる場所や遊び場の確保」が約37%と最も割合が高く、次いで「休日等ちょっとした飲食ができるキッチンカー等が出店できる場所の確保」が約27%となっています。

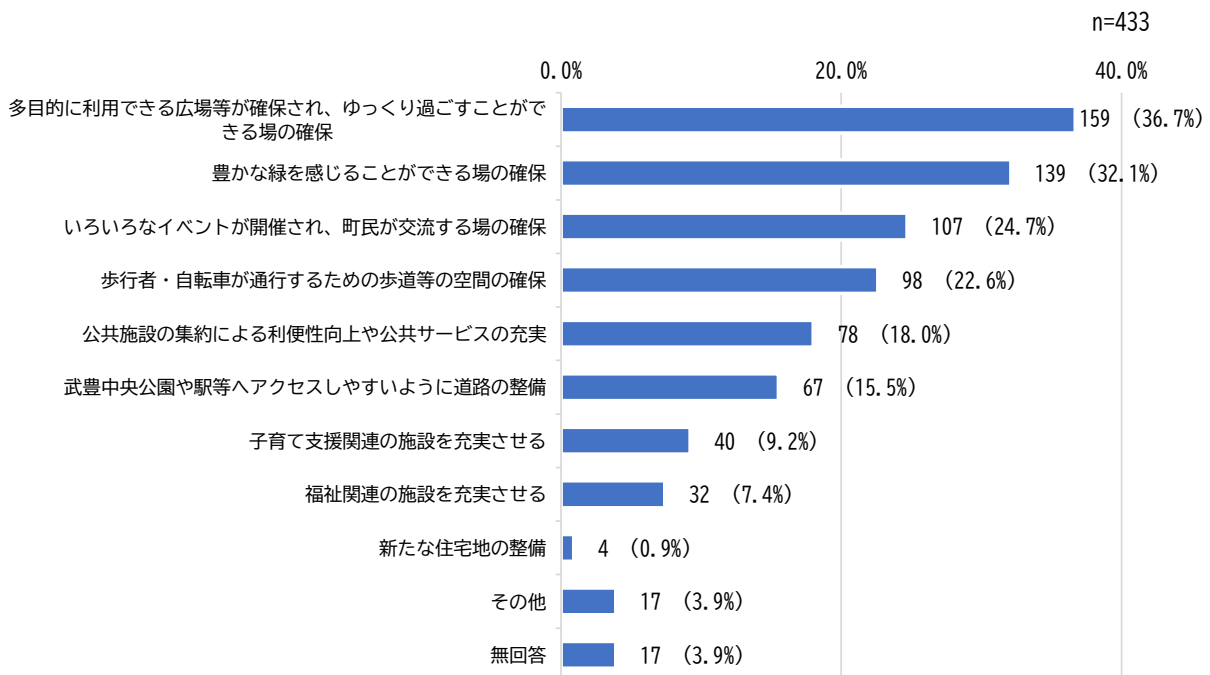
▼武豊中央公園の活用について



【問7-2】武豊中央公園周辺のまちづくりについて（2つまで回答）

■「多目的に利用できる広場等が確保され、ゆっくり過ごすことができる場の確保」が約37%と最も割合が高く、次いで「豊かな緑を感じることができる場の確保」が約32%となっています。

▼武豊中央公園周辺のまちづくりについて



駅西ランドデザインとは

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

【問8—1】 鉄道駅の交通機能について（満足度×重要度）

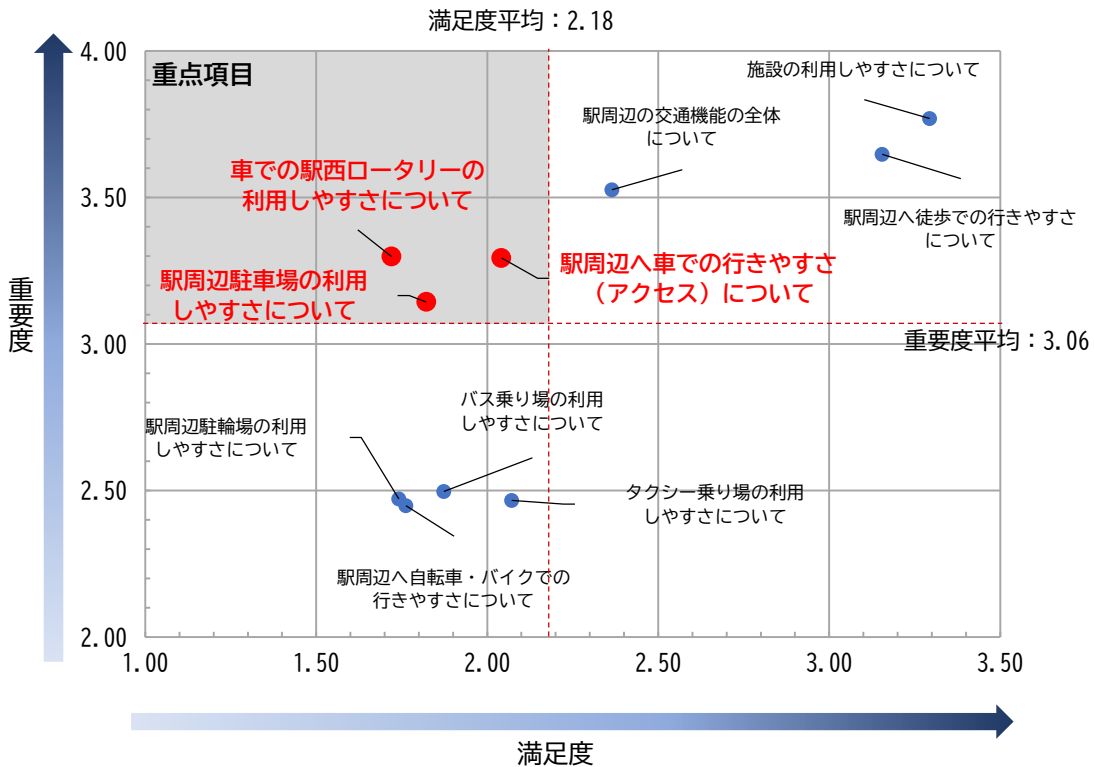
満足度及び重要度について、下表に基づいて得点化し、散布図で整理。

満足度得点		重要度得点	
満足	5点	重要	5点
まあ満足	4点	まあ重要	4点
やや不満	2点	あまり重要でない	2点
不満	1点	重要でない	1点
分からない	0点	分からない	0点
無回答	0点	無回答	0点

①名鉄知多武豊駅

■重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目として、「車での駅西ロータリーの利用しやすさについて」「駅周辺駐車場の利用しやすさについて」「駅周辺へ車での行きやすさ(アクセス)について」となっています。

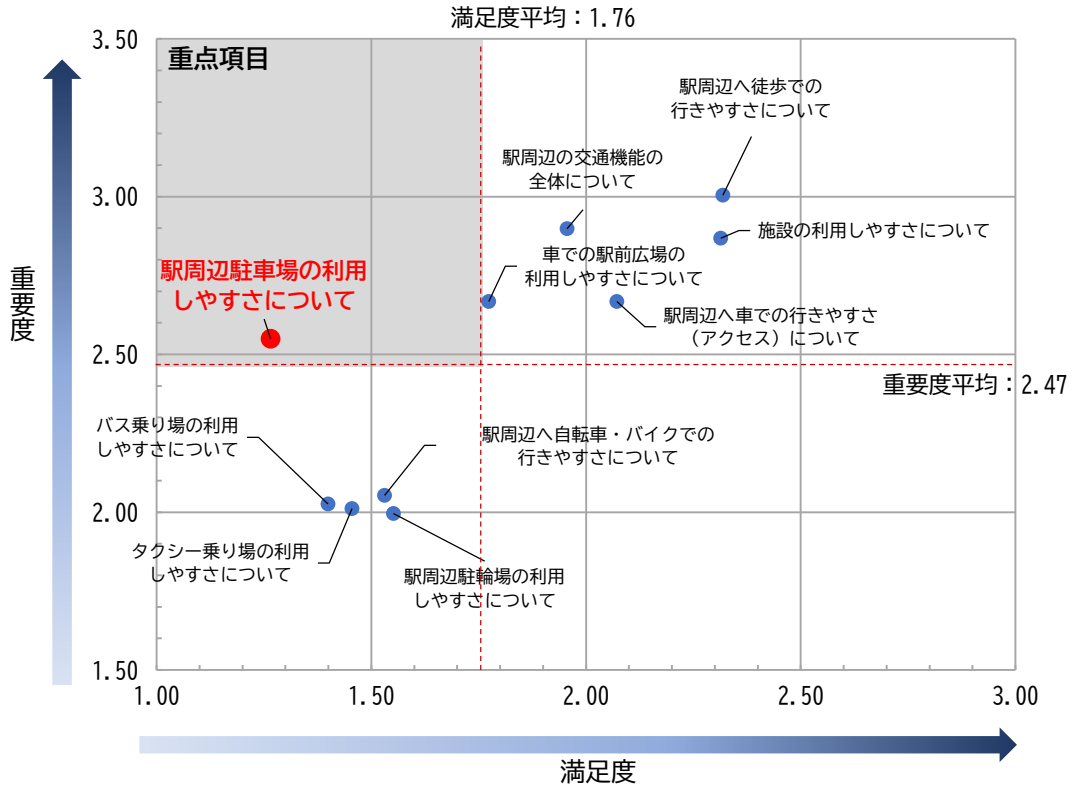
▼名鉄知多武豊駅の交通機能について(満足度×重要度)



② JR武豊駅

■重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目として「駅周辺駐車場の利用しやすさについて」
 となっています。

▼ JR武豊駅の交通機能について(満足度×重要度)



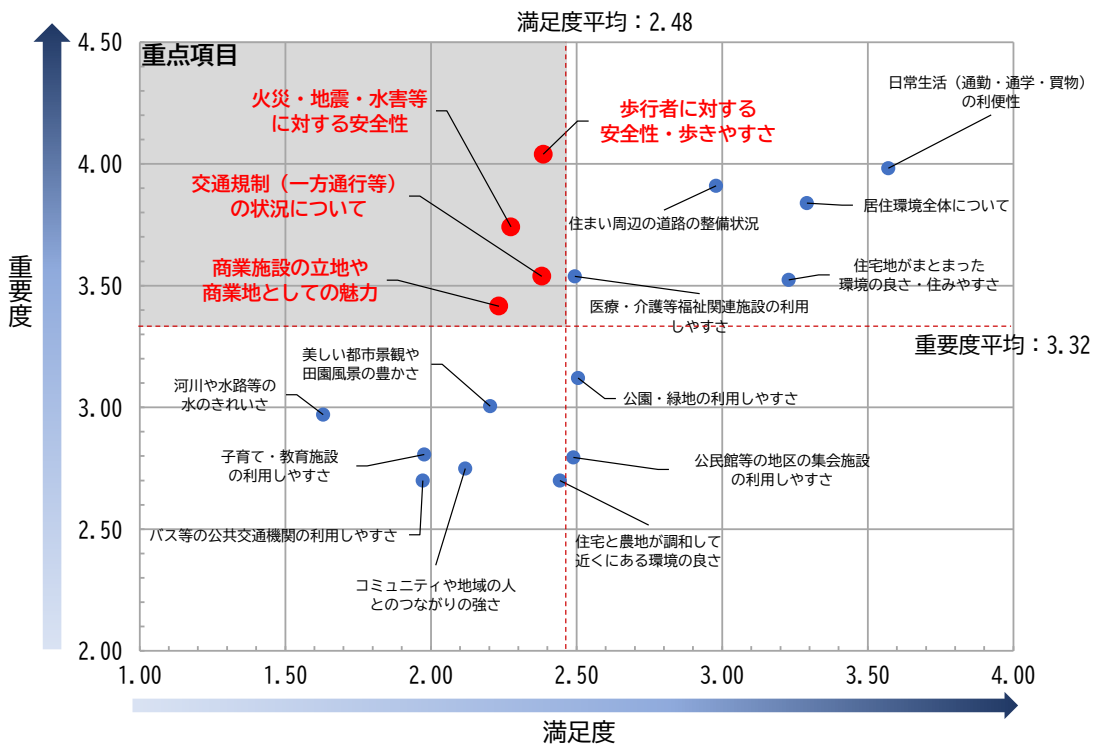
【問8—2】お住まいのご近所の居住環境について（満足度×重要度）

満足度及び重要度について、下表に基づいて得点化し、散布図で整理。

満足度得点		重要度得点	
満足	5点	重要	5点
まあ満足	4点	まあ重要	4点
やや不満	2点	あまり重要でない	2点
不満	1点	重要でない	1点
分からない	0点	分からない	0点
無回答	0点	無回答	0点

■重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目として、「火災・地震・水害等に対する安全性」「交通規制(一方通行等)の状況について」「歩行者に対する安全性・歩きやすさ」「商業施設の立地や商業地としての魅力」となっています。

▼お住まいのご近所の居住環境について(満足度×重要度)



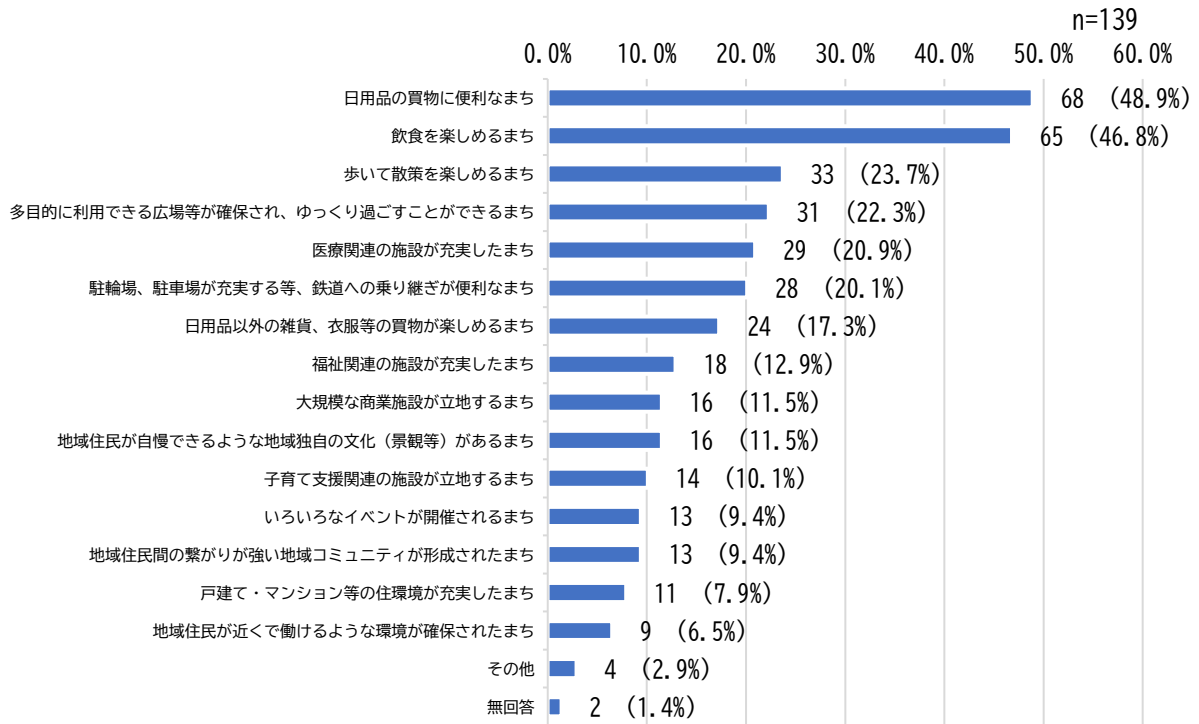
② 駅利用者アンケート調査

【名鉄知多武豊駅】

【問2-1】「都市拠点^{※1}」の形成を目指すためにあるべきまちの姿（3つまで回答）

■「日用品の買物に便利なまち」が約49%と最も割合が高く、次いで「飲食を楽しめるまち」が約47%となっています。

▼「都市拠点^{※1}」の形成を目指すためにあるべきまちの姿



【問4-1】名鉄知多武豊駅の交通機能について（満足度×重要度）

満足度及び重要度について、下表に基づいて得点化し、散布図で整理。

満足度得点		重要度得点	
満足	5点	重要	5点
まあ満足	4点	まあ重要	4点
やや不満	2点	あまり重要でない	2点
不満	1点	重要でない	1点
分からない	0点	分からない	0点
無回答	0点	無回答	0点

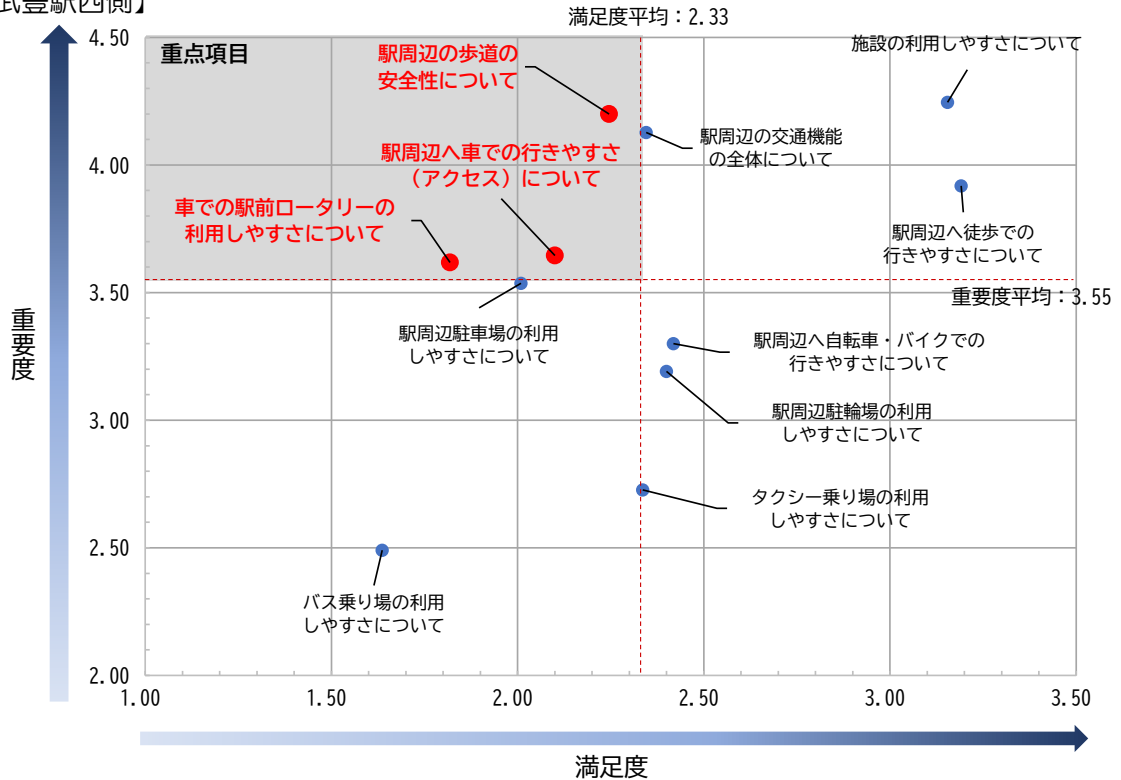
用語解説

※1 都市拠点：1頁参照

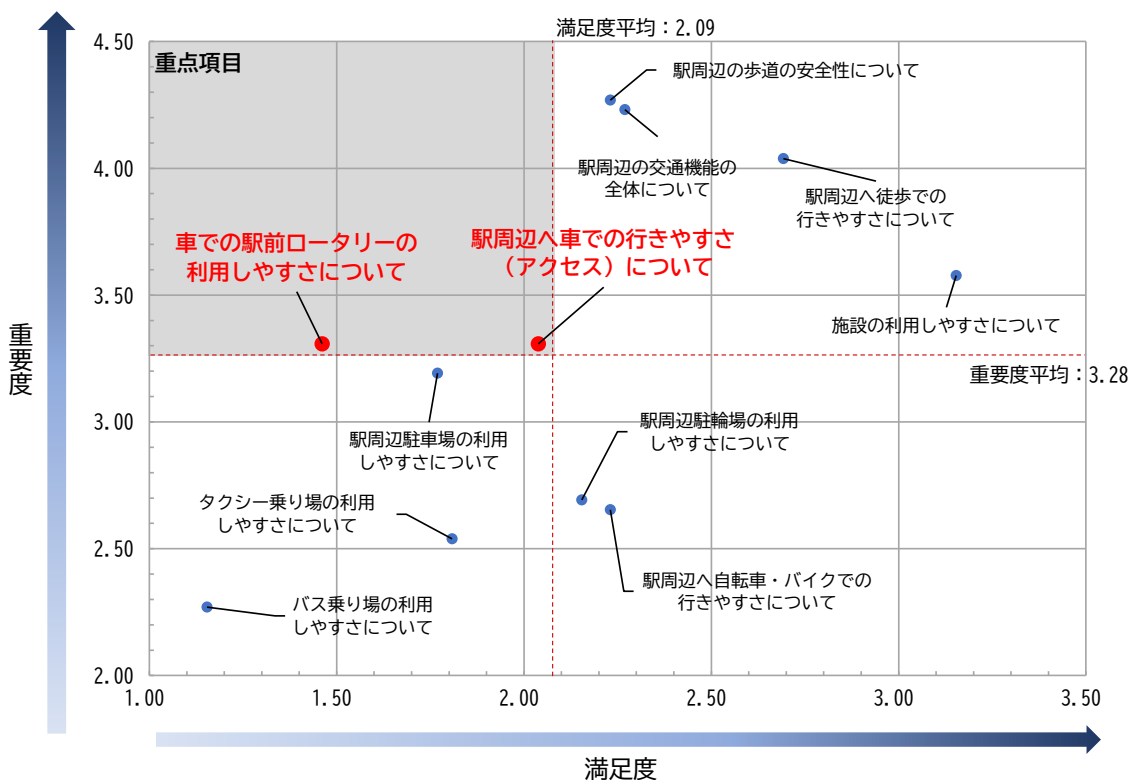
■重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目として、名鉄知多武豊駅の東側、西側のいずれにおいても「駅周辺へ車での行きやすさ(アクセス)について」「車での駅前ロータリーの利用しやすさについて」となっています。また、名鉄知多武豊駅の西側では、「駅周辺の歩道の安全性について」も該当しています。

▼駅周辺の交通状況について(満足度×重要度)

【名鉄知多武豊駅西側】



【名鉄知多武豊駅東側】

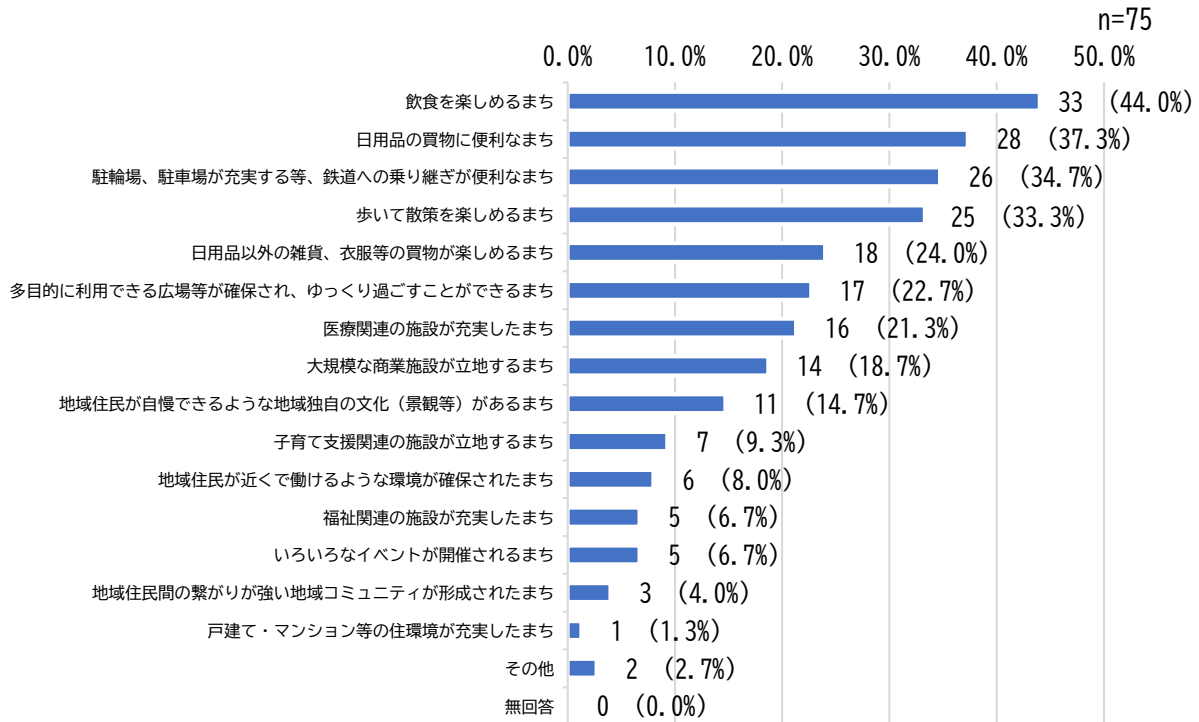


【JR武豊駅】

【問2—1】「都市拠点※1」の形成を目指すためにあるべきまちの姿（3つまで回答）

■「飲食を楽しめるまち」が44%と最も割合が高く、次いで「日用品の買物に便利なまち」が約37%となっています。

▼「都市拠点※1」の形成を目指すためにあるべきまちの姿



用語解説

※1 都市拠点：1頁参照

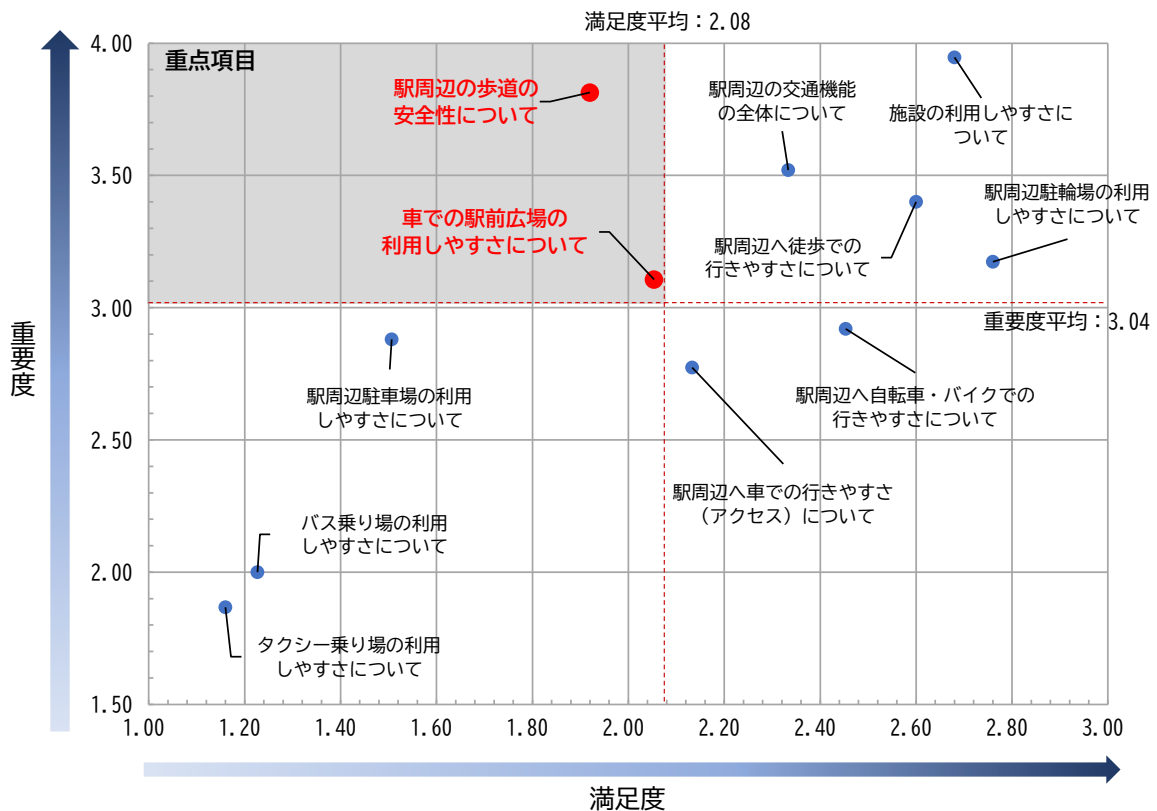
【問4—1】JR武豊駅の交通機能について（満足度×重要度）

満足度及び重要度について、下表に基づいて得点化し、散布図で整理。

満足度得点		重要度得点	
満足	5点	重要	5点
まあ満足	4点	まあ重要	4点
やや不満	2点	あまり重要でない	2点
不満	1点	重要でない	1点
分からない	0点	分からない	0点
無回答	0点	無回答	0点

■重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目として、「駅周辺の歩道の安全性について」「車での駅前広場の利用しやすさについて」となっています。

▼駅周辺の交通状況について（満足度×重要度）

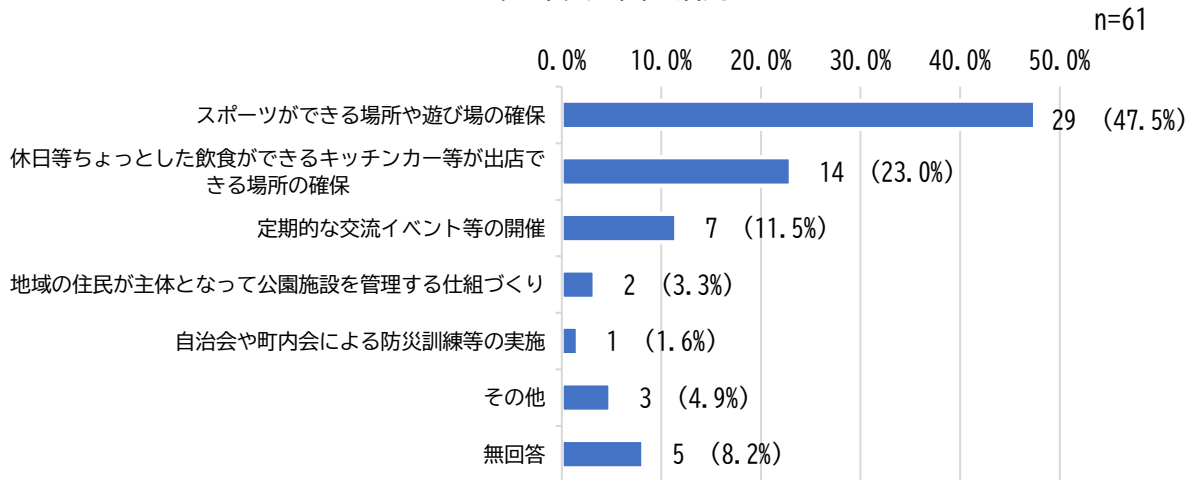


③武豊中央公園利用者アンケート調査

【問2-1】武豊中央公園の活用

■「スポーツができる場所や遊び場の確保」は約48%と最も割合が高く、次いで「休日等ちょっとした飲食ができるキッチンカー等が出店できる場所の確保」が23%となっています。

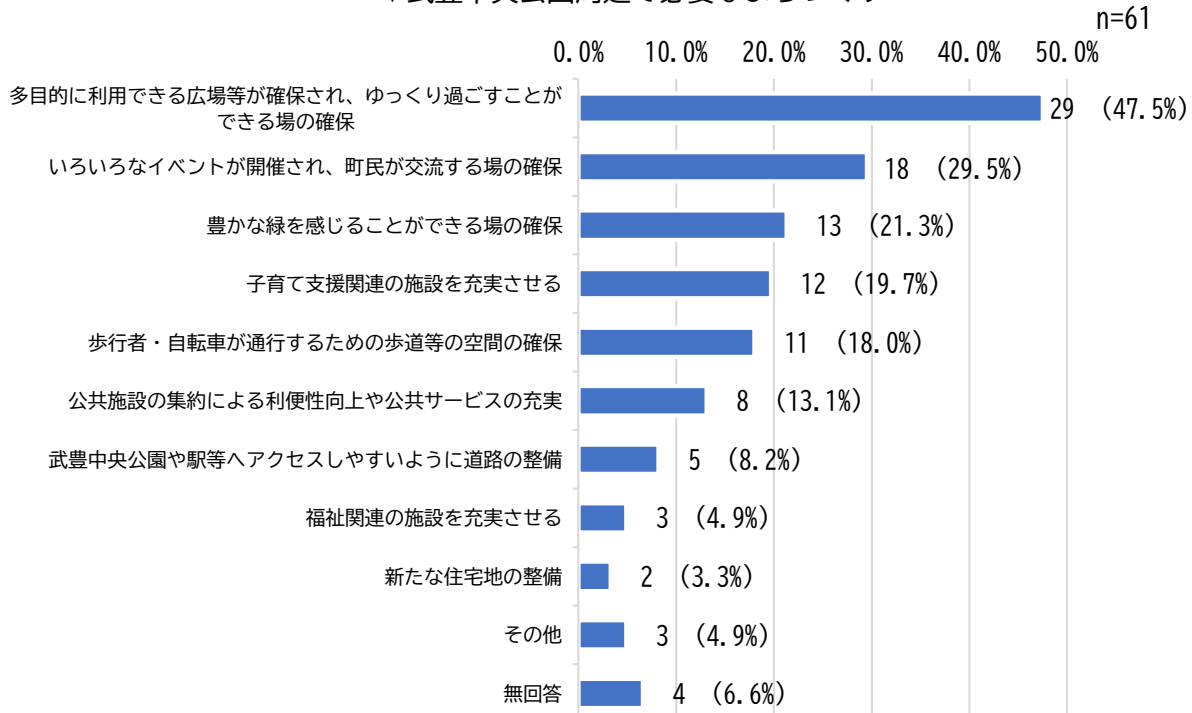
▼武豊中央公園の活用



【問2-2】武豊中央公園周辺に必要なまちづくり（2つまで回答）

■「多目的に利用できる広場等が確保され、ゆっくり過ごすことができる場の確保」は約48%と最も割合が高く、次いで「いろいろなイベントが開催され、町民が交流する場の確保」が約30%となっています。

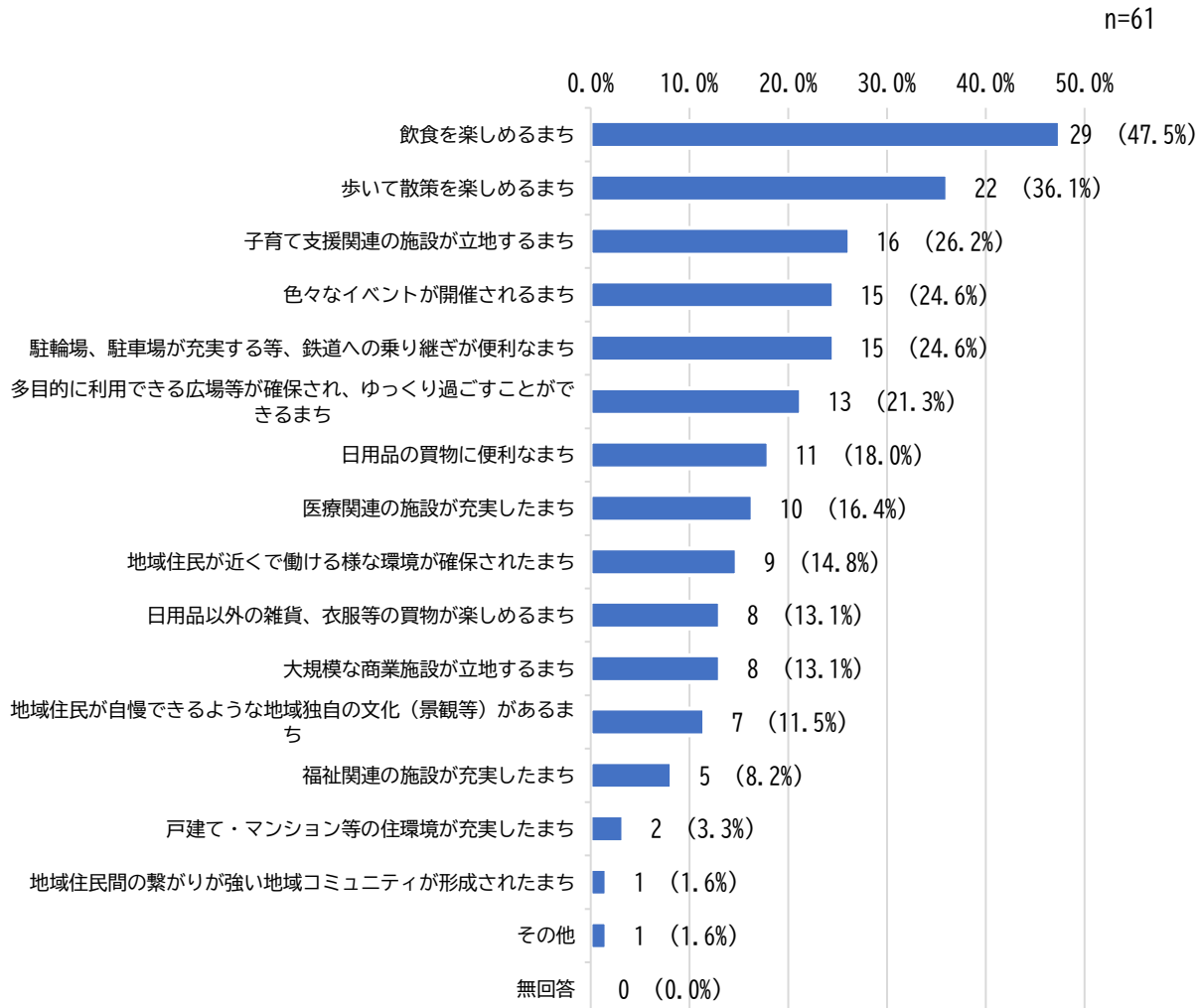
▼武豊中央公園周辺に必要なまちづくり



【問3-1】名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺で、「都市拠点※1」として目指すまちのイメージ（3つまで回答）

■「飲食を楽しめるまち」は約48%と最も割合が高く、次いで「歩いて散策を楽しめるまち」が約36%となっています。

▼名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺の目指すまちのイメージ



用語解説

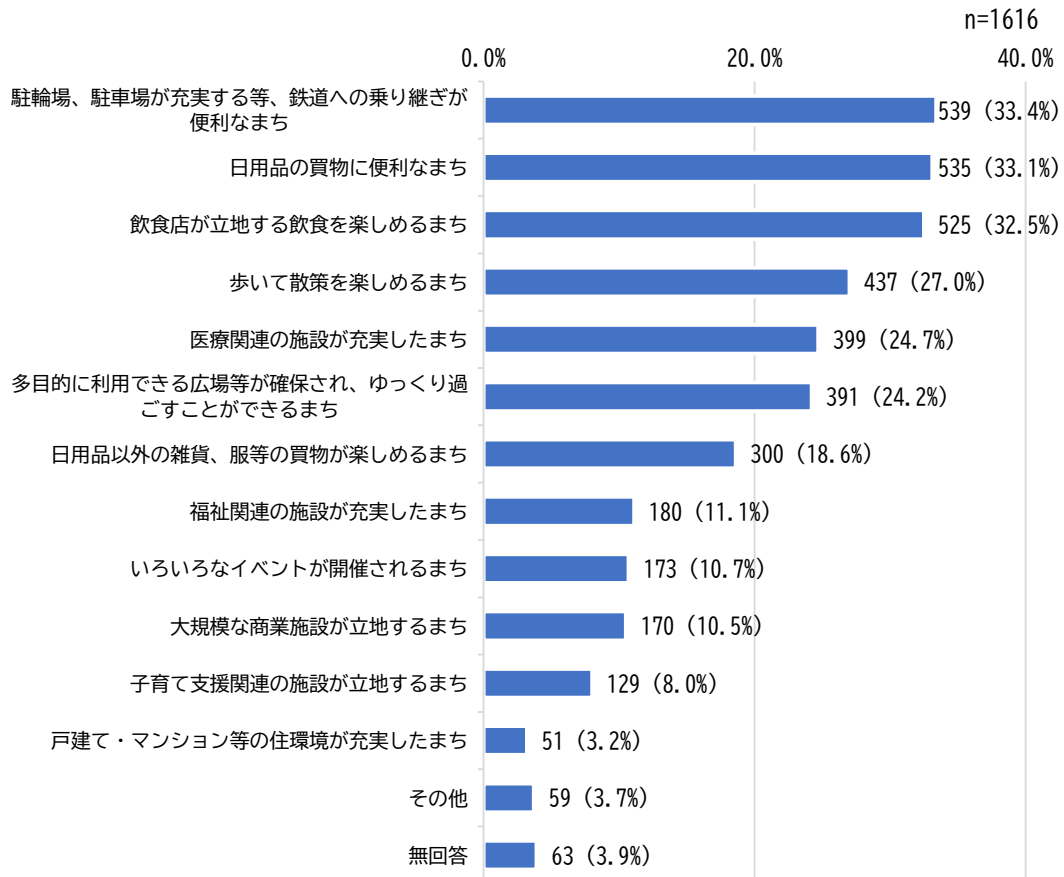
※1 都市拠点：1頁参照

④町全域アンケート調査

【問12】名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺の将来の姿（3つまで回答）

■将来の駅周辺のまちの姿について、回答の割合が30%以上の項目として、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」「日用品の買物に便利なまち」「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」となっています。特に、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」の割合が約33%と最も高くなっています。

▼将来の駅周辺の姿



名鉄知多武豊駅西グランドデザイン

2023（令和5）年3月

編集：武豊町役場 企画部 企画政策課

〒470-2392

愛知県知多郡武豊町字長尾山2番地

TEL 0569-72-1111（代表）

E-mail kikaku@town.taketoyo.lg.jp

HP <https://www.town.taketoyo.lg.jp/>

Twitter https://twitter.com/taketoyo_machi



TAKETOYO